

文学

講師: 村瀬 木綿子

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

明治時代に発表された田山花袋『少女病』、夏目漱石『三四郎』、森鷗外『雁』を題材に、物語内容や表現の深層を理解し、また日本の近代という時代との関連を学んでいく。さらに、こうした学習を通して、文学作品という素材をもとに、ものの考え方や見方を身につけていく。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	明治という時代と明治の文体について理解できる。	講義	受講上の注意を確認し、テキストとノートを用意する。
2	作者 田山花袋と作品全体の構成について理解できる。	講義	作品のあらすじをまとめ、作品を整理する。
3	交通網の発達や女学生の登場と作品の関係について理解できる。	講義	作品全体を読み込む。
4	自然主義と作品の関係について理解できる。	講義	わからないところがないか確認する。
5	作者 夏目漱石と作品全体の構成について理解できる。	講義	作品のあらすじをまとめ作品を整理する。
6	作品の整理と登場人物の人間関係について詳しく理解できる。	講義	第4章まで必ず読み終える。
7	小説の「語り」や物語冒頭の意味を理解できる。	講義	第6章まで必ず読み終える。
8	三四郎と美禰子の関係について理解できる。	講義	第10章まで必ず読み終える。
9	「ストレイ・シープ」の謎について理解できる。	講義	最終章まで必ず読み終える。
10	「新しい女」について理解できる。	講義	わからないところがないか確認し、これまでの授業のまとめをする。
11	作者 森鷗外と作品全体の構成について理解できる。	講義	作品のあらすじをまとめ作品を整理する。
12	お玉を巡る男性達について理解できる。	講義	第17章まで読み終える。
13	お玉の心情の変化と蛇退治について理解できる。	講義	最終章まで読み終える。
14	女性をめぐる社会状況と作品との関係について理解できる。	講義	わからないところがないか確認し、これまでの授業のまとめをする。
15	終講試験およびまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

私語は絶対にしない。
授業では毎回テキストを使用するので必ず持つてくる。

■成績評価の方法

終講試験(100%)

■テキスト参考書など

夏目漱石『三四郎』(集英社文庫)
森鷗外『雁』(新潮文庫)

■備考

資料プリントは適宜配布する。

■実務経験

倫理学

講師: 上山 敬補

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

理学療法士協会、作業療法士協会、診療放射線技師会、言語聴覚士協会が、それぞれ定める「倫理綱領」は「人びとを普遍的に尊重すること」をもれなく求めています。具体的には、「医療を求める人びと(患者)の尊厳を守ること、対等な人格として敬い、誠実に対応し、虚偽を排し、プライバシーを守ること」や、「個人の人権を尊重し、思想、信条、社会的地位等によって個人を差別することをしない」などを求めています。この講義を受ける多くの方は、このような綱領に従うことを医療従事者として、あるいは人間として当然であると直観的に思うかもしれませんが。しかし本講義は、なぜ人間がそのような直観を持ち得るのかも考えながら、そのような直観を超えて、なぜ尊重すべきなのかを、諸哲学者の主張、あるいは人間の能力、歴史を踏まえて、受講者が深く理解し、「人間は普遍的に他者を尊重すべき存在である」という確信を得られることを目指します。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	哲学とは何か、哲学が求められてきた理由を理解できる。	講義	レポートの提出
2	倫理学とは何か、倫理学が求められてきた理由を理解できる。	講義	レポートの提出
3	科学が誕生したことによるメリットとデメリットを理解できる。	講義	レポートの提出
4	倫理学と現在の私たちとのつながりを理解できる。	講義	レポートの提出
5	メタ倫理学と実質的倫理学について理解できる。	講義	レポートの提出
6	倫理的主観主義の問題点を理解できる。	講義	レポートの提出
7	伝統や習慣にただ従うことの問題点を人間の性質から理解できる。	講義	レポートの提出
8	自己利益をただ求めることが自然だとする考えの誤りを理解できる。	講義	レポートの提出
9	真に自由な話し合いを行うことの意義を理解できる。	講義	レポートの提出
10	自己利益をただ追及すべきとする考えと他者を尊重すべきとする考えとの根本的な不整合を理解できる。	講義	レポートの提出
11	他者を尊重すべき理由を人間の歴史、能力を踏まえながら理解できる。	講義	レポートの提出
12	功利主義を理解できる。	講義	レポートの提出
13	自由至上主義を理解できる。	講義	レポートの提出
14	J. ロールズの正義論を理解できる。	講義	レポートの提出
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

私語はしないこと。
授業中に書くレポートを毎回提出すること。ノートをしっかりとする。

■成績評価の方法

授業中のレポート(25%)、終講試験(75%)により総合的に評価します。

■テキスト参考書など

テキストは使用しませんが、参考書として以下のものをあげておきます。
リチャード・ノーマン『道徳の哲学者たち』ナカニシヤ出版

■備考

資料プリントは授業時に適宜配布します。

■実務経験

心理学

講師:小窪 輝吉

単位数:2単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

本講義は心理学の基礎的な領域の知識と理論について講義する。

心理学の基礎(脳と心, 知覚, 学習, 記憶, 動機づけなど), 発達心理学, 心理検査, 臨床心理学, 社会心理学を通して心理学の概要について理解できることを目指す。受講者のみなさんが、心理学について親しみ、かつその概要について理解し、自らの日常行動についての理解を深め、自分を含めた対人社会環境への適応に役立てるようになることを授業の目標とする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	「心理学とは何か」心理学の定義と研究方法および心理学の歴史を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
2	「脳と心」脳の仕組み(神経系, 脳の構造と働き)と脳と心の関係(神経心理学)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
3	「感覚と知覚」感覚と知覚の特徴(閾値, 錯視, 恒常性, トップダウン処理など)を理解できる	講義	ミニレポートの提出
4	「学習と記憶」学習の仕組み(オペラント条件付け, レスポンド条件付け, 観察学習など)と記憶の働き(ワーキングメモリー, 忘却, 効果的な記憶法など)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
5	「感情と動機づけ」感情(情動, 感情の理論)と動機づけ(生理的動機, 内発的動機, 社会的動機, 動機づけの理論など)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
6	「発達1 乳幼児期の発達と発達理論」乳幼児期の発達の姿と発達理論(ピアジェの発達理論, 心の理論など)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
7	「発達2 青年期と老年期」青年期の心理的特徴(自我同一性の確立など)と老年期の心理的特徴(加齢と知能, 認知症など)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
8	「心理検査」代表的な個人差要因を測定する知能検査(知能指数, ビネーの知能検査, ウェクスラーの知能検査)とパーソナリティ検査(質問紙法, 作業検査法, 投影法)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
9	「ストレスと健康」ストレスと健康の関係(ストレス因, ストレス反応, バーンアウト, 心理学的ストレスモデル, コーピングなど)を理解できる	講義	ミニレポートの提出
10	「心理療法1 精神分析療法」心理療法の歩みと精神分析療法(フロイト, 自由連想法, イド, 自我, 超自我など)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
11	「心理療法2 認知行動療法とパーソンセンタード療法」認知行動療法(行動療法, 認知療法)とパーソンセンタード療法(ロジャーズ, エンカウンターグループなど)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
12	「社会的認知」社会的認知の特徴(スキーマ, ステレオタイプ, ヒューリスティック, プライミングなど)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
13	「集団行動の心理学」集団行動の特徴(社会的促進, 社会的手抜き)とリーダーシップ理論(リーダーシップPM理論, サーバント・リーダーシップなど)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
14	「群衆行動の心理学」群衆行動の特徴(ルボンの群衆心理, モップ, パニック)と群衆の理論(感染説, 収れん説, 没個性化説など)を理解できる。	講義	ミニレポートの提出
15	終講試験とまとめ		筆記試験

■受講上の注意

ミニレポートは、講義の終わりに示したテーマについて200字以内で書いてもらいます。

■成績評価の方法

ミニレポート(14回)28点+終講試験72点=100点

■テキスト参考書など

テキストは指定しません。配布資料をもとに講義します。

■備考

質問等がある場合は、trkokubo@gmail.comにメールしてください。

■実務経験

社会学

講師: 佐野 正彦、中村 幸子

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

社会と人間の相互反映の関係性を理解する。つまり、人間は社会に生み落とされ、他者とともに生きることによって社会的存在になり得ると同時に、社会は人間によって構成されていくことを理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	授業の進め方について、社会学の対象の複雑性を理解する	講義質疑・応答	配布プリントに注目してください。次回以降、次に行う授業内容をテキストに基づいて指示しますので、予習してください。
2	社会学というディシプリン(学科)の特徴を理解する	講義	テキストの予習を行うこと。野生児とはどのような存在なのかを理解する。
3	社会的存在としての人間	講義質疑・応答	テキストの予習を行うこと。人間と動物の違いを考えよう。
4	本能と文化(1)ー人間中心主義的人間規定	講義	テキストの予習を行うこと。人間は優越しており、動物は劣等だろうか。
5	本能と文化(2)ー欠陥生物としての人間	講義小テスト	テキストの復習を行うこと。社会と人間の間関係を理解する。
6	文化の拘束性とエスノセントリズム(自民族中心主義)	講義	テキストの予習を行うこと。
7	制度とは何か	講義	テキストの予習を行うこと。ホブズの「万人の万人に対する闘争」と(現代)に連なる(近代)という時代性を理解する。
8	制度と社会秩序	講義質疑・応答	テキストの予習を行うこと。私たちの社会にはなぜ秩序が成立しうなのかを考える。
9	制度の諸特徴	講義質疑・応答	テキストの予習を行うこと。制度のもつ強制力・道徳的権威・外在性・客観性などの諸特徴を理解する。
10	制度とサンクション(制裁と賞賛)	講義小テスト	テキストの復習を行うこと。サンクションの働きとその両義性を理解する。
11	社会化(1)ーメンバーシップを獲得すること	講義	テキストの予習を行うこと。社会化(socialization)という概念を理解する。
12	社会化(2)ー文化的世界としての社会	講義質疑・応答	テキストの予習を行うこと。socializationとはenculturation(文化を獲得すること)でもあることを理解する。
13	社会化(3)ー他者という「鏡」と自我の形成	講義質疑・応答	テキストの予習を行うこと。クーリーの「鏡のなかの自己」とミードの「役割取得」の考え方を理解する。
14	近代家族と現代家族	講義	テキストの予習を行うこと。
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

継続的に私語をすることはやめて欲しいと思います。事前事後の予習と復習に努めて欲しいと思います。

■成績評価の方法

終講試験により評価する。

■テキスト参考書など

テキスト: 張江洋直ほか『リアリティの社会学』八千代出版参考書などは授業の中で指示します。

■備考

質問のある方は授業中に直接尋ねてもかまいませんし、授業の初めに指示するメール・アドレスを用いて尋ねてもらってもかまいません。

■実務経験

物理学

講師：河南 勝

単位数：2単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

1. 理学療法士や作業療法士として必要な物理学に関する知識が得られる。
2. 皮膚や筋肉、骨など体に掛る力を理解し、生体力学的理解を深められる。
3. 物理学の学習を通して、科学的、論理的な考え方をやしなうことができる。
4. 医療の検査や治療に使われている機器の物理的原理を理解できるようになる。
5. 国家試験に出題される物理関係の問題に解答できるようになる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	物理学では数式を使って議論が進む。従って、数式を使った計算の仕方から学ぶ。有効数字や指数の計算が出来る。	講義・演習	何故物理学を学ぶ必要があるかが序章を読んで理解しておくこと。単位に関する宿題が出る。
2	物理量は数値と単位からなる。ベクトルを理解し、力の分解や合成の仕方ができる。筋肉や骨にかかる力を計算する。	講義・演習	単位と力の合成と分解の宿題を出す。
3	物理的な物の位置の表し方を理解し、物の位置や速度、加速度の物理的な表し方が出来る。微分や積分などができる。	講義・演習	物の位置の時間変化から速度、加速度の計算をする宿題がある。
4	様々な物理的な力、即ち、重力、張力、垂直抗力、摩擦力、弾性力、圧力について理解できるようになる。	講義・演習	力に関する宿題が出される。
5	力のつり合いと運動の法則が分かるようになる。ニュートンの運動法則を理解できるようになる。物体の重心や力のモーメントについての知識を身に着ける。「卵を立てられるか」重心と安定な姿勢	講義・演習	国家試験の過去の問題を解けるように関連する問題を宿題として出す。
6	物体の重心や回転運動について知り、力のモーメントについての知識を身に着ける。国家試験の問題は特にこの分野での出題が多いので演習をしっかりと行い、国家試験の問題に解答できるようになる。この週は特に重要。	講義・演習	国家試験の過去の問題を解けるように演習を宿題として出す。過去の国家試験の問題の調べ方を知る。
7	運動量と物理的な仕事やエネルギーを学び、力学的なエネルギー保存法則が理解できるようになる。	講義・演習	出された宿題だけでなく過去の国家試験の問題を調べてくる。
8	温度と熱の法則を知り、温熱療法や熱治療でのやり方が理解できるようになる。地球規模での熱のやり取り、風や海流についても考える。	講義・演習	熱を利用した治療にはどのようなものが在るか調べる。
9	波の運動を学び次章の音や光の基礎として振動の数学的な表し方が出来るようになる。波の重ね合わせの原理。光の直進性、屈折、回折、干渉などが説明できる	講義・演習	波の数学的表し方の理解は、次章の音と光の勉強に不可欠の知識だ。
10	音と光の波の性質を学び、光の強さと距離の関係などが理解できるようになる。光の強さの逆2乗則やランバートの余弦法則を理解できる。	講義・演習	この章に関する問題も国家試験によく出されているので、関連した宿題が出る。
11	原子の構造と核分裂や放射線の種類を学び、医療機器で使われる様々な放射線の違いを理解できる。	講義・演習	身の回りにある電気製品のみならず医療機器も電気の正しい知識で理解する習慣をつけてほしい。
12	宇宙ロケットについて学ぶ。脱出速度、磁気と電流の関係を学び、医療機器の働きを知り、正しく取り扱えるようになる。	講義・演習	医療の検査機器や治療機器で物理学の原理を利用したものにはどんなものがあるか調べると物理に対する興味も深まる。
13	電気と力、電場や電位を理解する。電流と抵抗について学び、医療で使われる電子機器についての理解を深めることが出来る。生体に起こる電氣的な刺激が生体の運動ともつながることを理解できる。	講義・演習	
14	再度、原子の構造と核分裂や放射線の種類を学び、医療機器で使われる様々な放射線の違いを理解できる。国家試験で過去に出された問題を解くことによって、どのように問題を解けばいいかを具体的に詳しく学ぶ。	講義・演習	国家試験の物理関連の過去問を自分で調べておくことが望ましい。
15	終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

1. 授業はパワーポイントを使って行われる。
2. 授業内容の理解のために学ぶ内容が前後する場合もある。
3. 授業中に分からないことは必ず質問をする。

■成績評価の方法

筆記試験(85%)及び平常点(宿題など)(15%)

■テキスト参考書など

「PT・OTゼロからの物理学」望月久、棚橋信雄編(羊土社)

■備考

教科書の表題にある「ゼロからの」とは初めて物理を学ぶ人にも、勉強が苦手だった人にもわかるようにとの願いが込められた教科書として編集されている。授業は出来るだけ全員がその場で理解できるように進めていくので、分からないことは授業中に必ず質問をしてほしい。

■実務経験

■科目目標

「法学」などと聞くと堅苦しくて難解で、自分とは縁遠いもののように感じるかもしれませんが、しかし、モノやサービスを買ったり(売買契約)、アルバイトをしたり(雇用契約)、勉強したり(教育を受ける権利)、誰かを好きになって将来を誓ったり(婚約・婚姻)など、私たちは常に法と関わって暮らしています。私たちが見聞きすること、解決すべき問題の多くは、実は法的な問題なのです。そして個別問題の背後には、いつも一般的な原理・原則が隠れています。例えばどんな凶悪な犯罪者でも、〇〇容疑者・被告人などと呼ばれます。無情な犯人をなぜ呼び捨てにしないのか。そこには、裁判で有罪が確定するまでは、どんな人間も無罪と推定するという刑事法上の原則が働いているからです。法の目的は正義の実現にあるといわれます。自分や他人の権利・利益を守るために、正義を目指す法の問題を考えていってほしいものです。授業ではできるだけ具体例(裁判例)を利用して進める予定です。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	「法とは何か」をテーマとします。まず、法の定義、法の分類、裁判の意味と裁判制度について学び、授業で扱う「法」のイメージを確認します。その上で、あらゆる法令の基本である日本国憲法について、立憲主義や3つの基本原理について学び、理解します。	講義	関連するテキストの章に事前に目を通してくる。
2	「家庭生活と法」をテーマとします。まず、日本国憲法が定めている家庭生活における法の基本原則を理解し、それを前提にして、「親子関係と法」に係わる制度やルールの概要(嫡出子・婚外子という実親子関係と、普通養子・特別養子という養親子関係など)について学び、理解します。	講義	関連するテキストの章に事前に目を通してくる。
3	「家庭生活と法」をテーマとした第2回目として、「夫婦関係と法」に係わる制度やルールの概要(婚約、婚姻の条件や法律的効果、離婚の種類や離婚原因など)について学び、理解します。	講義	関連するテキストの章に事前に目を通してくる。
4	「家庭生活と法」をテーマとした第3回目として、「相続と法」に係わる制度やルールの概要(法定相続や遺言による相続など)について学びます。	講義	関連するテキストの章に事前に目を通してくる。
5	「犯罪・刑罰と法」をテーマとします。まず、「犯罪」とは何かを理解し、刑事法の最も重要な基本的原則としての罪刑法定主義や、違法性阻却などについて学び、理解します。	講義	関連するテキストの章に事前に目を通してくる。
6	「犯罪・刑罰と法」をテーマとした第2回目として、日本国憲法が詳細に定めている刑事手続きにおける人権保障(適正手続の保障、逮捕の諸原則、刑事被告人の諸権利など)について学び、理解します。また、近年議論になることの多い「少年事件」に係わる制度や原則についても学び、理解します。	講義	関連するテキストの章に事前に目を通してくる。
7	「生活・労働と法」をテーマとします。まず、日本国憲法が定める社会権(生存権・教育を受ける権利・勤労研・労働基本権)の概要を理解し、労働に係わる諸権利や制度(労働基本権、労働三法、不当労働行為、労働条件の基礎知識など)について学び、理解します。	講義	関連するテキストの章に事前に目を通してくる。
8	「生活・労働と法」をテーマとした第2回目として、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、働き方改革法など働く人々を保護するための諸制度について学び、理解します。	講義	関連するテキストの章に事前に目を通してくる。
9	これまでの前半の授業内容を確認し、見直すための模擬テストを実施します。「消費生活と法」をテーマとします。まず、近年の消費者被害の動向の概観、成年年齢の引下げの意味、消費者に係わる法制度を学ぶことの重要性について理解を進めます。	講義	模擬テストは成績には影響しません。 関連するテキストの章や配付資料に目を通してくる。
10	「消費生活と法」をテーマとした第2回目として、すべての消費者取引の基本である「契約」について、「消費者契約」を素材に、契約制度の概要や原則、悪質な契約から逃れるための知識について学び、理解します。	講義	関連するテキストの章に事前に目を通してくる。
11	「消費生活と法」をテーマとした第3回目として、消費者を守るための「消費者契約」に係わる消費者保護の法律制度(悪質商法の事例に対応した消費者の取消権、クーリング・オフの制度など)について学び、理解します。	講義	関連するテキストの章に事前に目を通してくる。
12	「教育と法」をテーマとします。日本国憲法が保障する「教育を受ける権利」の意味を理解し、教科書無償化、教科書裁判と学習権、校則と子どもの権利、教育基本法、教育勸励問題など、教育に係わる近年の動向を知り、理解します。	講義	関連するテキストの章に事前に目を通してくる。
13	「情報と法」をテーマとします。国民の知る権利とその根拠・性格、マスコミと知る権利、情報公開制度などについて学び、理解します。	講義	関連するテキストの章に事前に目を通してくる。
14	「国際関係と法」をテーマとします。「戦争の抑止」を目的に生み出されてきた国際法とは何か、その構造と特殊な性格を学び、理解します。これまでの後半の授業内容を確認し、見直すための模擬テストを実施します。	講義	事前配布資料に目を通してくる。 模擬テストは成績には影響しない。 関連するテキストの章や配付資料に目を通してくる。
15	期末テスト・まとめを実施します。	筆記試験	

■受講上の注意

授業の内容に関するテキストの項目を事前に読んできてください。また、授業終了後には、テキストと配付資料を見直して、授業の内容を再確認してください。分からないことがあれば、遠慮なく質問してください。

■成績評価の方法

期末試験により評価します。

■テキスト参考書など

平野武・平野鷹子・平野潤『私たちと法〔4訂版〕』法律文化社

■備考

■実務経験

情報科学

講師:池堂 優露

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

作業療法士としてのみならず、社会生活を送るうえで必要な「情報」に関する知識を教授します。
「情報科学的理解」:情報科学およびコンピューターなどシステムの原理について基本概念を学びます。
「情報利用・活用の実践」:情報リテラシーの道具としての情報機器やシステムを利用する方法を学びます。
「情報化社会に参画する態度」:情報技術が我々の生活や社会に与える影響を扱う際のモラル・倫理について学びます。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	「情報の科学的理解」	講義	
2	「仕事」のすすめ方	講義	
3	「情報利用・活用の実践」コンピューターの仕組みと操作	講義	
4	コンピューターによる情報の収集および交換	講義	
5	コンピューターによる文章作成	講義	
6	コンピューターによる集計	講義	
7	コンピューターを利用したプレゼンテーション	講義	
8	夏休み課題へのオリエンテーション	講義	
9	文献検索・収集・利用の方法 統計処理の基礎(1)	講義	
10	統計処理の基礎(2)	講義	
11	「情報化社会に参画する態度」 情報化社会について理解	講義	
12	情報モラル・情報発信の責任についての理解	講義	
13	個人情報保護法について情報社会への積極的な参加と貢献する態度	講義	
14	情報社会への積極的な参加と貢献する態度	講義	
15	試験・解説	講義	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

繰り返して慣れる! Word&Excel2013 練習問題全329題 ノア出版

■備考

■実務経験

日常英語

講師:後藤 育子

単位数:2単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

読む、聞く、書く、話すの言語の4技能を統合的に活用しながら英語の基礎を学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	授業のねらい	講義	課題レポートの提出
2	Unit 1 Welcome to the "Big Apple" 現在形 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
3	Unit 2 What's the Boss Like? 代名詞 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
4	Unit 3 Masa's First Day on the Job 前置詞 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
5	Unit 4 Summer Fun 過去形 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
6	Unit 5 Hotel Guest Satisfaction 可算名詞・不可算名詞 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
7	Unit 6 Brainstorming 進行形 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
8	Unit 7 Glad to Be of Service WH疑問文 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
9	Unit 9 Vacation Spots 未来形 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
10	Unit 10 Sports Talk 比較級・最上級 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
11	Unit 11 Tour Day 助動詞 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
12	Unit 13 Office Meeting 関係詞 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
13	Unit 15 Farewell, Masa and Lucy 接続詞 について学ぶ	講義	課題レポートの提出
14	まとめと振り返り	講義	課題レポートの提出
15	期末試験およびまとめ	筆記試験	これまでに習得した学習内容を、的確に復元できるように努力する

■受講上の注意

私語はしないこと。事前準備、講義の予習をしてくること。忘れ物がないようにし、主体的に講義に臨むこと。

■成績評価の方法

定期試験70%、平常点30%(出席状況、授業態度、課題)

■テキスト参考書など

English Missions! Basic ミッション型 大学英語の総合演習:基礎編

■備考

準備物品:①教科書、②ノート、③辞書(冊子、電子どちらでも可。ただし、スマートフォンの辞書機能は不可)

■実務経験

保健体育

講師: 廣田 大悟、寺前 重幸

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

バレーボール及びバスケットボールの基本的な動きを身につける。さらに、スポーツを通じて、コミュニケーション能力の向上やストレスの軽減を図り、日常生活の中で、運動をする習慣を身につける。また、健康について考え、理解し、健康的な生活を送れるようになる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	科目目標をしっかりと理解し、バレーボール及びバスケットボールのルールをしっかりと理解できる。	講義・実技	教室でガイダンスを行い、体育館へ移動するの で、体育ができる服装に着替えてから、教室で 待機する。
2	パス及びサーブができる。(バレーボール)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
3	ゲームでの一連の動きができる。(バレーボール)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
4	パス・ドリブル及びシュートができる。(バスケットボール)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
5	ゲームでの一連の動きができる。(バスケットボール)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
6	自分たちで競技を選び実施できる。(選択競技)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
7	自分たちで競技を選び実施できる。(選択競技)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
8	自分たちで競技を選び実施できる。(選択競技)	実技	体育ができる服装・シューズを準備する。
9	健康の成り立ち・すがたについて理解できる。	講義	事前にプリントを配布するので、講義までに読んで おく。
10	生活習慣病及び食育について理解できる。	講義	事前にプリントを配布するので、講義までに読んで おく。
11	運動、休養及び喫煙と健康への影響について理解できる。	講義	事前にプリントを配布するので、講義までに読んで おく。
12	飲酒及び薬物乱用の健康への影響について理解できる。	講義	事前にプリントを配布するので、講義までに読んで おく。
13	感染症と応急手当について理解できる。	講義	事前にプリントを配布するので、講義までに読んで おく。
14	心の健康について理解できる。	講義	事前にプリントを配布するので、講義までに読んで おく。
15	授業の総括と終講試験	講義筆記試験	

■受講上の注意

運動できる服装及び体育館用運動シューズを用意すること。
忘れ物の無いようにし、規範意識を持ち、積極的に講義に臨むこと。

■成績評価の方法

平常点(30%)、実技点(30%)、試験(40%)により、総合的に評価する。

■テキスト参考書など

必要な場合は、適宜プリントを配布する。

■備考

■実務経験

解剖学 I

講師: 上川 善昭

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

解剖学はものの形を究める形態学の一分野である。まず人体を構成する諸要素について肉眼解剖学的にこれを把握するようにし、その中の主要なものについては、さらに顕微鏡レベルでの理解も出来るように努める。これら、形態的な理解の上に、それぞれの人体の構成要素がどのような機能を営んでいるかを理解できるようにする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	医学の歴史と解剖学について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
2	解剖学について、解剖学の用語について、細胞について、細胞小器官について理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
3	上皮組織を知る	講義	講義資料、教科書を熟読すること
4	上皮組織、結合支持組織を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
5	結合支持組織を知る	講義	講義資料、教科書を熟読すること
6	結合支持組織を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
7	筋組織を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
8	神経組織を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
9	循環器系1を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
10	循環器系2を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
11	消化器系1を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
12	消化器系2を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
13	消化器系3を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
14	呼吸器系を理解する	講義	講義資料、教科書を熟読すること
15	試験 解説	講義	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

廣川書店: PT・OT・STのための解剖学

■備考

■実務経験

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である。

解剖学Ⅱ

講師: 上川 善昭

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

解剖学はものの形を究める形態学の一分野である。まず、人体を構成する諸要素について肉眼解剖学的にこれを把握するようにし、その中の主要なものについては、さらに顕微鏡レベルでの理解もできるように努める。これら、形態的な理解の上に、それぞれの人体の構成要素がどのような機能を営んでいるかを理解できるようにする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	泌尿器系を理解する。	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
2	泌尿器系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
3	男性生殖器系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
4	女性生殖器系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
5	女性生殖器系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
6	内分泌系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
7	内分泌系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
8	内分泌系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
9	中枢神経系と末梢神経系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
10	中枢神経系と末梢神経系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
11	中枢神経系と末梢神経系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
12	中枢神経系と末梢神経系を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
13	感覚器系①を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
14	感覚器系②を理解する	講義	講義資料と教科書を事前に熟読しておく
15	試験・解説	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

廣川書店: PT・OT・STのための解剖学

■備考

■実務経験

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である。

解剖学Ⅲ

講師:津山 新一郎

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

ヒトの身体の解剖学的・全体的理解は解剖学一般の講義で出来ているので、その中でもPT、OTのセラピストとしてなじみの深い部分(特に上下肢)を更に深く理解するため、神経系との関係に力点を置き、それを支える脈管系についても学習をする。運動を支える関節構造の理解と各関節運動に関わる骨格、筋、支配神経を、個々に骨格系、筋系、神経系として理解するのではなく、人体の運動という視点から骨格、関節構造、筋運動、支配神経、灌流血管等を総合的に把握・理解する目的とする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	【第1回】骨格・筋系、関節学概論	講義	講義資料、教科書を熟読すること
2	【第2回】肩関節:軸骨格と肩の骨格・筋・靭帯・神経・血管	講義	講義資料、教科書を熟読すること
3	【第3回】肘関節:①骨格・靭帯・血管	講義	講義資料、教科書を熟読すること
4	【第4回】肘関節:②筋・神経・関節運動	講義	講義資料、教科書を熟読すること
5	【第5回】前腕部:前面の筋・神経	講義	講義資料、教科書を熟読すること
6	【第6回】前腕部:後面の筋・神経	講義	講義資料、教科書を熟読すること
7	【第7回】手・手根中手関節:骨格・靭帯・血管	講義	講義資料、教科書を熟読すること
8	【第8回】手:手掌・手背の筋・神経	講義	講義資料、教科書を熟読すること
9	【第9回】股関節:骨格・靭帯・血管	講義	講義資料、教科書を熟読すること
10	【第10回】股関節:筋・神経①、②、大腿の筋・神経	講義	講義資料、教科書を熟読すること
11	【第11回】膝関節:骨格・靭帯・血管①	講義	講義資料、教科書を熟読すること
12	【第12回】膝関節:筋・血管②、足関節概要	講義	講義資料、教科書を熟読すること
13	【第13回】足・距骨下関節:骨格・靭帯・血管、下腿・足の筋・神経	講義	講義資料、教科書を熟読すること
14	【第14回】上下肢の比較、総括	講義	講義資料、教科書を熟読すること
15	【第15回】試験 解説	講義	

■受講上の注意

講義とパソコン等の資格教材および模型等の観察、スケッチ等により実体的理解を目指す。

■成績評価の方法

毎回の出席、小テスト、レポート等および終講試験を総合的に評価する。

■テキスト参考書など

廣川書店:PI・UI・SIのための解剖学
講談社:カラー図解 新しい人体の教科書 上・下
医学教育出版社:解剖学トレーニング 竹内修二

■備考

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

解剖学Ⅳ

講師: 藤田 賢太郎

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

解剖学はものの形を究める形態学の一分野である。まず人体を構成する諸要素について肉眼解剖学的にこれを把握するようにし、その中の主要なものについては、さらに顕微鏡レベルでの理解も出来るように努める。これら、形態的な理解の上に、それぞれの人体の構成要素がどのような機能を営んでいるかを理解できるようにする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	ガイダンス ヒトの構成単位である細胞の仕組みと働き、骨、筋、組織	講義	
2	多彩な情報を得る感覚器系の仕組みと働き(視覚情報)	講義	
3	多彩な情報を得る感覚器系の仕組みと働き(聴覚、平衡器官)	講義	
4	中枢神経、末梢神経の構成(総論)	講義	
5	脳神経	講義	
6	脳神経	講義	
7	脳神経	講義	
8	自律神経系	講義	
9	自律神経系	講義	
10	自律神経系	講義	
11	中間考査と解説	筆記試験	
12	脊髄神経	講義	
13	脊髄神経	講義	
14	脊髄神経	講義	
15	筆記試験と解説	試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

前半、後半部に分け、2名の担当者と50%ずつの配点とする。

主に筆記試験により評価を行う。

上記を総合的に判断し、60点を及第点とする。

■テキスト参考書など

竹内修一: 解剖学トレーニングノート、医学教育出版社

渡辺正仁: PT・OT・STのための解剖学、廣川書店

病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版、メディックメディア

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

生理学 I

講師:川島 清美

単位数:2単位

時間数:60時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

生理学は健全な人体の働きを扱う学問である。しかし、医療従事者が臨床の場において接する患者は何らかの疾病を有している。これら種々の疾病を持つ患者の生理作用を理解するには、まず健全な人体の生理学を修得する必要がある。各臓器の正常な働きを知った上でなければ、その働きが正常でなくなった患者の生理学を理解することは出来ない。このような見地から、健全な人体の生理学を教授しながら、どの臓器がどのように障害されると、どのような症状が出現するのかといった臨床に即した病態生理学についても解説する。生理学は基礎科目に含まれるが、永年の臨床経験に基づいて臨床に役立つ生理学を講義する予定である。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	生命現象と人体について理解する。生理学・病態生理とは何かを理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
2	人体におけるエネルギー産生、水、浸透圧、等張液などについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
3	細胞の構造と機能・受容体・チャネル、ポンプについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
4	DNA・RNA・細胞内小器官・静止電位を理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
5	末梢神経の種類、神経の分類、興奮の伝導について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
6	脳神経・脊髄神経、神経線維の分類と種類を理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
7	自律神経、交感神経、副交感神経およびシナプスの働きを理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
8	交感神経刺激症状、副交感神経刺激症状を理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
9	シナプス前抑制、シナプス後抑制について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
10	中枢神経系・脊髄と脳、灰白質と白質、脊髄の上行路と下行路を理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
11	脊髄反射・伸張反射、I b抑制について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
12	自律神経反射、脳幹、延髄、橋の機能について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
13	脳死判定、対光反射、網様体賦活系について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
14	小脳、間脳、視床下部の働きについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
15	大脳皮質、前頭葉、頭頂葉の働きについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
16	側頭葉、高次脳機能および高次脳機能障害、脳波、睡眠の分類、大脳基底核、辺縁系、脳脊髄液を理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
17	筋と骨、筋の分類、骨格筋の興奮収縮について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
18	筋電図、心筋、平滑筋、骨の構造について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
19	骨粗鬆症、感覚、weberの法則、体性感覚について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
20	内臓感覚、内臓痛覚、視覚・杆体細胞・錐体細胞、遠近調整について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
21	眼球運動、反射、聴覚の働きについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること

22	味覚、嗅覚の働きについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
23	血液の機能・赤血球の新生と破壊について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
24	黄疸、鉄の再利用、貧血、白血球、顆粒球の分類について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
25	生体防御、非特異的防御機構、特異的防御機構、血小板について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
26	血液凝固のメカニズム、線溶、血漿、電解質、心臓と循環、刺激伝導系について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
27	心電図、不整脈、心室性期外収縮、血圧について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
28	血圧測定、心周期、心音、心雑音について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
29	圧容関係、前負荷、後負荷、血圧調整、血管収縮神経について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
30	試験 解説	試験	

■受講上の注意

私語を慎むこと。予習をして授業に臨むこと。

■成績評価の方法

出席状況、日常の授業態度、筆記試験の成績等を総合的に判断して評価する。

■テキスト参考書など

標準理学療法学・作業療法学生理学第4版医学書院を使用する。さらに授業中には講義内容とスライドをまとめたプリントを配布して知識の整理を図る。

■備考

■実務経験

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である。

生理学Ⅱ

講師:川島 清美

単位数:2単位

時間数:60時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

生理学は健全な人体の働きを扱う学問である。しかし、医療従事者が臨床の場において接する患者は何らかの疾病を有している。これら種々の疾病を持つ患者の生理作用を理解するには、まず健全な人体の生理学を修得する必要がある。各臓器の正常な働きを知った上でなければ、その働きが正常でなくなった患者の生理学を理解することは出来ない。このような見地から、健全な人体の生理学を教授しながら、どの臓器がどのように障害されると、どのような症状が出現するのかといった臨床に即した病態生理学についても解説する。生理学は基礎科目に含まれるが、永年の臨床経験に基づいて臨床に役立つ生理学を講義する予定である。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	血圧調整、血管収縮神経、微小循環について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
2	静脈環流、冠循環、肺循環、リンパ流について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
3	呼吸とガス運搬、呼吸運動、換気障害について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
4	呼吸気量、ガス交換とガス運搬、呼吸調整について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
5	尿の生成と排泄、腎の構造、尿細管の機能について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
6	集合管、ADH、アルドステロン、クリアランス、eGFRについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
7	排尿蓄尿反射、排尿反射、排尿異常、尿失禁、酸塩基平衡について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
8	消化と吸収、嚥下、食道、胃の消化について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
9	胃底腺と胃液、胃における消化について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
10	十二指腸における消化、膵液、胆汁の働きについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
11	空腸・回腸における消化、大腸の役割、肝臓の役割について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
12	内分泌腺、ホルモン分類・作用の発現メカニズムについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
13	下垂体ホルモン、視床下部ホルモン、甲状腺について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
14	甲状腺ホルモン作用機能異常、副甲状腺ホルモン、ビタミンD、副腎皮質について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
15	副腎皮質、糖質コルチコイド作用、副腎皮質機能低下、副腎髄質ホルモンについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
16	インスリン、グルカゴン、糖尿病の病態生理、性腺ホルモンについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
17	代謝と体温、栄養素、物質代謝、タンパク質合成について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
18	熱の出納、産生、放散の増加、核心温、体温調整、中枢、発熱と解熱のメカニズムについて理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
19	生殖と発生、男性生殖機能について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
20	女性生殖機能、視床下部、下垂体と女性生殖器、受精着床、胎盤の発生について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
21	運動生理。筋収縮のエネルギー源について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること

22	運動に伴う全身の変化について理解する。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
23	血液循環について復習し、理解を深める。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
24	呼吸について復習し、理解を深める。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
25	腎機能と排泄について復習し、理解を深める。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
26	消化と吸収について復習し、理解を深める。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
27	内分泌(ホメオスタシス)について復習し、理解を深める。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
28	内分泌(生殖)について復習し、理解を深める。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
29	運動生理について復習し、理解を深める。	講義	講義資料、教科書を熟読すること
30	試験 解説	試験	

■受講上の注意

私語を慎むこと。予習をして授業に臨むこと。

■成績評価の方法

出席状況、日常の授業態度、筆記試験の成績等を総合的に判断して評価する。

■テキスト参考書など

標準理学療法学・作業療法学生理学第4版医学書院を使用する。さらに授業中には講義内容とスライドをまとめたプリントを配布して知識の整理を図る。

■備考

■実務経験

本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である。

運動学 I

講師: 玉利 竜二

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

1. 人体における運動器の構造と機能を理解する。
2. 上肢の構造と機能について理解する。
3. 肩甲帯および上肢の各関節運動に関与する筋肉を理解する。
4. 肩甲帯および上肢の各関節運動に関与する筋肉の神経支配とレベルを理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	・身体運動の面と軸と運動の関係を理解する。 ・身体の各関節の名称と関節の動きを理解する。	講義	
2	・骨の基本構造と名称と機能を理解する。 ・関節の名称と構造と機能を理解する。 ・関節形状による分類の名称を理解する。	講義	
3	・身体各関節の関節運動の表し方を理解する。 ・腱および靭帯の名称と機能を理解する。 ・骨格筋の構造と筋線維のタイプと特徴を理解する。	講義	
4	・筋収縮の様態の種類と内容を理解する。 ・上肢帯と上肢の骨格について理解する。	講義	
5	・腕神経叢について理解する。 ・体表面から触れる上肢の筋を理解する。 ・上肢帯の関節と肩関節の運動について理解する。	講義	
6	中間テストおよび解説	筆記試験	
7	・肩甲骨の動きと肩甲骨の動きに関与する筋を理解する。	講義	
8	・肩関節の構造を理解する。 ・肩関節の運動と肩関節の運動に関与する筋を理解する。	講義	
9	・肩関節の運動と肩関節の運動に関与する筋を理解する。	講義	
10	・肘関節と前腕の構造を理解する。	講義	
11	肘関節と前腕の運動と、その運動に関与する筋を理解する。	講義	
12	・手関節と手指関節の構造・運動を理解する。	講義	
13	・手関節と手指関節の運動に関与する筋を理解する。	講義	
14	・手の外来筋・内在筋を理解する。 ・手のアーチと手の変形を理解する。 ・握り動作とつまみ動作を理解する。	講義	
15	終講テストおよび解説	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

中間テストの得点、期末テストの得点を、それぞれ100点換算し、平均点を出し最終評価とします。

■テキスト参考書など

中村隆一・斎藤宏・長崎浩著 基礎運動学第6版 補訂 医歯薬出版株式会社

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

運動学Ⅱ

講師:玉利 竜二

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

1. 下肢の構造と機能について理解する。
2. 下肢の各関節の運動に関与する筋肉を理解する。
3. 下肢の各関節の運動に関与する筋肉の神経支配とレベルを理解する。
4. 頸部・体幹の構造と機能について理解する。
5. 頸部・体幹の動きに関与する筋肉を理解する。
6. 脳頭蓋・顔面頭蓋を理解する。
7. 咀嚼筋と表情筋を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	・下肢帯と下肢の骨格について理解する。	講義	
2	股関節の構造と股関節を補強する靭帯について理解する。	講義	
3	・股関節の運動に関与する筋肉と神経支配・レベルについて理解する。 ・股関節の運動に関与する筋肉の起始・停止を理解する。	講義	
4	・膝関節の構造と膝関節を補強する靭帯や半月板について理解する。	講義	
5	・膝関節の運動に関与する筋肉の神経支配・レベルについて理解する。 ・膝関節の運動に関与する筋肉の起始・停止を理解する。	講義	
6	・足関節の構造と足関節を補強する靭帯について理解する。	講義	
7	・足関節の運動に関与する筋肉と神経支配・レベルについて理解する。 ・足関節の運動に関与する筋肉の起始・停止を理解する。	講義	
8	中間テストおよび解説	筆記試験	
9	・脊柱の骨格と靭帯について理解する。	講義	
10	・脊柱の動きと脊柱の動きに関与する筋肉を理解する。	講義	
11	・頸椎の構造と運動について理解する。 ・頸部の運動に関与する筋肉を理解する。	講義	
12	・胸椎と胸郭の構造について理解する。 ・胸椎の動きについて理解する。	講義	
13	・肋骨の種類と胸郭の動き、呼吸筋について理解する。 ・腰部の構造と動きについて理解する。	講義	
14	・脳頭蓋・顔面頭蓋について理解する。 ・頭蓋骨の縫合について理解する。 ・顎関節の構造と動きについて理解する。 ・咀嚼筋について理解する。	講義	
15	終講テストおよび解説	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

中間テストの得点、期末テストの得点を、それぞれ100点換算し、その平均で最終評価とする。

■テキスト参考書など

■備考

中村隆一・斎藤宏・長崎浩著 基礎運動学第6版 補訂 医歯薬出版株式会社

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

運動学Ⅲ

講師: 藤田 賢太郎

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

作業療法における治療の意義や方法ならびに人間の様々な運動・動作・作業・活動を理解する為に必須である人体の構造と機能のうち神経系および感覚機能についての理解を深める

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	○随意運動と不随意運動について理解する	講義	神経の模型を準備する
2	○シナプス伝達について理解する	講義	前回授業の小テストの実施
3	○脊髄神経について理解する	講義	前回授業の小テストの実施
4	○脳神経の機能を理解する	講義	前回授業の小テストの実施
5	○自律神経系の機能を理解する	講義	特になし
6	○中枢神経系, 脊髄, 延髄, 橋の構造と機能を理解する	講義	脳と脊髄の模型を準備する
7	○中脳と小脳と間脳の構造と機能について理解する	講義	前回授業の小テストの実施
8	○大脳皮質の構造を理解する ○錐体路, 錐体外路について理解する	講義	前回授業の小テストの実施
9	○大脳皮質の機能局在について理解する ○大脳辺縁系について理解する	講義	前回授業の小テストの実施
10	○中枢神経系と反射統合について理解する ○伸張反射について理解する	講義	前回授業の小テストの実施
11	○姿勢制御・反射について理解する	講義	前回授業の小テストの実施
12	○運動の学習システムについて理解する	試験	特になし
13	○感覚器の構造と機能について理解する	講義	事前資料の予習
14	○視覚器の構造と機能について理解する	講義	事前資料の予習
15	○神経系、感覚器のまとめ	試験	特になし

■受講上の注意

事前配布資料での予習および講義後の復習を必ず行うこと
疑問点は積極的に質問する

■成績評価の方法

小テストの総合得点25%、3回の単元別テストの総合得点75%

■テキスト参考書など

基礎運動学第3版(補訂) 中村隆一・斎藤宏・長崎浩香 医歯薬出版株式会社 2020
参考文献: 解剖学教科書、病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版 メディックメディア 2017

配布資料

■備考

特になし

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である

運動学Ⅳ

講師:土井 敦

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

作業療法における治療の意義や方法ならびに人間の行う様々な運動・動作・作業・活動を理解する為に、運動力学の基礎を学び、生体力学・姿勢・歩行・運動・動作分析・運動学習・運動発達について、理解を深める。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	運動学の臨床応用、学習意義と学習の基礎を理解する。	講義・実技	指定の教科書持参
2	力学の基礎(運動法則・力・仕事率・ベクトル・モーメント・てこ・エネルギー)を理解する①	講義	指定の教科書持参 復習
3	力学の基礎(運動法則・力・仕事率・ベクトル・モーメント・てこ・エネルギー)を理解する②	講義	指定の教科書持参 復習・前回の小テスト
4	等張性・等尺性収縮、求心性・遠心性収縮、リバースアクションを理解する。	講義	指定の教科書持参 復習・前回の小テスト
5	歩行の基礎(歩行周期・歩調・歩行効率・床反力)を理解する。	講義	指定の教科書持参 復習・前回の小テスト
6	歩行応用(正常歩行・疾患に特有の歩行・異常歩行・小児歩行・歩行分析)を理解する。	講義	指定の教科書持参 復習・前回の小テスト
7	姿勢と重心・体幹の機能と動作を理解する。	講義	指定の教科書持参 復習・前回の小テスト
8	姿勢と重心の応用・シーティングを理解する。	講義・実技	指定の教科書持参 復習・前回の小テスト
9	姿勢と重心の応用・ポジショニングを理解する。	講義・実技	指定の教科書持参 復習
10	動作と重心の関係を理解する(寝返り・起き上がり)	講義・実技	指定の教科書持参 復習
11	正常動作と動作分析・介助方法を理解する(寝返り・起き上がり)	実技	指定の教科書持参
12	動作と重心の関係を理解する(起立・移乗動作)	講義・実技	指定の教科書持参 復習・前回の小テスト
13	正常動作と動作分析・介助方法を理解する(起立・移乗動作)	実技	指定の教科書持参 復習
14	運動発達と運動学習を理解する 運動学Ⅳの復習	講義	指定の教科書持参 復習・小テスト
15	試験および解説	試験	特になし

■受講上の注意

講義後の復習を必ず行うこと
疑問点は積極的に質問する

■成績評価の方法

小テストの総得点20%、終了テストの得点80%

■テキスト参考書など

基礎運動学第6版補訂 中村隆一・斎藤宏・長崎浩著 医歯薬出版株式会社 2015
配布資料

■備考

特になし

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

人間発達学

講師: 蓑毛 良助

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

人間の発達段階と発達課題、発達の質・構造の発達の变化を知る。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	「発達の原則」「身体のみざめ⇒心のみざめ」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
2	「発達段階と発達課題」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
3	「胎児期の発達」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
4	「乳児期の発達」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
5	「幼児期の発達」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
6	「児童期の発達」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
7	「青年期の発達」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
8	「成人期の発達」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
9	「高齢期の発達」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
10	「身体・視覚の発達」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
11	「聴覚・知能の発達」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
12	「言語の発達」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
13	「情緒・社会性の発達」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
14	「発達障害」 ビデオ視聴	講義	積極的に講義に参加する。
15	試験・解説		

■受講上の注意

日常の取り組む姿勢も評価するため出席、積極性、レポート提出に注意すること。

■成績評価の方法

1) 日常の取り組む姿勢(出席、積極性、レポート) 2) テスト

■テキスト参考書など

「発達」川島一夫編 福村出版

■備考

■実務経験

病理学概論

講師: 山下 佐英

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

病理学(概論)は疾病の本態とその原因, 成り立ちおよび結果などについて理論的, 体系的に学ぶもので, 医学的位置づけとしては基礎医学に類別される。病理学の対象は人体の病気であるため, 基礎医学から臨床医学への掛け橋的役割をなしている。授業では解剖学や生理学の知識を基礎にして, 疾病における人体の構造および機能の異常について学び, その知識を臨床医学の理解および医学の実践に役立てることを目標とする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	病理学の概要・病因論、退行性病変と代謝異常が理解できる。	講義	テキスト「病理学」の病理学の概要・病因論、退行性病変と代謝異常を読んでくる
2	進行性病変と循環障害、免疫と炎症・感染症が理解できる	講義	テキストの進行性病変と循環障害、免疫と炎症・感染症を読んでくる
3	腫瘍と放射線障害、老化と先天性異常・奇形が理解できる	講義	テキストの腫瘍と放射線障害、老化と先天性異常・奇形を読んでくる
4	循環器系、呼吸器系が理解できる	講義	テキストの循環器系、呼吸器系を読んでくる
5	消化器系、神経系が理解できる	講義	テキストの消化器系、神経系を読んでくる
6	運動器系、泌尿器系と生殖器系が理解できる	講義	テキストの運動器系、泌尿器系と生殖器系を読んでくる
7	内分泌系と造血器系、皮膚と感覚器系が理解できる	講義	テキストの内分泌系と造血器系、皮膚と感覚器系を読んでくる
8	終講試験、まとめ、解説	試験	

■受講上の注意

私語はしないこと、講義の予習をしてくること、忘れ物の無いようにし、主体的に集中して講義に臨むこと。

■成績評価の方法

出席状況・受講態度・終講試験などにより総合的に評価する。

■テキスト参考書など

医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学
プリントやカラー病態スライド

■備考

講義資料については適宜配布する。

■実務経験

本授業は、医師として実務経験のある教員が行う授業である。

医学概論

講師: 山下 佐英

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

作業療法学を学ぶに先立ち、医学とはなにか、狭義の医学、医術、医道からなりたっているが、現在の医学教育、医療において「医たる者人たれ」の教訓に則り、患者の痛みや心がわかる立派な医の心をもった医療人を育成することを目標とする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	医学とは何か 医学史	講義	
2	病気の理解と分類 病気の原因(内因と外因)	講義	
3	病気による身体の変化 病気の診断をどのように進めるか	講義	
4	病気の治療とリハビリテーションの必要性 病気の予防(予防医学と衛生学、人間ドックの意義)	講義	
5	新しい医療システムとその役割ならびに医療上の問題点	講義	
6	健康教育と衛生統計	講義	
7	医学の生命へのアプローチ ならびに死の臨床への対応	講義	
8	筆記試験	試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、未満を不合格とする。

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

薬理学

講師: 石田 和久

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■ 科目目標

薬に関する情報は、市販の情報誌やテレビ番組、さらにはインターネットや携帯端末などにより容易かつ瞬時に入手できる。そのような環境の中で、必要な情報を正確に把握し、理解できることが大切である。今回の薬理学では、薬の名称や刻印された識別コード等から効果や副作用等を正確に確認できる方法や添付文書の見方を学び、また、処方せんをもとに疾患名や症状を推測できる実践力を養うことを目的とする。また、実習等で遭遇する機会の多い疾患について病態を再確認し、治療薬の作用機序を理解してリハビリに際し予測すべき副作用等を考えられるようにする。その上で、過去の国家試験問題をともに各回ごとに習得状況を確認する。講義の終了時には各種の病態や薬物療法を理論的に説明できることを目標とし、その成果を筆記試験並びに受講姿勢から総合的に評価する。

■ 科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	①実際の臨床現場で、処方案から目的や疾患を把握できるよう、検索方法や添付文書の見方を理解し、実際の処方場で活用してみる。 ②薬の服用および使用方法について理解を深めるとともに、食品との飲み合わせや吸収に影響を及ぼす相互作用、薬物依存等を考える。	講義・OAC利用機序図表集・医薬品集	・第1回薬理学から実施 ・インターネット活用 ・医薬品集、アプリ参照 ・過去の国試をもとに習得状況を確認する
2	①脳の伝達系異常と神経疾患について、心身症、うつ病、パーキンソン病、統合失調症等の病態と薬物療法を理解し、副作用を考える。 ②脳卒中の急性期や回復期、慢性期の薬物療法を学び、その作用から作業療法への影響を考える。	講義・実習・OAC利用機序図表集・医薬品集	・第2回薬理学を一読しておく ・医薬品集、アプリ参照 ・過去の国試をもとに習得状況を確認する
3	認知症を中心に、各種の病態について進行の特徴を理解し薬物療法を考える。	講義・実習・OAC利用機序図表集・医薬品集	・第3回薬理学を一読しておく ・医薬品集、アプリ参照 ・過去の国試をもとに習得状況を確認する
4	循環器系の疾患に対応するために、心不全、不整脈、狭心症、高血圧、血栓性疾患等の病態を心臓および循環器系を図解化して理解し、治療薬の種類と作用機序、副作用を系統的に学ぶ。	講義・実習・OAC利用機序図表集・医薬品集	・第4回薬理学を一読しておく ・医薬品集、アプリ参照 ・過去の国試をもとに習得状況を確認する
5	①注射剤への理解として、細胞の機能や電解質の役割を理解し、臨床で遭遇する点滴製剤の特徴を学ぶ。高血糖や腎機能低下時の薬物療法への理解も深める。よく利用されるサプリメントについても確認する。 ②高齢者に多い泌尿器障害や排便困難、消化管障害等について、治療薬の種類と作用機序、副作用を考える。	講義・実習・OAC利用機序図表集・医薬品集	・第5回薬理学を一読しておく ・ドラッグストア等で事前にサプリメントを見てみる ・インターネット活用
6	①骨粗鬆症について、骨芽細胞や破骨細胞の機能とモデリングを理解し、治療薬の種類と作用機序、副作用を学ぶ。 ②免疫系の疾患への理解をふかめるべく、生体防御機構を理解し、アレルギー用剤、気管支喘息用剤、抗菌剤・抗ウイルス剤、関節リウマチ用剤に加え、抗がん剤についても理解を深める。	講義・実習・OAC利用機序図表集・医薬品集	・第6回薬理学を一読しておく ・医薬品集、アプリ参照 ・過去の国試をもとに習得状況を確認する
7	「痛み」について、伝達経路を図解化して理解し、今回までに学んだ薬の組み合わせ効果、さらにはオピオイド・非オピオイド鎮痛薬等について理解を深める。	講義・実習・OAC利用機序図表集・医薬品集	・第7回薬理学を一読しておく ・医薬品集、アプリ参照 ・過去の国試をもとに習得状況を確認する
8	終講試験およびまとめ	筆記試験	講義に使用した医薬品集およびアプリは利用可

■ 受講上の注意

私語は慎む。なお、講義中の質問および終了後の質問は積極的に行ってほしい。講義の予習とともに学んだ方法は実践してみること。講義で使用するオリジナルテキストを忘れないようにする。また、図解し演習する機会もあるので、各自で記録可能なノートなどを準備する。主体的に講義に臨むこと。

■ 成績評価の方法

終講試験(90%)・授業への参加態度(10%)により総合的に評価する。試験は筆記に行い、その結果を最重要視するが、質問等を通じた講義への積極的な参加など受講態度なども加味する。100点満点として60点未満に再試験を実施する。

■ テキスト参考書など

テキスト: 過去5年間の国家試験問題をともに作成したオリジナルテキストおよび医薬品集を利用。また、IT活用として正確かつ最新の薬剤情報を取得できるアプリも利用する。各回ごとの学びは最近の国家試験問題を解くことで習得したこととする。

■ 備考

上記のオリジナルテキストおよび医薬品集は事前配布する。講義にはインターネット環境のパソコン1台とプロジェクターを準備。インターネットの検索サイト(pmda、薬価サーチ2022 他)の閲覧およびテキストを投影する。App Store・Android無料アプリ「ヤクチエ添付文書」の活用と機能は講義中に説明する。

■ 実務経験

本科目は、薬剤師として実務経験のある教員による授業である。

臨床心理学

講師: 山喜 義枝

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

作業療法士・理学療法士は患者様に直接かかわる業務である。本講義では、それを目指されている学生の皆さんがそれぞれ専門職として臨床に従事されるにあたって、患者様の心や行動の意味や構造をよりよく理解することができることを目標にしたい。そのために臨床心理学の立場から人間理解を深めると共に、患者様の健康を増進するための良好な対人関係のスキルも向上できるように体験学習も取り入れたい。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	臨床心理学の概論を学ぶ	講義・レポート	臨床心理学に興味を持ち、自身の思いをレポートにしてみる
2	臨床心理学の諸理論の基礎を学ぶ(ストレス・心の防衛・心の発達課題他)	講義	臨床心理学を学ぶ姿勢を作る。
3	心理アセスメントを学ぶ ①行動観察法・面接法・その他	講義・体験学習	心理アセスメントを疑似体験することで、自身の心への興味も深くなる
4	心理アセスメントを学ぶ ②質問紙法・知能検査・投影法・その他	講義・体験学習	心理アセスメントを疑似体験することで、自身の心への興味も深くなる
5	心理アセスメントを学ぶ ③家族関係のアセスメント・子どものアセスメント	講義・体験学習	家族関係や子どものアセスメントのやり方を学ぶことで、自身の心への興味も深くなる
6	さまざまな心理療法を学ぶ ①心理療法とカウンセリング	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、自身の心への興味を深くなる
7	さまざまな心理療法を学ぶ ②精神分析的な心理療法・来談者中心療法	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、聴くことの難しさ等を学ぶ
8	さまざまな心理療法を学ぶ ③認知行動療法他	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、自身の行動のくせ等に気づき、学びを深くなる
9	さまざまな心理療法を学ぶ ④箱庭療法・遊戯療法他	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、学びを深くなる
10	さまざまな心理療法を学ぶ ⑤芸術療法他	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、学びを深くなる
11	さまざまな心理療法を学ぶ ⑥集団心理療法(サイコドラマ・構成的エンカウンター・セルフヘルプグループ)	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、学びを深くなる
12	さまざまな心理療法を学ぶ ⑦森田療法・自律訓練法他	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、学びを深くなる
13	さまざまな心理療法を学ぶ ⑧心理教育(SST他)	講義・体験学習	心理療法を疑似体験することで、学びを深くなる
14	今日的な心の問題について理解する(発達障害・いじめ・不登校・ひきこもり・虐待・DV・PTSD他)	講義・討論	講義で取り上げられた今日的な心の問題について、自分の実体験として考えることで学びを深くなる
15	まとめと終講試験	筆記試験	十分に準備して試験に臨むこと

■受講上の注意

今ここでしか身につけられないことを、素直に謙虚に誠実に学ぶこと

■成績評価の方法

筆記試験(60%)・授業中のレポート(30%)・講義への参加態度(10%)により、総合的に評価する。

■テキスト参考書など

『徹底図解 臨床心理学』 編著者: 青木紀久代 新星出版社

■備考

■実務経験

精神科・心療内科セラピスト/スクールカウンセラー/大学院発達支援センター委託支援指導員/企業内産業カウンセラー/保健センター心理発達相談員

一般臨床医学

講師: 山下 佐英

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

医学・医療の発達に伴い統合と分化が叫ばれている現在、リハビリテーション医学も類に洩れず細分化されてきている。リハビリテーション医学の対象はきわめて広範囲に及び、それぞれOT, PT, STなどの専門教育がなされている。広義のリハビリテーションでは、各々独自の機能訓練を果たしながら、同時に相互扶助の立場にたつて共生しつつ、心ある医療をめざして発展せしめる必要がある。そこで、臨床各科に関する項目について解説して、各科の特性を十分認識した上で総合的に総括できるようにする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	診断学概要が理解できる I. 救急患者観察のポイント及びバイタルサインが理解できる	講義	テキスト「PT・OT・STのための一般臨床医学」の診断学概要を読んでもくる テキストの救急救命医療を読んでもくる
2	II. 救急処置の基本とそのABCが理解できる III. 心肺蘇生法の理論と実際が理解できる	講義	テキストの救急救命医療を読んでもくる
3	IV. 呼吸不全と呼吸管理が理解できる V. 意識レベルの障害と対応について理解できる	講義	テキストの救急救命医療を読んでもくる
4	VI. ショックとその対応について理解できる	講義	テキストの救急救命医療を読んでもくる
5	外科学総論が理解できる 皮膚科疾患が理解できる	講義	テキストの外科学総論、皮膚科疾患を読んでもくる
6	泌尿器疾患・生殖器疾患、産科学(妊娠・分娩・産褥)と婦人科疾患が理解できる 眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患が理解できる	講義	テキストの泌尿器疾患・生殖器疾患、産科学(妊娠・分娩・産褥)と婦人科疾患を読んでもくる テキストの眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患を読んでもくる
7	老年医学、脳死と臓器移植が理解できる 外科的療法、放射線療法が理解できる 薬物療法、Primary Careが理解できる	講義	テキストの老年医学、脳死と臓器移植を読んでもくる テキストの外科的療法、放射線療法を読んでもくる テキストの薬物療法、Primary Careを読んでもくる
8	試験、まとめ、解説	筆記試験	

■受講上の注意

私語はしないこと、講義の予習をしておくこと。
忘れ物の無いようにし、主体的に集中して講義に臨むこと。

■成績評価の方法

私語はしないこと、講義の予習をしておくこと、忘れ物の無いようにし、主体的に集中して講義に臨むこと。

■テキスト参考書など

明石 謙: PT・OTのための一般臨床医学 第3版. 医歯薬出版
プリントやカラー病態スライド

■備考

講義資料については適宜配布する

■実務経験

本授業は、医師として実務経験のある教員が行う授業である。

内科学 I

講師: 田之上 史郎

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

リハビリテーションでは運動機能の障害者のみならず、内科的疾患(内部障害)を合併し患者の機能回復訓練もおこなわれる。ここでは、リハビリテーション治療を安全に行うための知識が必要不可欠である。このため、内科的疾患に伴う症状と病気のなりたち、診察のしかた、検査法、治療法にはどのようなものがあるかを総論的に学習する。そして、循環器、呼吸器、消化器、肝胆膵の疾患についてそれぞれの各論を学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	リハビリテーションとは何か。	講義、DVD	リハビリテーションに必要な内科学
2	診断と治療の実際	講義、DVD	病歴、診察、臨床検査、治療の概要
3	症候学の内容	講義、DVD	症状と徴候のポイント
4	循環器疾患(1)	講義、DVD	心臓の解剖・病態生理
5	循環器疾患(2)	講義、DVD	循環器疾患の特徴、治療、予防
6	呼吸器疾患(1)	講義、DVD	肺の解剖・病態生理
7	呼吸器疾患(2)	講義、DVD	呼吸器疾患の特徴、治療、予防
8	消化器疾患(1)	講義、DVD	消化器の解剖・病態生理
9	消化器疾患(2)	講義、DVD	消化器疾患の特徴、治療、予防
10	肝胆膵疾患(1)	講義、DVD	肝胆膵の解剖・病態生理
11	肝胆膵疾患(2)	講義、DVD	胆膵疾患の特徴、治療、予防
12	肝胆膵疾患(3)	講義、DVD	胆膵疾患の特徴、治療、予防
13	プレテスト(1)	講義、DVD	回数1-5の要点解説、討論
14	プレテスト(2)	講義、DVD	回数6-12の要点解説、討論
15	内科学I試験	筆記試験	設問の読解力、日本語による解答の専門知識、表現力が問われる

■受講上の注意

体調をととのえる(快食・快眠・快便の生活)、予習による読書習慣を体得し思考力と集中力をたかめる。テレビ・スマホの使用は必要最小限度にし視力の消耗を防ぐこと、書籍・新聞等の活字による情報にもとづく問題志向型の考え方を修得することが望ましい。

■成績評価の方法

最終試験(60%)、プレテスト(30%)、授業への参加態度(10%)

■テキスト参考書など

“標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野(奈良 勲、鎌倉 矩子 監修)
内科学 第3版(前田 眞治、上月 正博、飯山 準一 執筆)”

■備考

資料プリントは適宜配布する。

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

内科学Ⅱ

講師: 田之上 史郎

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

血液・造血器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎・泌尿器疾患、アレルギー疾患・膠原病・類似疾患と免疫不全症、感染症の病態生理と加齢にともなう身体機能の変化を考慮したリハビリテーション治療のありかたを学習する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	血液・造血疾患(1)	講義、DVD	血液成分、造血機能、止血の病態生理
2	血液・造血疾患(2)	講義、DVD	血液疾患の病態生理、検査、治療
3	代謝性疾患(1)	講義、DVD	栄養とエネルギー、代謝調節
4	代謝性疾患(2)	講義、DVD	糖、脂質、ミネラル代謝異常の病態
5	代謝性疾患(3)	講義、DVD	糖尿病、脂質異常症、骨そしょう症
6	内分泌疾患(1)	講義、DVD	内分泌腺とホルモンの解剖、病態生理
7	内分泌疾患(2)	講義、DVD	“視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎の機能亢進と低下の病態生理”
8	腎・泌尿器疾患(1)	講義、DVD	腎臓の解剖、病態生理
9	腎・泌尿器疾患(2)	講義、DVD	腎・泌尿器疾患の特徴、治療、予防
10	アレルギー疾患・(1) 膠原病、類似疾患・(2) 免疫不全症(3)	講義、DVD	免疫系の働き、アレルギーの病態生理 免疫応答の細胞、アレルギー疾患、 膠原病、リウマチ性疾患、免疫不全
11	感染症(1)	講義、DVD	感染症の病原体、感染経路、成立条件
12	感染症(2)	講義、DVD	感染防御、症状、抗生物質、耐性菌
13	プレテスト(1)	講義、DVD	回数1-7の要点解説、討論
14	プレテスト(2)	講義、DVD	回数8-12の要点解説、討論
15	内科学Ⅱ試験	筆記試験	専門知識による解答、表現力が問われる

■受講上の注意

リハビリテーションの専門知識を整理し国家試験にそなえる。書籍・新聞等の最新情報にもとづく問題志向型の考え方を体得し、医療を取りまく社会の変化を理解する。そして、リハビリテーション医療の質向上にむけた生涯教育をめざす。

■成績評価の方法

最終試験(60%)、プレテスト(30%)、授業への参加態度(10%)

■テキスト参考書など

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野(奈良 勲、鎌倉 矩子 監修)
内科学 第3版(前田 眞治、上月 正博、飯山 準一 執筆)

■備考

資料プリントは適宜配布する。

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

整形外科学Ⅰ

講師:川元 大輔

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

整形外科分野の基礎科学、診断・治療総論、疾患総論を学ぶ。

具体的には骨・関節の機能と形態、成長と老化、病因・病態の基礎を理解できる。また、整形外科の診断・治療体系のなかPT・OTがどの領域を担当しているのか理解できる。

将来、医師を含む医療スタッフのカンファレンスで使われる英語を含む医学用語の意味を掌握できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	運動器の生理について、1年次に学習した内容(骨・関節・筋・神経)を復習し整形外科疾患との関連性を理解する。	講義	教科書P8～38を事前に予習しておくこと。
2	運動器の生理について、1年次に学習した内容(骨・関節・筋・神経)を復習し整形外科疾患との関連性を理解する。	講義	教科書P8～38を事前に予習しておくこと。
3	運動器の生理について、1年次に学習した内容(骨・関節・筋・神経)を復習し整形外科疾患との関連性を理解する。	講義	教科書P8～38を事前に予習しておくこと。
4	診察の仕方について学ぶ	講義	とくにPT・OTに重要な身体所見のとり方とその意味を理解する。 教科書P40～47を事前に予習しておくこと。
5	代表的な症候・検査について学ぶ	講義	整形外科に代表的な症候を理解し、各検査の目的・特徴・欠点・合併症などを理解する。教科書P48～75を事前に予習しておくこと。
6	整形外科の保存療法を学ぶ。	講義	保存療法の中で、理学療法・作業療法の位置づけを理解する。 教科書P76～85を事前に予習しておくこと。
7	手術治療の概略を学ぶ。	講義	手術適応の決定・術前・術中・後療法(術後リハビリ)のすべてが広義の手術治療であり、手術治療の中で理学療法・作業療法の位置付けを理解する。
8	骨折・脱臼について理解する	講義	
9	骨折・脱臼について理解する	講義	
10	慢性関節疾患を学ぶ。	講義	配付のプリントに事前に目を通し、授業中の重要事項を書き足していく。
11	慢性関節疾患を学ぶ。	講義	配付のプリントに事前に目を通し、授業中の重要事項を書き足していく。
12	関節リウマチを学ぶ。	講義	配付のプリントに事前に目を通し、授業中の重要事項を書き足していく。
13	脊椎疾患を学ぶ。	講義	配付のプリントに事前に目を通し、授業中の重要事項を書き足していく。
14	講義のまとめをおこなう	講義	
15	終講試験	筆記試験	

■受講上の注意

各項目ごとに、内容に合わせて国家試験問題を配布する。問題に準じて教科書を用いて調べる力を身に付けること。

■成績評価の方法

可否は終講試験の結果60点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

病気の見えるvol11 運動器・整形外科
標準整形外科 第13版 医学書院
各回の講義プリントを予め配布する。

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

整形外科学Ⅱ

講師: 菊野 竜一郎、川元 大輔

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

- * 運動器(骨・関節・筋肉・腱・神経)の機能障害をきたす疾患について学ぶ。
- * 病態を理解した上で、能力低下を評価・治療して、より効果的に再び能力をできるだけ発揮させ、社会復帰させるための基礎知識を学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	肩関節の疾患 肩甲帯の疾患	講義	
2	肩関節の疾患 肩甲帯の疾患	講義	
3	胸郭、上腕・肘、手の疾患	講義	
4	手関節・手の疾患	講義	
5	胸椎・腰椎の疾患	講義	
6	頸椎・胸椎の疾患	講義	
7	肩疾患・スポーツ外傷・熱傷について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
8	肩疾患・スポーツ外傷・熱傷について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
9	末梢神経疾患について学ぶ。	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
10	末梢神経疾患について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
11	脊髄損傷について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
12	脊髄損傷について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
13	骨系統疾患・腫瘍について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
14	骨系統疾患・腫瘍について学ぶ	講義	事前に配布資料に目を通し授業に臨むこと。授業資料に必要な内容を記載すること。
15	試験	筆記試験	

■受講上の注意

授業では国家試験問題を配布する。教科書を使用して調べる力を身に付けること。
比較的遭遇する疾患・重要な疾患について部位別に講義する

■成績評価の方法

記述問題・国家試験に準ずる問題を使用した筆記試験

■テキスト参考書など

標準整形外科学 (参考資料: 紳中整形外科 及び その他の数種の成書、最近の文献)
病気が見えるVo.11運動器・整形外科

■備考

■実務経験

本科目は、医師および理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

神経内科学 I

講師: 上床 太心

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

- (1) 神経疾患のリハビリテーションの前提となる主な機能障害の症候、神経所見および検査所見を説明できる。
- (2) ①に必要な神経系の機能や解剖を理解する。
- (3) ①の症候や神経所見の機序や背景等に興味や関心をもつ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	各種運動麻痺の態様を説明できる。 上位運動ニューロン・下位運動ニューロン・筋の障害における基本的な症候、神経所見を説明できる。	講義	随意運動の仕組みの概要を予習すること。大脳皮質運動野から筋までの運動ニューロンの経路を予習すること。
2	上位運動ニューロン・下位運動ニューロン・筋の障害における基本的な症候、神経所見を説明できる。 筋トーンの異常、共同運動、代表的な腱反射、病的反射、運動麻痺の評価について説明できる。	講義	前回の要点を復習して臨むこと。 腱反射、病的反射について予習すること。
3	大脳基底核系の運動調節障害の症候や神経所見を説明できる。	講義	大脳基底核系による運動調節の概要を予習すること。
4	小脳系の運動調節障害による症候や神経所見を説明できる。	講義	小脳系による運動調節の概要を予習すること。
5	体性感覚(特に温痛覚、深部感覚)障害の症候や神経所見を説明できる。	講義	体性感覚について予習すること。温痛覚と(意識できる)深部感覚の神経経路を予習すること。
6	特殊感覚(特に視覚、平衡感覚)障害の症候や神経所見を説明できる。	講義	視覚の経路や前庭神経の機能を予習すること。
7	三叉神経障害、顔面神経障害、球麻痺/偽性球麻痺の症候や神経所見を説明できる。	講義	三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経の機能を予習すること。
8	自律神経障害、排尿排便障害、性機能障害の概要について説明できる。	講義	自律神経系の機能について予習すること。
9	高次脳機能障害のうち失認、失行の症候や局在を説明できる。	講義	側頭・後頭・頭頂葉の機能の概要について予習すること。
10	高次脳機能障害のうち失語、前頭連合野障害の症候、記憶障害の分類、認知症の概要を説明できる。	講義	前頭葉機能、言語に関する機能局在、記憶の分類について予習すること。認知機能とは何か、予習すること。
11	てんかんとけいれんについて説明できる。 ここまでの学習内容をまとめ総合的に理解する。	講義	てんかんの定義、けいれんの定義について予習すること。 前回までの学習内容を復習して臨むこと。
12	頭蓋内圧亢進症状の概要を説明できる。	講義	脳脊髄液の流れや脳脊髄液圧・頭蓋内圧との関係について予習すること。
13	頭痛、意識障害、脳浮腫、脳ヘルニアの概要を説明できる。 CTとMRIの特徴について説明できる。	講義	頭痛の分類、覚醒を保つ仕組み、ヘルニアに関連する部位の解剖について予習すること。
14	脳のマクロ解剖、断面像、各脳動脈の灌流域を図示できる。	講義	脳の解剖、脳の各動脈の分枝、走行等を予習すること。
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

(1) ①科目で学習した解剖学的、生理学的な知識が基礎となるので、上記①学習上の留意点IIに示したような基礎的な関連事項について、予め整理して受講すること。

(2) ①科目で最低限習得すべき内容は、下記のテキストに概ね記載されている。しかし、授業は様々なページを行き来しながら進行し、さらに症候・神経所見の

■成績評価の方法

終講試験を中心に平素の学習状況を加味して評価する。

■テキスト参考書など

- (1) 病気がみえる (vol.7) 脳・神経 第2版(メディックメディア)
- (2) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版(医学書院)

■備考

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

神経内科学Ⅱ

講師: 上床 太心

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

- (1) 〇ハビリテーションの現場で遭遇する主な神経系の傷病の症候、神経所見、検査所見および経過を説明できる。
- (2) 〇に必要となる神経系の機能や解剖を理解する。
- (3) 〇の症候や神経所見の機序や背景等に興味や関心をもつ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	神経根症、腕神経叢損傷、胸郭出口症候群、手根管症候群、肘部管症候群、橈骨神経麻痺、総腓骨神経麻痺、三叉神経痛、顔面神経麻痺の症候と神経所見を説明できる。	講義	脊髄神経(頸髄、腰髄)の支配筋と dermatome、正中・尺骨・橈骨・総腓骨・三叉・顔面神経の支配筋と感覚支配、腱反射、下位運動ニューロン障害の症候と神経所見等を復習してのぞむこと。
2	多発ニューロパチーの症候、神経所見を説明できる。ギランバレー症候群の症候や経過を説明できる。	講義	下位運動ニューロン障害の症候と神経所見を復習してのぞむこと。
3	デュシェンヌ型筋ジストロフィー症・多発筋炎の症候、神経所見、検査所見、経過、リハの留意点を説明できる。重症筋無力症、筋緊張症の症候を説明できる。	講義	筋障害の症候と神経所見を復習してのぞむこと。
4	運動ニューロン病(主にALS)の症候、神経所見を説明できる。	講義	上位運動ニューロン障害、下位運動ニューロン障害の症候、所見を復習してのぞむこと。
5	パーキンソン病の症候、神経所見、リハを説明できる。パーキンソニズムを来す疾患・状況を説明できる。	講義	大脳基底核系の運動調節障害の症候、所見を復習してのぞむこと。
6	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の概要、症候、神経所見、リハ、経過を説明できる	講義	小脳系の運動調節障害の症候、所見を復習してのぞむこと。
7	認知症の中核症状とBPSD、認知機能の評価法を説明できる。4大認知症の症候や特徴を説明できる。	講義	高次脳機能障害全般および認知症の定義を復習してのぞむこと。
8	脳血管障害、脳卒中の概要を説明できる。	講義	脳の解剖と前期に学習した各所の機能を復習してのぞむこと。
9	各部の脳梗塞(閉塞動脈ごと)の症候、神経所見、画像所見、経過を説明できる。	講義	脳の解剖と各脳動脈の灌流域を復習してのぞむこと。
10	脳出血(被殻、視床、橋、小脳、皮質下)の血腫進展状況による症候、神経所見、画像所見を説明できる。	講義	脳の解剖と各動脈の走行を復習してのぞむこと。
11	くも膜下出血の原疾患、症候、経過、合併症、画像所見を説明できる。	講義	髄膜、脳脊髄液、頭蓋内圧亢進症状を復習してのぞむこと。
12	正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫の症候、経過、画像所見について説明できる。	講義	髄膜の構成、脳室の解剖、脳脊髄液の流れ等について復習してのぞむこと。
13	急性硬膜外/下血腫、脳挫傷、びまん性軸索損傷の症候、経過、画像所見について説明できる。多発性硬化症の症候、神経所見を説明できる。	講義	髄膜の構成、脳室の解剖、脳脊髄液の流れ等について復習してのぞむこと。中枢神経系の障害により生じる運動障害、感覚障害全般を復習してのぞむこと。
14	髄膜炎、脳炎、脳膿瘍、HAM、急性灰白髄炎、脳腫瘍、頭痛、てんかんの症候について説明できる。	講義	髄膜刺激症状、頭蓋内圧亢進症状、頭痛の分類、てんかんといけいれんの差異等について復習してのぞむこと。
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

- (1) 神経内科学Ⅱで学習した知識が基礎となるので、上記「学習上の留意点」に示したような関連事項については、予め復習して受講すること。
- (2) 本科目で最低限習得すべき内容は、下記のテキストに概ね記載されている。しかし授業は様々なページを行き来しながら進行し、さらに基礎的な関連事項や、症候・神経所見の機序・背景はテキストには記載されていないことも少なくないので、ノートや記録に留意が必要である。

■成績評価の方法

終講試験により評価する。

■テキスト参考書など

- (1) 病気がみえる (vol.1) 脳・神経 第2版(メイツクメアイル)
 - (2) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版(医学書院)
- <注> 神経根症、脊髄損傷の項では、

■備考

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

精神医学 I

講師: 築瀬 誠

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

精神障害の分類と精神症状、統合失調症、感情障害、神経症性障害および精神作用物質により障害の病態と治療について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神障害の成因と分類について理解できる。	講義	教科書での予習・復習が必要である
2	精神機能の障害と精神症状について理解できる。	講義	教科書での予習・復習が必要である
3	精神機能の障害と精神症状について理解できる。	講義	教科書での予習・復習が必要である
4	精神機能の障害と精神症状について理解できる。	講義ビデオ	教科書での予習・復習が必要である
5	統合失調症およびその関連障害について理解できる。	講義	教科書での予習・復習が必要である
6	統合失調症およびその関連障害について理解できる。	講義	教科書での予習・復習が必要である
7	統合失調症およびその関連障害について理解できる。	講義	教科書での予習・復習が必要である
8	統合失調症およびその関連障害について理解できる。	講義ビデオ	教科書での予習・復習が必要である
9	感情障害について理解できる。	講義	教科書での予習・復習が必要である
10	感情障害について理解できる。	講義ビデオ	教科書での予習・復習が必要である
11	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害について理解できる。	講義	教科書での予習・復習が必要である
12	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害について理解できる。	講義ビデオ	教科書での予習・復習が必要である
13	神経作用物質による精神および行動の障害について理解できる。	講義	教科書での予習・復習が必要である
14	神経作用物質による精神および行動の障害について理解できる。	講義ビデオ	教科書での予習・復習が必要である
15	最終試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

授業中の私語は慎む

■成績評価の方法

最終試験による

■テキスト参考書など

上出 武治 (編) : 標準理学療法士・作業療法士「精神医学」(第4版). 医学書院

(副読本として以下の2冊を勧めます)

■備考

試験は、理学療法士・作業療法士の国家試験の過去問を中心に出题する。

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

精神医学Ⅱ

講師: 築瀬 誠

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

脳器質性障害、てんかん、摂食障害、パーソナリティ障害、精神遅滞、発達障害の病態と治療、および精神医療の歴史、関連法規について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神障害の分類、精神機能の障害と精神症状について理解できる(精神医学Iの復習)	講義	教科書での予習・復習が必要である
2	脳器質性障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
3	脳器質性障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
4	てんかんについて理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
5	生理的障害および身体的要因に関連した障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
6	精神遅滞について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
7	心理的発達の障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
8	精神障害の診断と評価について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
9	精神障害の治療とリハビリテーションについて理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
10	精神障害の治療とリハビリテーションについて理解できる。感情障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
11	精神障害の治療とリハビリテーションについて理解できる。感情障害について理解できる	講義	教科書での予習・復習が必要である
12	精神医療の歴史について理解できる	講義	事前に配布される資料での予習が必要である
13	精神保健福祉法および関連法規について理解できる	講義	事前に配布される資料での予習が必要である
14	精神障害者に関わる障害者総合支援法の内容について理解できる	講義	事前に配布される資料での予習が必要である
15	最終試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

授業中の私語は慎む

■成績評価の方法

最終試験による

■テキスト参考書など

上出 武治(編): 標準理学療法士・作業療法士「精神医学」(第4版)。医学書院
(副読本として以下の2冊を勧めます)

等原 嘉: 精神病 岩波新書

■備考

試験は、理学療法士・作業療法士の国家試験の過去問を中心に出题する。

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

小児科学

講師: 田中 洋、有馬 純久

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

- ・小児の発達を理解する
- ・患児の主疾患について理解する
- ・患児の合併症を考慮して訓練計画をたて、家族への助言ができるようにする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	小児科学概論	講義	有馬
2	診断と治療の概要	講義	
3	新生児・未熟児疾患	講義	
4	循環器疾患	講義	
5	呼吸器疾患	講義	
6	感染症	講義	
7	消化器疾患	講義	
8	免疫・アレルギー疾患、膠原病	講義	
9	腎・泌尿器疾患	講義	
10	睡眠・心身医学	講義	
11	先天異常と遺伝病	講義	田中
12	神経筋疾患	講義	
13	内分泌・代謝疾患	講義	
14	血液疾患	講義	
15	重度心身障害児	講義	

■受講上の注意

■成績評価の方法

国試形式の設問＋記述問題のテスト
ただし、長期休暇の課題レポートの点数も参考にする

■テキスト参考書など

「標準理学療法学 小児科学」第5版（医学書院）

■備考

■実務経験

本科目は、医師として実務経験のある教員による授業である。

老年学

講師：原田 智晃

単位数：1単位

時間数：15時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

わが国では、高齢化が進み、2025年以降に75歳以上の人の数が著しく増加することから、多くの問題が発生することが予想されている。特に医療においては高齢者に多い疾病、フレイルなど高齢者の自立を阻害する病態の予防と治療が問題となっていることから、理学療法士・作業療法士においては、その基礎となる身体・心理の加齢的変化や高齢者に特有な症候群を学ぶ必要がある。本講義では、老年期の加齢的変化を中心に、栄養や予防等のリハビリテーションに必要な基本的知識を8回に分けて学んでゆく。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	老年学総論 老年学と高齢者医療におけるリハビリテーションの役割について 老化と高齢者の定義 人口動態について	講義	
2	老年期における生理機能の変化について説明できる	講義	
3	老年期における身体構造の変化について説明できる	講義	
4	老年期における栄養について説明できる	講義	
5	老年期における精神心理面の変化について説明できる。高齢者の接し方について説明できる。	講義	
6	高齢者に特徴的な症候群について説明できる(意識障害、認知機能障害、せん妄、抑うつ、不眠、めまい、言語障害、嚥下障害、熱中症など)	講義	
7	老年期における予防について説明できる	講義	
8	本試験、解説	試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

■受講上の注意

遅刻、欠席、居眠りのない様にする。配布資料のみのため紛失することないようファイリング

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、未満を不合格とする。

■テキスト参考書など

特になし

【参考図書】

・大内尉義：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第5版 医学書院、2020

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士・作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

画像診断

講師: 浅井 愛邦

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

各種の画像診断法について知り、単純X線、造影検査、CT、MRI、USなどの画像と解剖の関連を理解できるようになることを目的とする。また、代表的臓器の正常像を知り、異常像が理解できるようになることを目的とする。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	放射線画像概論(各種検査について理解する)	講義	配布資料を事前にまとめてくる。
2	頭部(頭蓋・脳)、頸部、脊柱の画像解剖	講義	配布資料を事前にまとめてくる。
3	頭部(頭蓋・脳)、頸部、脊柱の疾患	講義	配布資料を事前にまとめてくる。
4	骨、関節、軟部組織の画像解剖	講義	配布資料を事前にまとめてくる。
5	骨、関節、軟部組織の疾患	講義	配布資料を事前にまとめてくる。
6	胸部(肺・縦隔)、循環器系、乳房の解剖および疾患	講義	配布資料を事前にまとめてくる。
7	腹部(消化管・肝・胆・膵)、骨盤(泌尿器・生殖器)の解剖および疾患	講義	配布資料を事前にまとめてくる。
8	学力試験	筆記試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

■受講上の注意

翌週の講義内容の配布資料を予習する。

■成績評価の方法

学力試験

■テキスト参考書など

右葉マーズの画像解剖学 MEDICAL VIEW

医学生・研修医のための画像診断リファレンス 医学書院

PT・OTのための画像評価に基づく疾患別ケーススタディ 三輪書店

■備考

■実務経験

リハビリテーション概論

講師: 仲村 弘幸

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

リハビリテーションの意味を理解し、各専門職種の内容を理解する。
障害の分類と評価の概要と随意運動の制御と中枢神経機構の概要を理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	歴史と定義・法律その他①	講義	
2	歴史と定義・法律その他②	講義	
3	理学療法について	講義	
4	作業療法について	講義	
5	言語聴覚療法について／他の関連職種について	講義	
6	国際生活機能分類(ICF)について	講義	
7	国際障害分類(ICIDH)について	講義	
8	障害の評価①	講義	
9	障害の評価②	講義	
10	廃用症候群について	講義	
11	認知症とその対応	講義	
12	外傷(主に老人の骨折について)	講義	
13	随意運動の制御と中枢機構について①	講義	
14	随意運動の制御と中枢機構について②	講義	
15	まとめ、筆記試験	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格、未滿を不合格とする。

■テキスト参考書など

適宜配布資料を使用する。

参考書: リハビリテーション医学テキスト[改定第5版] 南江堂 監修 三上 真弘

■備考

■実務経験

本科目は、理学療法士として実務経験のある教員による授業である。

多職種連携論 I

講師: 四元 祐子

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

教育目標: 対人援助職種として関係性の理解ができる

行動目標:

- ・人々の相互関係を成立させるコミュニケーション能力について説明できる
- ・他職種を尊重した態度で、必要な情報を収集、意見交換ができる
- ・周囲に働きかけて、グループでの学びを活性化できるような発言と行動がとれる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	シラバスを用いて、自らで科目目標と各回の到達目標を確認することができる 多職種連携(Inter Professional Work; IPW)の定義、必要性とその背景を理解し、説明できる。 多職種連携教育(Inter Professional Education; IPE)を履修する目的と意義を理解し、説明できる。 当該科目のテーマで「食を考える」を取り上げる目的と意義を説明できる。	講義・演習	
2	人にとっての「食とは何か」の概念を理解し、説明できる。 自分にとっての「食の現状」を表出して周囲と共有、振り返りができる。	講義・演習	
3	学科ごとに自己紹介を行い、お互いの存在を確認することができる。 職業理解動画教材を視聴した内容をもとに1枚のシートに複数職種を紹介するポスターを制作する。 制作したポスターを掲示してポスターツアーを実施、他班の情報を収集し、共有することができる。	講義・演習	
4	人々が対峙する食に関する困りごとや不便とは何かを、編成されたグループで協議し、対象者に自職種がどのような関わりが出来るかを考えて、他職種と共有できる。	講義・演習	
5	編成されたグループで、「食」に関連する、運動能力(理学療法)、作業遂行能力(作業療法)、摂食嚥下能力(言語聴覚療法)ごとに、「食べる為に必要となる機能、能力」を考えてワークシートに表出、提出できる。 多職種連携コンピテンシーを確認し、対象者中心で進める支援に必要な関連職種間に必要となるコミュニケーションや他職種の理解、態度等を理解して説明できる。	講義・演習	
6	食べる楽しみを支えるチームのカタチ1 チームを形成する職種の理解を深め、チームにおける作業療法士の役割について説明ができる。	講義・演習	
7	食べる楽しみを支えるチームのカタチ2 チームを形成する職種の理解を深め、チームにおける作業療法士の役割について説明ができる。		
8			

■受講上の注意

受講前に、教育目標と行動目標を熟読をお願いします。授業では、自ら周囲へ働きかけて、チームを活性化できるような発言と行動を臨みます。

■成績評価の方法

ワークシート、ポスター、プレゼンテーションデータ提出を40点。筆記試験を60点分の100点満点で換算し、60点以上を合格とします。

■テキスト参考書など

配布資料

■備考

■実務経験

本教科は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

多職種連携論Ⅱ

講師: 四元 祐子

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

教育目標: 専門職として多職種協働の概念理解ができる

行動目標:

- 1 多職種連携の意義を説明できる
- 2 保健、医療、福祉及び患者に関わる全ての人々の役割を理解し、連携する方法を学ぶ
- 3 保健、医療、福祉における多職種連携のあり方を具体的に説明できる
- 4 多職種連携における対立・葛藤・意見調整(コンフリクトマネジメント)について説明できる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	・シラバスを用いて、自らで科目目標と各回の到達目標を確認することができる。 ・多職種連携コンピテンシーを確認し、対象者中心で進める支援に必要となる関連職種間に必要となるコミュニケーションや他職種の理解、態度等を理解して説明できる。	講義、演習	
2	何のため、誰のためのIPEか? ・チームマネジメントと関連用語について説明できる。 ・多職種連携の種類を理解できる。 ・乗り越えるべき課題で生じている原因を説明できる。	講義、演習	
3	カンファレンス参加への準備 ・課題解決へ向けて、高齢者の生活と困りごとについて考え、説明ができる。	講義、演習	
4	チーム内における対立・葛藤・意見調整(コンフリクトプロセス/マネジメント)について説明できる。	講義、演習	
5	カンファレンスを疑似体験し、チーム内における対立・葛藤・意見調整(コンフリクトマネジメント)について考え、コンフリクトの長所と短所の側面をそれぞれから理解する。	講義、演習	
6	・カンファレンスを疑似体験し、「家族の不安や困りごと」を自分ごととして考えることができる。 ・話し合いにおける自分自身の体験を振り返る。	講義、演習	
7	認知症者における社会資源 ・地域包括ケアにおける各職種の役割について理解できる。	講義、演習	
8	筆記試験、まとめ	筆記試験、解説	

■受講上の注意

知識獲得よりも、多職種共同の概念理解、他者理解の概念理解を学習する目的を主眼において履修してください。他者の価値、観点を意識して合同授業に臨んでください。

■成績評価の方法

配点: ワークシート、ポスター、プレゼンテーションデータを40点分。筆記試験を60点分の100点満点で換算し、60点以上を合格とし、不合格者には再試験の結果をもって判定する。

■テキスト参考書など

配布資料

■備考

本授業ではVRを利用します。有線イヤホンの準備をお願いします。

■実務経験

本授業は、作業療法士としての実務経験者が行う。

多職種連携論Ⅲ

講師: 四元 祐子

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

教育目標: 教育目標: 専門職として、自他職の理解ができる

行動目標:

- 1 自職種を顧みることが出来る
- 2 一員としての自覚のある言動をとることができる。
- 3 チーム内での多職種との関係性および自職種としての役割、職場における自職種の役割と責任について理解する
- 4 他職種の専門性と役割を理解できる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	・シラバスを用いて、自らで科目目標と各回の到達目標を確認することができる。 ・多職種連携コンピテンシーを確認し、対象者中心で進める支援に必要となる関連職種間に必要となるコミュニケーションや他職種の理解、態度等を理解して説明できる。	講義、演習	
2	IPW、IPEの課題と歴史 ・IPEの歴史を理解し、各専門職を説明ができる。	講義、演習	
3	自分たちが暮らす地域包括ケアを知る ・地域で行われている地域包括支援センターや行政の情報を調べる。 ・様々な住まい方について説明ができる。	講義、演習	
4	長期療法施設におけるチームマネジメント1 ・課題に取り組み、説明ができる。	講義、演習	
5	長期療法施設におけるチームマネジメント2 ・課題に取り組み、説明ができる。	講義、演習	
6	急性期病棟におけるチームマネジメント1 ・課題に取り組み、説明ができる。	講義、演習	
7	急性期病棟におけるチームマネジメント2 ・課題に取り組み、説明ができる。	講義、演習	
8	筆記試験、まとめ	筆記試験、解説	

■受講上の注意

知識獲得よりも、多職種共同の概念理解、他者理解の概念理解を学習する目的を主眼において履修してください。他者の価値、観点を意識して合同授業に臨んでください。

■成績評価の方法

ワークシート、ポスター、プレゼンテーションデータを40点分。筆記試験を60点分の100点満点で換算し、60点以上を合格とし、不合格者には再試験の結果をもって判定する。

■テキスト参考書など

配布資料

■備考

■実務経験

本授業は、作業療法士として実務経験のある教員が行う。

作業療法概論 I

講師: 四元 祐子

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

これから学ぶ作業療法の専門的な知識、技能、作業療法の役割を学び、学習の礎を築きます。

- 1 作業療法の作業の意味を説明することができる。
- 2 自分の目指す職種がどのように生まれ、発展したのかについて説明できる。
- 3 作業療法評価、作業活動を行うために必要な人体の構造と機能を専門用語を用いて説明することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	イントロダクション 1 学問の基本形～概論とは何かについて理解を進める。 2 作業療法の仕事内容について、理解を進める。	講義	
2	作業療法の歴史 1 作業療法士の起源を理解し、説明ができる。 2 各国の作業療法の発展について理解し、説明ができる。	講義	
3	作業療法の歴史 3 各国の作業療法の発展について理解し、説明ができる。 4 日本の作業療法の発展について理解し、説明ができる。	講義	
4	こころが動けば、からだは動く 1 身体機能面から見た理論について、理解を進める。 2 人体の構造と機能をおよび位置関係を専門用語を用いて説明ができる。	講義	
5	こころが動けば、からだは動く 1 身体機能面から見た理論について、理解を進める。 2 人体の構造と機能をおよび位置関係を専門用語を用いて説明ができる。	講義、グループ制学習	
6	こころが動けば、からだは動く 1 身体機能面から見た理論について、理解を進める。 2 上肢帯の構造と機能をおよび位置関係を専門用語を用いて説明ができる。	講義、グループ制学習	
7	こころが動けば、からだは動く 1 身体機能面から見た理論について、理解を進める。 2 上腕骨の構造と機能をおよび位置関係を専門用語を用いて説明ができる。	講義、グループ制学習	
8	筆記試験、まとめ	筆記試験および解説	筆記試験

■受講上の注意

授業中に配布するハンドアウトと配布資料については、ファイリングをすること。

■成績評価の方法

課題への取り組み(10%)、期末筆記試験(90%)を勘案し総合的に評価する。なお、60点未満を不合格とする。

■テキスト参考書など

作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 第3版: 株式会社メジカルビュー

■備考

はさみ、のり、色鉛筆、トレーシングペーパーを準備してください。

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

作業療法概論Ⅱ

講師：四元 祐子、鎌田 浩明

単位数：2単位

時間数：30時間

授業学年：1学年

必修選択：必修

■科目目標

学習目標

「臨床実習の手引き」を元に作業療法学生が実習における、取り組む水準ならびに到達目標について理解する。また、接遇について学び、臨床における円滑な対人関係について学習する。

行動目標

- 1 職業人として常識的態度や責任のある行動、人を思いやり望ましい人間関係を持つことができる能力を身につける。
- 2 臨床実習におけるマナーについて説明し、実践できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	臨床実習とはなんだろう？ 1 臨床実習について 2 目的、現在までの流れ	講義	
2	臨床実習の形態～臨床参加型実習とは～ 1 1年次～4年次までの実習期間と求められる課題や水準について 2 成績評価(ルーブリック評価)について	講義	
3	臨床実習の実際(身体分野) 1 病院や施設での1日の流れ 2 院内における作業療法士の様々な業務	講義	
4	臨床実習の実際(精神分野) 1 病院や施設での1日の流れ 2 院内における作業療法士の様々な業務	講義、実技	
5	円滑な人間関係(身体分野) 1 職員との関係(多職種連携) 2 対象者との関係	講義、グループ学習	
6	円滑な人間関係(精神分野) 1 職員との関係(多職種連携) 2 対象者との関係	講義、グループ学習	
7	リスク管理(身体分野) 1 感染対策 2 患者様に生じる医療事故と防止策(身体面中心) 3 施設の安全確保(整理整頓と掃除) リスク管理(精神分野)	講義、グループ学習、演習	
8	1 感染対策 2 患者様に生じる医療事故と防止策(心理面中心) 3 施設の安全確保(整理整頓と掃除)	講義、グループ学習	
9	実習までの進捗と課題 1 実習施設を調べる(作業療法と施設の特徴を調べる) 2 実習生ガイドの作成※添削まで含まれます	演習	
10	実習までの進捗と課題 1 実習生ガイドの作成(仕上げ) ※デジタルデータにて提出(20点)	演習	
11	職員や指導者との関係を構築する 1 礼節・コミュニケーションの取り方 2 報告連絡相談(ホウレンソウ)と業務で役立つこと 3 追加で必要となる書類を準備する 個人情報保護について	講義、演習	
12	1 電話やメールで気を付けること 2 ハラスメント 3 健康自己管理チェック表 デイリーレポートの記載について	講義、演習	
13	1 クリニカルリーズニングと観察の視点、デイリーノートとの関連について 2 CCSチェックリストの記載について 3 出席簿への捺印	講義、演習	
14	筆記試験(60点)、ふりかえりまとめ	筆記試験(持ち込み可)、解説	
15	実習終了後 1 実習終了後ふりかえりシートの作成(20点)	演習、解説 筆記試験	

■受講上の注意

講義には積極的に参加し、臨床実習の手引きを熟読すること。

■成績評価の方法

筆記試験(60点)、実習生ガイド(20点)、実習終了後のふりかえりシート(20点)合計100点として、60点以上を合格とする。実習生ガイドの作成では提出期限も評定に含まれる。(期限切れの場合には-10点)

■テキスト参考書など

配布資料、臨床実習の手引き

■備考

■実務経験

本教科は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

作業療法概論Ⅲ

講師: 四元 祐子

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

学習目標

「臨床実習の手引き」を元に作業療法学生が実習において、取り組む水準ならびに到達目標について理解する。礼節・礼容について学び、臨床における、円滑な対人関係について学習する。

行動目標

職業人として常識的態度や責任のある行動、人を思いやり望ましい人間関係を持つことができる能力を身につける。

臨床実習におけるマナーについて説明し、実践できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	臨床実習とはなんだろう？ 1 臨床実習とは 2 目的、現在までの流れ	講義	
2	臨床実習の形態、臨床参加型実習とは 1 1年次から4年次までの実習期間と求められる課題や水準について 2 成績評価(ルーブリック評価)について	講義	
3	臨床実習の実際 1 病院や施設での1日の流れ 2 院内における作業療法士の様々な業務	講義	
4	新しい実習形態で学生に求められる態度とプロフェッショナリズム 1 基本的態度ってなあに？ 2 私が思うプロフェッショナルとは？(グループワーク)	講義、演習	
5	円滑な対人関係 1 職員との関係 (IPE・IPW) 2 患者様(対象者様)との関係	講義、演習	
6	円滑な対人関係 1 職員との関係 (IPE・IPW) 2 患者様(対象者様)との関係	講義、演習	
7	リスク管理 1 感染対策 2 患者様に生じる医療事故と防止策(身体面を中心として) 3 患者様に生じる医療事故と防止策(心理面を中心として) 実習までの進捗と課題について(実習生ガイドの作成)	講義、演習	
8	1 前もって施設を調べる 2 実習生ガイドの作成について 3 臨床実習の手引きの利用方法について	講義、演習	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験および課題を100点として、60点以上を合格とする。

課題の提出期限についても評定に含まれる。

■テキスト参考書など

配布資料、臨床実習の手引き

■備考

■実務経験

本教科は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

作業療法リテラシー

講師: 四元 祐子

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

一般教育目標

自身の考えを練り、明確に表現できるようになる。

行動目標

- (1) 自身の考えを整理し、他者へ伝え、情報共有を図ることができる。
- (2) 自身の考えを明確に表現し、レポートやポスターで伝えることができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	イントロダクション(授業内容、流れ、試験方法等について説明) 「記録」について考える	講義・グループ制学習	少人数制のグループ討議を実施。その際、討議へ参加できるように、グループ内でひとり役を設ける。
2	「伝える」について考える	講義・グループ制学習	少人数制のグループ討議を実施。その際、討議へ参加できるように、グループ内でひとり役を設ける。なお、グループ討議でまとめた内容は記録に残してください。 臨床実習Ⅰで作成したデイリーノートを持参してください。
3	デイリーノートを添削しようⅠ	講義・グループ制学習	少人数制のグループ討議を実施。その際、討議へ参加できるように、グループ内でひとり役を設ける。
4	デイリーノートを添削しようⅡ	講義・グループ制学習	少人数制のグループ討議を実施。その際、討議へ参加できるように、グループ内でひとり役を設ける。
5	ポスター作製Ⅰ	講義・グループ制学習	これまで累積した討議内容結果を書いた記録用紙を、持参してください。
6	(1) ルーブリック評価について、理解ができる。 (2) ポスターツアーⅠ: ルーブリック評価を活用することができる。 (3) ルーブリック評価を作成することができる。 (4) レポート提出。	講義・グループ制学習	少人数制のグループ討議を実施。その際、ひとり、ひとりが参加できるように話を聞く態度を意識しながら討議に参加する。
7	レポート添削Ⅰ	講義・グループ制学習	少人数制のグループ討議を実施。その際、ひとり、ひとりが参加できるように話を聞く態度を意識しながら討議に参加する。
8	レポート添削Ⅱ	講義・グループ制学習	少人数制のグループ討議を実施。その際、ひとり、ひとりが参加できるように話を聞く態度を意識しながら討議に参加する。
9	ポスター作製Ⅱ	講義・グループ制学習	これまで累積した討議内容結果を書いた記録用紙を持参してください。
10	(1) ポスターツアーⅡ: ルーブリック評価を活用することができる。 (2) 私たちの作ったルーブリック評価について、振り返る。そして、更なるアップデートを目指すことができる。 (3) レポート提出。	講義・グループ制学習	少人数制のグループ討議を実施。その際、ひとり、ひとりが参加できるように話を聞く態度と他者の発言に対する配慮を意識しながら討議に参加する。
11	スポーツとQOLについて	講義・グループ制学習	少人数制のグループ討議を実施。その際、ひとり、ひとりが参加できるように話を聞く態度と他者の発言に対する配慮を意識しながら討議に参加する。
12	障がい有者の方へのスポーツの支援について考える①	講義・グループ制学習・実技	少人数制のグループ討議を実施。その際、ひとり、ひとりが参加できるように話を聞く態度と他者の発言に対する配慮を意識しながら討議に参加する。
13	障がい有者の方へのスポーツの支援について考える②	講義・グループ制学習	少人数制のグループ討議を実施。その際、ひとり、ひとりが参加できるように話を聞く態度と他者の発言に対する配慮を意識しながら討議に参加する。
14	障がい有者の方へのスポーツの支援について考える③	講義・グループ制学習・実技	少人数制のグループ討議を実施。討議のテーマに対して発言する際、論理的に述べることを意識する。
15	障がい有者の方へのスポーツの支援について考える④	講義・グループ制学習・実技	少人数制のグループ討議を実施。討議のテーマに対して発言する際、論理的に述べることを意識する。

■受講上の注意

■成績評価の方法

毎回の課題、授業への主体的参加態度20%、レポート80%を勘案し総合的に評価する。

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

本教科は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

基礎作業学 I

講師: 鎌田 浩明

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

本科目は作業療法の基礎的な考え方や視点を学ぶための科目であり、以下の項目を学んでゆくものである。

- ①人が行っている作業を分類し、なぜ作業が必要なのかを理解する
- ②作業遂行向上の手段として、作業を用いることの意味を理解する。
- ③作業と動機づけの関係を理解し、治療場面における作業の適応方法について学ぶ
- ④悩みを抱える人の作業療法の特徴を学び、治療する際の心理的配慮について考えることができる
- ⑤作業療法のパラダイムと理論の変化について学ぶ

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	講義概要・評定について 日ごろ行っている作業について考えてもらい、作業の私的定義を作ることができる。	講義・GW	
2	日ごろ行っている作業を作業療法の観点で分類し、クライアントが抱く作業の価値や意味について理解する (PEOモデル)	講義・GW	
3	人は作業的存在であることを理解する。 (作業行動理論とCMOP-E 作業科学について学ぶ)	講義・GW	
4	個人によって行うべき重要な作業がそれぞれ異なることを理解する。(COPMを用いて対象者の作業ニーズを評価する、作業遂行と作業機能障害について)	講義・GW	
5	作業遂行向上の手段として、作業を用いることの意味を理解する。 作業活動を行う(作業活動)	講義・GW	
6	作業活動を行い、作業の心理的効能を学ぶ。 作業における動機づけと、動機づけ理論の諸側面について理解する。	講義・GW	
7	動機づけの治療場面における実際の利用方法について学ぶ。	講義・演習	
8	作業が人の心理に与える影響を知る 心理社会的側面の作業療法の領域について知る	講義	
9	心理社会的問題や精神疾患のクライアントの心理を学ぶ	講義・GW	
10	精神障害領域に対する作業療法の支援方法の基本構造を知る	講義・GW	
11	精神障害領域における作業と作業活動の具体例を知る	講義・GW	
12	作業療法のパラダイムと理論の変化について知る	講義・GW	
13	作業実践モデル 人間作業モデル(MOHO)について	講義・GW	
14	作業実践モデル 人間作業モデル(MOHO)を基盤とした作業適応のダイナミズムについて学ぶ	講義・GW	
15	基礎作業学 I のまとめ 試験 振り返り	講義・筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

記述式の筆記試験(100点)とし60点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

- ①吉川ひろみ: COPM・AMPSスターティングガイド
- ②長崎重信: 作業療法学ゴールドマスターテキスト作業学

■備考

筆記試験の持ち込みは不可とする。

■実務経験

本科目は作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

基礎作業学Ⅱ

講師:花山 友隆、牧迫 美穂子

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

基礎作業学Ⅰに続き、作業療法の専門的な臨床思考の基となる諸モデルを学んでゆく。
(チーム医療で必要となるICFとMTDLPの関係、作業療法士の専門職同士で必要となるCMOP-E、MOHO、作業適応モデル、OTPFなどの包括的な知識を学び、相互関連について学んでゆく。

また実際の臨床場面でひとに影響を与える作業の特徴を分析してゆく方法(作業分析)について学んでゆく。
(身体障害領域のAMPSを用いた作業遂行評価、一般的作業分析と限定的作業分析、精神障害領域の作業分析)

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	チーム医療で必要となるICFとMTDLPの関係 ICFにおける作業療法の力点と他職種との関係性について MTDLPの概要とチーム医療における利用について 作業療法士に求められる「作業の見える化」について	講義・演習	
2	CMOP-E、MOHO、作業適応モデル、OTPFなどの包括的な知識を学ぶ。1	講義・演習	
3	CMOP-E、MOHO、作業適応モデル、OTPFなどの包括的な知識を学ぶ。2	演習・講義	
4	ひとに影響を与える作業の特徴を分析してゆく方法(作業分析)について学んでゆく。 身体障害領域のAMPSを用いた作業遂行評価1	講義・演習	
5	ひとに影響を与える作業の特徴を分析してゆく方法(作業分析)について学んでゆく。 身体障害領域のAMPSを用いた作業遂行評価2	講義・演習	
6	ひとに影響を与える作業の特徴を分析してゆく方法(作業分析)について学んでゆく。 身体障害領域のAMPSを用いた作業遂行評価3	講義・演習	
7	ひとに影響を与える作業の特徴を分析してゆく方法(作業分析)について学んでゆく。 身体障害領域のAMPSを用いた作業遂行評価4	講義・演習	
8	作業療法の分析方法を学ぶ。(一般的作業分析と限定的作業分析について)	講義GW	
9	作業療法の分析方法の実際を学ぶ。 (雑誌のコラージュを用いた作業分析の例)	講義GW	
10	作業療法の分析方法の実際を学ぶ。(雑誌のコラージュを用いた作業分析の例)	講義GW	
11	作業療法の分析方法の実際を学ぶ。(雑誌のコラージュを用いた作業分析の例)	講義GW	
12	参加制約に対する支援1 社会的弱者の暮らしに環境・文化的側面が影響することを学ぶ。	講義GW	
13	参加制約に対する支援2 社会的弱者に対する社会制度を知り利用についての問題を学ぶ。	講義GW	
14	参加制約に対する支援3 社会的弱者に対する社会制度を知り利用についての問題を学ぶ。	講義GW	
15	筆記試験 振り返り	試験、講義	筆記試験のための復習を十分に行うこと。

■受講上の注意

■成績評価の方法

記述式の筆記試験(100点)とし60点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

- ①吉川ひろみ:「作業」ついで何だろう。作業科学入門, 第2版。
- ②吉川ひろみ: COPM・AMPSスターティングガイド
- ③長崎重信: 作業療法学ゴールドマスターテキスト作業学

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

基礎作業学Ⅲ

講師: 玉利 竜二

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

本講義は臨床の作業療法で用いる作業種目の治療的側面について学ぶ科目であり、実技を通じてクライアントへの適応方法(分析・介入)を会得するものである。

以下の項目を主として学ぶ。

- ①作業分析(包括的作業分析と限定的分析)について説明できる
- ②体験した作業活動の特性(構造)を説明できる
- ③体験した作業の治療的側面とその応用について説明できる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	作業のもつ特性と治療的な意味について理解する 作業分析(包括的作業分析、限定的作業分析)について理解する	講義	
2	エコクラフトを体験し、作業特性を理解する。エコクラフトの作業の治療的な意味と活用の仕方について理解する。	講義・実技	
3	エコクラフトを体験し作業特性を理解する。エコクラフトの作業の治療的な意味と活用の仕方について理解する。	実技	
4	エコクラフトを体験し作業特性を理解する。エコクラフトの作業の治療的な意味と活用の仕方について理解する。	講義・実技	
5	ビーズ細工(アイロンビーズ)を体験し作業特性を理解する。	実技	
6	ビーズ細工(アイロンビーズ)の治療的な意味と活用の仕方について理解する。	講義・実技	
7	革細工を体験し作業特性を理解する。	実技	
8	革細工の治療的な意味と活用の仕方について理解する。	講義・実技	
9	これまでの作業種目をを用いて、クライアント・作業活動・セラピストの中で起こる治療構造とその変化について説明できる。	講義・実技	指定の教科書持参
10	これまでの作業種目をを用いて、クライアント・作業活動・セラピストの中で起こる治療構造とその変化について説明できる。	講義・実技	指定の教科書持参
11	組みひもを体験し作業特性を理解する。	講義・実技	指定の教科書持参
12	組みひもの治療的な意味と活用の仕方について理解する。	講義・実技	指定の教科書持参。
13	貼り絵を体験し作業特性を理解すると共に、治療的な意味と活用の仕方について理解する。	講義・実技	
14	これまでの作業種目をを用いて、クライアント・作業活動・セラピストの中で起こる治療構造とその変化について説明できる。	講義・実技	
15	筆記試験および解説	試験	特になし。

■受講上の注意

課題提出は期限厳守。提出できない場合は、理由を報告する。
道具に対するリスク管理を考慮して講義を進める。
(危険物の取扱と物品管理等である)

■成績評価の方法

作品の評価(50%)と筆記試験(50%)で100点とし、60点以上を合格とする。※作品提出の遅れ・未提出については評価の対象外とする。再試験は筆記試験のみとする。

■テキスト参考書など

作業療法学ゴールドマスターテキスト 作業学(改訂第3版)
配布資料を適宜使用予定

■備考

様々な作業を体験しますので、作業実習については汚れても良い服装、動きやすい服装で臨んで下さい

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

基礎作業学Ⅳ

講師：松野下 信三

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

作業活動体験を通じ作業活動分析と作業の治療的応用について学び、作業療法と人々が日々行う様々な作業活動の関係性について理解する。学内で体験できる作業活動を通じて、各作業活動の特徴を理解し、分野や対象に応じた作業活動の選択と対象の個別性に合わせた工夫が出来るようになること。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人と作業療法と作業活動の関係性を理解できる。	講義	指定の教科書持参
2	作業と作業活動、および作業分析を理解できる。	講義・演習	指定の教科書持参
3	陶芸の歴史・作業療法の適応・工程・道具の特性を理解できる。	講義・演習	指定の教科書持参
4	陶芸作業の工程・動作・運動分析を理解できる。	講義・演習	指定の教科書持参
5	各活動種目の手法と応用を実技を通して体験し、作業活動分析を行いレポート作成できる。(陶芸 荒練り・菊練り)	講義・実技	指定の教科書持参
6	成形法(紐作り、玉作り、板作り、轆轤作り、型作り)を理解できる。	講義・実技	指定の教科書持参
7	各活動種目の手法と応用を実技を通して体験し、作業活動分析を行いレポート作成できる。(陶芸 成形 紐作り)①	講義・実技	指定の教科書持参
8	各活動種目の手法と応用を実技を通して体験し、作業活動分析を行いレポート作成できる。(陶芸 成形 紐作り)②	講義・実技	指定の教科書持参
9	各活動種目の手法と応用を実技を通して体験し、作業活動分析を行いレポート作成できる。(陶芸 成形 板つくり)①	講義・実技	指定の教科書持参
10	各活動種目の手法と応用を実技を通して体験し、作業活動分析を行いレポート作成できる。(陶芸 成形 板つくり)②	講義・実技	指定の教科書持参
11	各活動種目の手法と応用を実技を通して体験し、作業活動分析を行いレポート作成できる。(紙細工)	講義・実技	指定の教科書持参 折り紙持参
12	各活動種目の手法と応用を実技を通して体験し、作業活動分析を行いレポート作成できる。(紙細工)	講義・実技	指定の教科書持参 折り紙持参
13	各活動種目の手法と応用を実技を通して体験し、作業活動分析を行いレポート作成できる。(陶芸 施釉)	講義・実技	指定の教科書持参
14	各活動種目の手法と応用を実技を通して体験し、作業活動分析を行いレポート作成できる。(陶芸 施釉)	講義・実技	指定の教科書持参
15	筆記試験、課題提出、講義のまとめと評定	試験	

■受講上の注意

レポート提出は期限厳守。
提出できない場合は、提出日朝一で理由を報告する。
レポートは講義日に取り組む。

■成績評価の方法

レポート(40%)、試験(60%)により総合的に評価する

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

作業療法管理学

講師: 玉利 竜二

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

1. 組織における管理運営方法の基本を理解することができる。
2. 介護・福祉分野におけるリスクマネジメントの基本を知ることができる。
3. アクシデント・インシデントの予防対策の基本を理解することができる。
4. アクシデント・インシデント発生時の対応を理解することができる。
5. 医療保険における作業療法に関連する診療報酬や施設基準を理解することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	授業オリエンテーション	講義資料/講義	
2	多職種連携概要	講義資料/講義, GW	
3	・多職種連携概要 ・VR活用概要	講義資料/講義, GW	
4	VR活用概要	講義資料/講義, GW	
5	・VR × IPE 令和3年度制作コンテンツを使用	VR資料, VR/講義	
6	・VR × IPE 令和3年度制作コンテンツを使用	VR資料, VR/講義	
7	小テスト	講義資料, VR	
8	・作業療法部門の管理・運営について理解する。 ・日本の医療福祉政策について理解する。	講義	
9	・身体障害分野作業療法に係る診療報酬について理解する。	講義	
10	・日本作業療法士協会の職業倫理指針について理解する。 ・医療の倫理について理解する。 ・生涯教育制度(卒後教育への取り組み)について理解する。	講義	
11	・日本作業療法士協会の職業倫理指針について理解する。 ・ハラスメントについて理解する。 ・理学療法士及び作業療法士法と、その他の関連する諸法規について理解する。	講義	
12	・日本作業療法士協会の職業倫理指針について理解する。 ・リスクマネジメントについて理解する。 ・病院・施設におけるリスクと事故防止について理解する。	講義	
13	・日本作業療法士協会の職業倫理指針について理解する。 ・アクシデント・インシデント発生時の対応と賠償について理解する。	講義	
14	まとめ: 関連する国家試験過去問題について学習する。	講義	
15	・筆記試験および解説	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験にて評価する。

■テキスト参考書など

適宜資料を配布する。

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

作業療法評価法 I

講師: 藤田 賢太郎、鶴田 匡範

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 1学年

必修選択: 必修

■科目目標

1. 評価に必要な条件としての「妥当性」と「信頼性」について理解する。
評価に必要な技法としての面接の重要性と、専門的コミュニケーション技術の習得の必要性を理解する。
2. 解剖学にて学習した骨指標や表面解剖的部位を理解することの重要性を実際の検査の演習を通して感じる。
3. 血圧・脈拍測定、面接、形態測定、ROM測定の方法について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	○評価の一般的概念と評価に求められる概念としての信頼性と妥当性について説明できる。	講義	
2	○血圧・脈拍の概念について説明できる。 ○バイタルサインの異常値にどのような意味があるかいくつか例を挙げて説明できる。	講義	
3	○血圧・脈拍測定の方法を再現することが出来る。	演習	
4	○血圧・脈拍測定の方法を再現することが出来る。 ○血圧・脈拍測定実施前に測定内容の説明や測定への協力の同意、結果の説明を行うことが出来る。	演習	
5	○形態測定に必要な骨指標を指すことが出来る。 ○表面から触診可能な代表的な筋を収縮させて確認できる。	演習	メジャーを用意する。
6	○形態測定の方法に従って実施できる。	演習	メジャーを用意する。
7	○血圧・脈拍測定の方法を再現することが出来る。 ○血圧・脈拍測定実施前に測定内容の説明や測定への協力の同意、結果の説明を行うことが出来る。	演習	
8	○血圧・脈拍測定の方法を再現することが出来る。 ○血圧・脈拍測定実施前に測定内容の説明や測定への協力の同意、結果の説明を行うことが出来る。	演習	
9	○形態測定の方法に従って実施できる。	演習	形態測定の方法を各自練習しておく
10	○対象者へのコミュニケーションに必要な技法を実技にて再現できる。	演習	資料で予習しておく
11	○対象者の話に傾聴しながら自然な会話をすることが出来る ○対象者からの質問に対して適切な対応ができる	演習	資料で予習しておく
12	○関節可動域測定は何を計測しているのかを説明できる。 ○関節可動域測定から得られた情報の意味についておおむね判断できる。	演習	関節運動と参考角度の予習しておく
13	○関節可動域測定の信頼性に影響を及ぼす因子について説明できる。	演習	関節運動と参考角度の予習しておく
14	○血圧・脈拍測定の方法を再現することが出来る。 ○血圧・脈拍測定実施前に測定内容の説明や測定への協力の同意、結果の説明を行うことが出来る。	演習	血圧測定の練習をしておく 実技テスト(成績に反映)
15	○形態測定の方法に従って実施できる。	演習	形態測定の練習をしておく 実技テスト(成績に反映)

■受講上の注意

この授業は作業療法遂行時に行う一部の検査・測定方法の練習と得られた測定値の意味を簡単に理解できることを目標としており、対象者に直接触れる内容である。2年次の検査測定実習に連結する内容の始まりである。

■成績評価の方法

実技試験5割(血圧脈拍測定25点、形態測定25点)
筆記試験5割 合計100点満点とする。

■テキスト参考書など

解剖学のテキスト、生理学のテキストを使用する 授業の配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

作業療法評価法Ⅱ

講師: 藤田 賢太郎、鶴田 匡範

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

作業療法臨床場面にて行われる検査測定技術の信頼性・妥当性を考慮した方法を理解する。測定された値の意味について理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	○寝返り、起き上がりの力学的基礎 ・立ち上がりの力学的基礎 ・寝返り、起き上がりの力学的基礎、片麻痺者での各動作の踏きの原因と対処法に関して ・立ち上がり、床からの立ち上がりの力学的基礎、片麻痺者での各動作の踏きの原因と対処法 ○トランスファーの基礎知識	演習	動きやすい服装で参加すること。
2	・トランスファーに関する運動力学的知識、実際の一般的方法について 片麻痺(左右) その他疾患での対処法など ・起き上がり、トランスファーに関して形成評価	演習	動きやすい服装で参加すること。
3	○感覚検査に関して(中枢) ・感覚検査に関して、意義、方法、感覚障害が起こる疾患、感覚障害による対象者のADL上の障害	講義	教科書に記載されている筆、安全ピン(感染上好ましくないことから使い捨て爪楊枝が望ましい)等各自準備すること。
4	○感覚検査に関して(抹消) ・触覚検査あるいは痛覚検査の形成的評価	講義	Two-Point Discriminator、Semmes Weinstein monofilamentを用いる
5	○脳神経検査について 12脳神経の機能についての理解と、評価について	講義・演習	
6	○反射・筋緊張・病的反射に関して 反射・筋緊張・病的反射に関して メカニズム、方法、意義、障害される疾患などADL上の行動障害に関して	講義・演習	
7	○姿勢反射・反応に関して・運動失調に関して ・姿勢反射の発達、責任中枢 立ち直り反応、平衡反応 ・運動失調の種類(脊髄性、小脳性、前庭性)運動失調で起こる症状の概念に関して、実際の検査方法	講義・演習	
8	○片麻痺機能検査に関して 片麻痺機能検査 プルンストロームステージ、上田12グレード法、FMA上肢	講義・演習	
9	○一般的な上肢機能検査について STEF、ARAT、MAL等の片麻痺機能検査の理解と演習	講義・演習	
10	○呼吸機能検査に関して ・呼吸機能・呼吸運動に関して、肋骨の動き、横隔膜の動き、換気量や残気量、%VC、対標準1秒量(%FEV)などについて、閉塞性呼吸障害と拘束性呼吸障害の見方 ・血液ガス(酸塩基平衡)の正常値とアシドーシスとアルカローシスについて	講義・演習	
11	○循環器領域の評価 循環器領域でのリハビリテーション実施におけるリスク管理、運動負荷量の理解、評価について	講義	
12	○摂食嚥下と評価に関して 摂食嚥下の基礎に関して、評価に関して	講義	
13	○ADL・QOLの評価 ADL・QOLに関する評価の手段を学ぶ	講義	
14	○発達領域の評価	講義	
15	筆記試験と解説	試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験による評価とし、上記の内容が十分理解できていること。
60点未満を不合格として、不合格者には2回以内の再試験を行う。

■テキスト参考書など

下田信明・ほか:リハビリテーション基礎評価学第2版. 羊土社. 2019
矢谷令子ほか:標準作業療法学 専門分野作業療法評価学第3版. 医学書院. 2016

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

作業療法評価法Ⅲ

講師: 藤田 賢太郎、鶴田 匡範

単位数: 2単位

時間数: 60時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

作業療法評価で用いる検査・測定にはどのようなものがあるのかを知り、その方法を実技によって学ぶ。
検査結果によって得られた測定値がどのような意味を持つか統合し、より信頼性の得られた結果の解釈について理解を深める。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	○基本動作の評価	演習	動きやすい服装で参加すること。
2	○基本動作の評価	演習	動きやすい服装で参加すること。
3	移乗動作の評価	演習	動きやすい服装で参加すること。
4	○移乗動作の評価	演習	標準型車いすとモジュール型車いすを準備しておく。
5	○感覚機能評価(末梢神経障害領域)	演習	爪楊枝、ティッシュペーパーを準備する
6	○感覚機能評価(末梢神経障害領域)	演習	爪楊枝、ティッシュペーパーを準備する
7	○脳神経機能評価	演習	ティッシュペーパー、爪楊枝、香水、ペンライトを準備する
8	○脳神経機能評価	演習	ティッシュペーパー、爪楊枝、香水、ペンライトを準備する
9	○反射・病的反射・筋緊張の評価	演習	打鍵器を準備する
10	○反射・病的反射・筋緊張の評価	演習	打鍵器を準備する
11	○姿勢反射検査、協調性評価	演習	
12	○姿勢反射検査、協調性評価	演習	
13	○片麻痺機能評価	演習	
14	○片麻痺機能評価	演習	
15	○上肢機能評価	演習	STEF、ARAT、MFTを準備する
16	○上肢機能評価	演習	STEF、ARAT、MFTを準備する
17	○呼吸器機能評価	演習	
18	○呼吸器機能評価	演習	
19	○摂食嚥下機能評価	演習	
20	○摂食嚥下機能評価	演習	
21	○ADL・QOLの評価	演習	

22	○ADL・QOLの評価	演習
23	○循環器機能評価	演習
24	○循環器機能評価	演習
25	○実技試験・フィードバック 上肢機能・反射検査実技試験	実技試験
26	○実技試験・フィードバック 上肢機能・反射検査実技試験	実技試験
27	○実技試験・フィードバック 感覚検査・脳神経検査実技試験	実技試験
28	○実技試験・フィードバック 感覚検査・脳神経検査実技試験	実技試験
29	○実技試験・フィードバック ADL,QOL評価実技試験	実技試験
30	○実技試験・フィードバック ADL,QOL評価実技試験	実技試験

■受講上の注意

基本的にすべての授業を受講すること。授業前に指定された予習課題はきちんと行うこと。基本的に予習を行っていることを前提で授業は行われる。

■成績評価の方法

それぞれの実技試験による評価とし、その平均値によつて総合的に判断する。
各項目について、形成評価を行うが、6割未満の者は実技再試験を実施する。
全項目については、ルーブリック評価を用い、及第点に達する者について単位修得とする。

■テキスト参考書など

下田信明・ほか：リハビリテーション基礎評価学第2版。羊土社。2019
矢谷令子ほか：標準作業療法学 専門分野作業療法評価学第3版。医学書院。2016

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

作業療法評価法Ⅳ

講師：藤田 賢太郎、鶴田 匡範

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

- 1.作業療法評価において関節可動域測定ができるようになるために、関節可動域に関する知識、技能を修得する。
 - 1-1.関節可動域測定の手順を説明できる。
 - 1-2.関節可動域測定時の注意事項を説明できる。
 - 1-3.関節可動域測定の正確性に影響する事項を列挙し、それぞれ説明できる。
 - 1-4.関節可動域測定を実施し、その結果を記録できる。
- 2.作業療法評価において徒手筋力検査ができるようになるために、徒手筋力検査に関する知識、技能を修得する。
 - 2-1.徒手筋力検査の手順を説明できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	肩甲帯の関節可動域測定が実施できる	演習	ゴニオメーター、白衣を準備する
2	上肢の関節の関節可動域測定が実施できる	演習	ゴニオメーター、白衣を準備する
3	前腕・手の関節の関節可動域測定が実施できる	演習	ゴニオメーター、白衣を準備する
4	手指の関節の関節可動域測定が実施できる	演習	ゴニオメーター、白衣を準備する
5	股・膝の関節の関節可動域測定が実施できる	演習	ゴニオメーター、白衣を準備する
6	足の関節の関節可動域測定が実施できる	演習	ゴニオメーター、白衣を準備する
7	頭部・体幹の関節の関節可動域測定が実施できる	演習	ゴニオメーター、白衣を準備する
8	肩甲帯の徒手筋力検査が実施できる	演習	白衣、タオルを準備する
9	肩甲帯の徒手筋力検査が実施できる	演習	白衣、タオルを準備する
10	上肢の徒手筋力検査が実施できる	演習	白衣、タオルを準備する
11	上肢の徒手筋力検査が実施できる	演習	白衣、タオルを準備する
12	前腕・手関節の徒手筋力検査が実施できる	演習	白衣、タオルを準備する
13	手指の徒手筋力検査が実施できる。	演習	白衣、タオルを準備する
14	手指の徒手筋力検査が実施できる。	演習	白衣、タオルを準備する
15	股関節・膝関節の徒手筋力検査が実施できる。	演習	白衣、タオルを準備する

■受講上の注意

事前学習をしていくこと。

■成績評価の方法

筆記試験を実施する。

■テキスト参考書など

ト出版明・ほか：リハビリテーション学基礎評価字第2版。キエ社。2020

中村隆一：基礎運動学。医歯薬出版株式会社。2016

矢谷令子ほか：標準作業療法学 専門分野作業療法評価学第3版。医学書院。2016

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

作業療法評価法Ⅴ

講師: 藤田 賢太郎、鶴田 匡範

単位数: 2単位

時間数: 60時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

1. 作業療法評価において関節可動域測定ができるようになるために、関節可動域に関する知識、技能を修得する。
 - 1-1. 関節可動域の意義と目的を説明できる。
 - 1-2. 運動面と運動軸、拘縮、強直、屈曲拘縮、伸展拘縮について説明できる。
 - 1-3. 関節可動域測定で一般に使われる運動はどのようなものを説明できる。
2. 作業療法評価において徒手筋力検査ができるようになるために、徒手筋力検査に関する知識、技能を修得する。
 - 2-1. 徒手筋力検査で測定している筋力とはどのようなものであるか説明できる。
 - 2-2. 徒手筋力検査の意義と目的を説明できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	関節可動域測定の基礎	講義	
2	肩甲帯の関節可動域測定	講義	
3	前腕・手の関節の関節可動域測定	講義	
4	股・膝の関節の関節可動域測定	講義	
5	頭部・体幹の関節の関節可動域測定	講義	
6	徒手筋力測定の基礎	講義	
7	肩甲帯の徒手筋力測定	講義	
8	前腕・手の徒手筋力測定	講義	
9	股・膝の徒手筋力測定	講義	
10	頭部・体幹の徒手筋力測定	講義	
11	高次脳機能評価の基礎知識	講義	
12	右および左大脳半球病変の高次脳機能評価	講義	
13	側頭葉内側病変、前頭葉病変の高次脳機能評価	講義	
14	認知機能評価	講義	
15	筆記試験と解説	筆記試験	
16			
17			
18			
19			
20			
21			

22

23

24

25

26

27

28

29

30

■ 受講上の注意

基本的にすべての授業を受講すること。授業前に指定された予習課題はきちんと行うこと。基本的に予習を行っていることを前提で授業は行われます。

■ 成績評価の方法

それぞれの実技試験による評価とし、その平均値をよつて総合的に判断する。
各項目について、形成評価を行うが、6割未満の者は実技再試験を実施する。
全項目については、ルーブリック評価を用い、及第点に達する者については単位習得とする。

■ テキスト参考書など

下田信明・ほか：リハビリテーション基礎評価学第2版。羊土社。2019
矢谷令子ほか：標準作業療法学 専門分野作業療法評価学第3版。医学書院。2016

■ 備考

■ 実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

作業療法評価学Ⅵ

講師: 鶴田 匡範、四元 祐子

単位数: 2単位

時間数: 60時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

一般教育目標

(1) 対象者の問題への着眼から捉えた問題を、解決する能力を得る。

(2) 評価および長期臨床実習(以下、臨床実習)前に症例演習を通して、学習した思考ツールを活用した臨床思考を経験する。

行動目標

(1) 症例を通して問題点、病態生理、作業療法の実施を学ぶ。

(2) 知識の獲得と同時に、臨床実習に応用できるように理解できるようになる。

(3) 学習者の思考のついて認知顕在化することを可能とする、思考ツールを選択的に利用できるようになる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	脳血管障害の障害像を理解する。	講義	2年時に学習した脳血管障害を復習しておくこと。
2	脳血管障害急性期の評価について理解する。	講義	教科書・配布資料を事前に読んでおくこと。
3	脳血管障害急性期の症例検討(評価の選択・目標設定・プログラム立案)	講義、GW	教科書・配布資料を事前に読んでおくこと。
4	脳血管障害回復期の評価について理解する。	講義	教科書・配布資料を事前に読んでおくこと。
5	脳血管障害回復期の症例検討(評価の選択・目標設定・プログラム立案)	講義、GW	教科書・配布資料を事前に読んでおくこと。
6	脳血管障害生活期の評価について理解する。	講義	教科書・配布資料を事前に読んでおくこと。
7	脳血管障害生活期の症例検討(評価の選択・目標設定・プログラム立案)	講義、GW	教科書・配布資料を事前に読んでおくこと。
8	脊髄損傷の障害像と評価について理解する。	講義	2年時に学習した脊髄損傷を復習しておくこと。また、教科書・配布資料を事前に読んでおくこと。
9	脊髄損傷の症例検討(評価の選択・目標設定・プログラム立案)	講義、GW	教科書・配布資料を事前に読んでおくこと。
10	パーキンソン病の障害像と評価を理解する。	講義	2年時に学習した、パーキンソン病を復習しておくこと。また、教科書・配布資料を事前に読んでおくこと。
11	パーキンソン病の症例検討(評価の選択・目標設定・プログラム立案)	講義、GW	教科書・配布資料を事前に読んでおくこと。
12	関節リウマチの障害像と評価を理解する。	講義	2年時に学習した、パーキンソン病を復習しておくこと。また、教科書・配布資料を事前に読んでおくこと。
13	変性疾患の障害像と評価を理解する。	講義	2年時に学習した、変性疾患を復習しておくこと。また、教科書・配布資料を事前に読んでおくこと。
14	総復習	講義	
15	筆記試験		

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験(70%)、提出レポート(30%)にて、複数教員の評価となります。

■テキスト参考書など

配布資料

■備考

■実務経験

本教科は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

作業療法評価学Ⅶ

講師：鶴田 匡範、藤田 賢太郎

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

臨床実習において、基本的態度、臨床技能、臨床思考過程の観点から、臨床推論について十分に議論を重ね、作業療法の臨床思考過程を理解することが重要である。これらは、作業療法評価法ⅠからⅥまでに履修した評価の統合と解釈の過程である。

本講義では以下の6つを到達目標とする

1. 作業療法実施に必要な基本的評価項目を挙げられるようになる。
2. (クライアントの状態を考慮した) 評価計画を作成することができる。
3. 計画に沿って評価を遂行でき、得られた情報を記録できる。
4. 評価結果を用いて、問題点を挙げるすることができる(その根拠を患者や医療スタッフに説明できる)。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	授業計画の説明ならびに事例配布	講義・演習	①本事例に必要なと考える評価一貫を作成する。その評価を実施する目的を考える。 ②評価スケジュール(30分×3回分)を作成する。ただし、3回目の評価はADL評価とする。
2	事例に必要なと考える心身機能構造における評価および評価スケジュールの作成	講義・演習	採用した評価の妥当性、スケジュールの実施可能性についてフィードバックを得る
3	計画した評価スケジュールの実施	演習	計画した評価スケジュールに沿って事例に対し評価を行い、結果を記録する。さらに得られた評価結果について考察を加える。
4	計画した評価スケジュールの実施	演習	計画した評価スケジュールに沿って事例に対し評価を行い、結果を記録する。さらに得られた評価結果について考察を加える。
5	実施した評価結果ならびに考察についてフィードバックを得る。	講義・演習	学生は事例評価において良かった点、明らかとなった問題点を整理し、解決策に向けての具体的な行動目標を立案する。
6	ADL領域の評価計画を作成する	講義・演習	ADL評価では「できるADL」を評価する。これまでに起こった心身機能構造の評価結果を活用し、ADL動作を予測する。ADLの評価は、単にできる、できないではなく、
7	採用したADL評価の妥当性、スケジュールの実施可能性についてフィードバックを得る	講義・演習	採用した評価の妥当性、スケジュールの実施可能性についてフィードバックを得る
8	計画したADL評価スケジュールの実施	講義・演習	計画した評価スケジュールに沿って事例に対し評価を行い、結果を記録する。さらに得られた評価結果について考察を加える。
9	評価のまとめと整理、問題点の抽出。ゴール設定。プログラムの立案を行う。	演習	文献検索を行い、よりエビデンスの高い作業療法を実施できるよう留意する。適宜教員によるフィードバックを得る事。
10	評価のまとめと整理、問題点の抽出。ゴール設定。プログラムの立案を行う。	演習	文献検索を行い、よりエビデンスの高い作業療法を実施できるよう留意する。適宜教員によるフィードバックを得る事。
11	抄録作成	演習	学生は各自、評価結果、問題点の整理、ゴール、プログラムの立案をICF形式でA4一枚にまとめる。
12	抄録作成の発表	演習	グループに分かれカンファレンス形式での事例報告を実施する
13	振り返り(課題点、改善点の抽出)	講義	明らかとなった課題について、臨床実習までに取り組む行動目標・実施スケジュールを立案する。
14	実技演習、質問等への対応	講義	評価法Ⅶで明らかとなった課題等についてフィードバック、実技の指導を行う。
15	終講テスト	実技試験	実技試験結果ならびに事例の報告の際の発表点を加味し評価を行う

■受講上の注意

■成績評価の方法

各種形成評価(客観的臨床技能試験)、領域別行動変容(自己評価および教員によるルーブリック評価)を総合的に判断し、60点を及第点とする。

■テキスト参考書など

羊土社：ADL
身体機能作業療法学

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

身体障害 I

講師: 鶴田 匡範

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

- ①脳血管障害のメカニズムと代表的な種類を理解する。
- ②脳血管障害における症状を理解し、その評価項目を理解する。
- ③急性期、回復期、維持期における脳血管障害作業療法の実際を理解する。
- ④頭部障害のタイプとメカニズムを理解し、その評価を理解する。
- ⑤頭髄損傷においてレベル別機能について理解する。
- ⑥頭髄損傷における機能別ADLと装具、福祉機器を理解し選択できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	脳の機能と働きを理解し、症状の判断ができる	講義	脳の機能解剖を復習して頂くこと。ノートまたはファイルの準備を行うこと
2	脳血管障害による神経学的症候が理解できる	講義	配布資料を利用しノートへの書き込みが行えるように準備する
3	脳血管障害の障害像について理解できる	講義	
4	脳神経症状、高次脳機能障害について理解できる	講義	運動学神経系の復習を行うこと
5	脳血管障害の予後について理解できる	講義	配布資料を利用したノートへ予習・復習を行うこと
6	脳血管障害の作業療法について理解できる	講義	
7	頭部外傷のタイプとメカニズムが理解できる	講義	
8	脊髄の機能解剖が理解できる	講義	運動学神経系の復習を行うこと。配布資料を利用しノートへの書き込みが行えるよう準備する
9	頭髄損傷による神経症状と合併症について理解できる	講義	配布資料を利用しノートへの書き込みが出来ること
10	頭髄損傷のキーマッスルと神経支配を理解する	講義	
11	Zancolliの分類とADL・適応装具、福祉機器が理解できる	講義	
12	頭髄損傷における合併症と作業療法について理解できる	講義	
13	頭髄損傷における機能別ADLと作業療法について理解できる	講義	
14	総復習	講義	
15	筆記試験	試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験にて判定する。

■テキスト参考書など

長崎重信: 身体障害作業療法学改訂第2版. メジカルビュー社. 2015
岡庭豊: 病気がみえるvol7脳神経第2版. メディックメディア. 2018

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

身体障害Ⅱ

講師: 四元 祐子、窪 昌和、豊栄 峻

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

整形外科系疾患に対する作業療法の評価からアプローチにおける一連の流れを知り、疾患の特徴にあったアプローチ計画を立案、実施することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	熱傷に対する作業療法について理解できる1	講義・演習	
2	頚椎症性脊髄症に対する作業療法について理解できる1	講義・演習	
3	頚椎症性脊髄症に対する作業療法について理解できる2	講義・演習	
4	熱傷に対する作業療法について理解ができる2	講義・演習	
5	手指屈筋腱、手指伸筋腱に対する作業療法について理解ができる1	講義・演習	
6	手指屈筋腱、手指伸筋腱に対する作業療法について理解ができる2	講義・演習	
7	腱板損傷に対する作業療法について理解できる	講義・演習	
8	手の骨折に関する作業療法について理解できる1	講義・演習	
9	手の骨折に関する作業療法について理解できる2	講義・演習	
10	切断に対する作業療法について理解できる	講義・演習	
11	手の骨折に関する作業療法について理解できる3	講義・演習	
12	手の骨折に関する作業療法について理解できる4	講義・演習	
13	手の末梢神経損傷に関する作業療法について理解できる1	講義・演習	
14	手の末梢神経損傷に関する作業療法について理解できる2	講義・演習	
15	終講試験・まとめ	筆記試験	

■受講上の注意

講義内容によっては、ペーパーペーシェントを利用した授業展開を予定しています。また、義肢装具学で使用した、ノートおよびハンドアウトを準備して頂く場合があります。その際は、事前に案内をいたします。

■成績評価の方法

60点以上を合格とし、60点未満を不合格とします。

■テキスト参考書など

長崎 重信(監修): 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学(第3版). 株式会社メジカルビュー社, 2023.

■備考

■実務経験

本教科は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

身体障害Ⅲ

講師：原田 智晃

単位数：2単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

変性疾患、難病、終末期医療、廃用症候群についての理解を深め、作業療法のターゲットとなる活動と参加、背景因子について学習する。また、各疾患の特徴や二次的障害としての発生機序と障害像を理解し、特有の評価手段の選択、目標設定治療計画、治療実施の方法について理解を深める。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	パーキンソン病の病態生理、医学的治療、パーキンソン病以外のパーキンソン症状をきたす疾患について理解を深める。	講義	
2	パーキンソン病の作業療法患者の具体的支援例、ADL指導、在宅支援について理解を深める①	講義・GW	
3	パーキンソン病の作業療法患者の具体的支援例、ADL指導、在宅支援について理解を深める②	講義・GW	
4	ギラン・バレー症候群の病態生理、診断基準ならび類似疾患について理解を深める。	講義	
5	ギラン・バレー症候群の医学的治療法や作業療法の具体的支援例について理解を深める。	講義・GW	
6	脊髄小脳変性症の病態生理、診断基準ならび医学的治療について理解を深める。	講義	
7	脊髄小脳変性症に対する作業療法の具体的支援例について理解を深める①	講義・GW	
8	脊髄小脳変性症以外に失調症状をきたす疾患について理解する。また、作業療法の具体的支援例について理解を深める②	講義・GW	
9	パーキンソン病や脊髄小脳変性症への作業療法介入において具体的介入をグループワークを通して学ぶ	講義	
10	多発性硬化症の病態生理、医学的治療法について理解を深め、作業療法支援について学ぶ	講義	
11	多発性筋炎・皮膚筋炎の病態生理と作業療法の支援について理解を深める。	講義	
12	筋萎縮性側索硬化症の病態生理、診断基準、医学的治療について理解を深める。	講義・GW	
13	ALSの作業療法やADL指導ならび支援機器、代償学や住環境整備について理解を深める。また、筋ジストロフィーの作業療法の支援について学ぶ。	講義	
14	ターミナルケア(終末期医療と作業療法)について理解を深める。	講義・GW	
15	試験および解説	試験	

■受講上の注意

授業時間数に対し、内容が多岐に渡るため、内科系、解剖学、生理学、運動学の知識を履修しており、学習基礎があることを前提に進めていくため、それら科目の事前学習が望まれる。

■成績評価の方法

授業回数数の2/3以上出席の上、到達目標に挙げた各内容が理解できていること。筆記試験(90%)とグループワークの成果を発表(10%)から総合的に評価する。60%以上を合格とする。

ただし、この比率は授業の進行内容等を含め、若干変更する可能性がある。その場合は授業の中で適宜案内をして周知をする。

■テキスト参考書など

・長崎里信：作業療法学 コールト・マスター・テキスト身体障害者作業療法学改訂第3版、メンカルビュー社、2023

【参考図書】

・田中卓次郎：神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ、メジカルビュー社、2015

■備考

配布資料は適宜

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

身体障害Ⅳ

講師：原田 智晃、小田 辰也

単位数：2単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

内部障害作業療法分野は、生活習慣病が拡大する中、昨今の医療において、作業療法士に対する需要が急速に伸びてきた分野である。
疾患の特性を理解し、作業療法士としての関わり方について学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	呼吸器系の基本構造、生理学について学ぶ	講義	
2	呼吸機能検査と評価について学ぶ	講義	
3	呼吸リハのエビデンス、治療支援について学習する。	講義	
4	疾患別呼吸リハビリテーション(気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患)について事例検討を通して学ぶ	講義	
5	スパイロメリー測定	演習	
6	スパイロメリー測定	演習	
7	疾患別呼吸リハ(拘束性換気障害)について事例検討を通して学ぶ。呼吸器系のまとめ	講義	
8	循環器系の基本構造、生理学について学ぶ	講義	
9	心機能検査と評価について学ぶ	講義	
10	心臓リハ(心筋梗塞、心不全)について学ぶ	講義	
11	心電図の読影	講義・演習	
12	心臓リハのエビデンスについて学ぶ。循環器系のまとめ	演習	
13	糖尿病・腎機能障害に対する作業療法について理解を深める	講義	
14	運動負荷試験について理解を深める。全体のまとめ	講義	
15	筆記試験および解説	試験	

■受講上の注意

内部障害系疾患の作業療法は解剖学、生理学、病理学、基礎運動学を基本として成り立っている分野である。
したがって2年次までの各授業を十分に習得したものであるとして講義が進行していくので、しっかりと復習して授業に臨んでほしい
講義5、6、10、11回目は小田辰也先生担当

■成績評価の方法

授業回数数の2/3以上出席の上、到達目標に挙げた各内容を理解できていること。

さらに筆記試験(100%)を勘案し、60点以上を合格とする。

ただし、この比率は授業の進行内容等を含め、若干変更する可能性がある。その場合は授業の中で適宜案内をして周知をする。

■テキスト参考書など

長崎重信編：身体障害作業療法学。ゴールドマスターテキスト。第3版 2023 株式会社メジカルビュー社

■備考

配布資料は適宜

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

身体障害Ⅴ

講師: 中野 宏治

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

関節拘縮と可動域運動の基本を理解する/関節可動域運動(左片麻痺、肩関節)の方法を理解する
筋力増強運動の基本理論について理解する/筋力増強運動(廃用性筋萎縮、股関節外転筋)の方法を理解する
起立・着座動作の方法を理解する
移乗動作(片麻痺 非麻痺側回り)の方法を理解する
歩行分析と歩行の介入方法を理解する/歩行練習(片麻痺)の方法を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	上肢の各関節の基本構造と関節可動域運動について理解する。	講義	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編(金原出版)p26-36を読むしておくこと。
2	関節可動域運動(OSCE課題 脳梗塞 左片麻痺 肩関節屈曲可動域)の方法をおおむね正確に模倣できるようになる。	演習	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編(金原出版)p32のQRコードの動画を視聴しておくこと。
3	関節可動域運動(OSCE課題 脳梗塞 左片麻痺 肩関節屈曲可動域)の方法を正しく再現できるかどうかを確認する。	演習	P33-34の実技方法について通読し把握しておく 関節可動域運動(OSCE課題 脳梗塞 左片麻痺 肩関節屈曲可動域)の方法を正しく再現できるように練習しておくこと。実習衣着用で臨む。治療室で行う。
4	筋力増強運動の基本と疾患別の筋力増強運動を把握する。	講義	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編(金原出版)p37-46を読むしておくこと。
5	筋力増強運動(OSCE課題 廃用症候群 股関節外転運動)の方法をおおむね正確に模倣できるようになる。	演習	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編(金原出版)p41のQRコードの動画を視聴しておくこと。
6	筋力増強運動(OSCE課題 廃用症候群 股関節外転運動)の方法を正しく再現できるかどうかを確認する。	演習	P42-44の実技方法について通読し把握しておく 筋力増強運動(OSCE課題 廃用性症候群 股関節外転)の方法を正しく再現できるように練習しておくこと。実習衣着用で臨む。治療室で行う。
7	起立・着座動作(OSCE課題 脳梗塞 左片麻痺 起立・着座)の方法をおおむね正確に模倣できるようになる。	演習	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編(金原出版)p174、179のQRコードの動画を視聴しておくこと。
8	起立・着座動作(OSCE課題 脳梗塞 左片麻痺 起立・着座)の方法を正しく再現できるかどうかを確認する。	演習	P180-183までの実技方法について通読し把握 起立・着座動作(OSCE課題 脳梗塞 左片麻痺 起立・着座)の方法を正しく再現できるように練習すること。
9	車椅子からベッドの非麻痺側回りによる移乗動作の手順とポイントを把握する。	講義・演習	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編(金原出版)p187-209を読むしておくこと。実習衣着用で臨む。治療室で行う。
10	移乗(OSCE課題 脳梗塞 左片麻痺 車椅子からベッド 非麻痺側回りの移乗動作)の方法をおおむね正確に模倣できるようになる。	演習	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編(金原出版)p199、203のQRコードの動画を視聴しておくこと。
11	移乗(OSCE課題 脳梗塞 左片麻痺 車椅子からベッド 非麻痺側回りの移乗動作)の方法を正しく再現できるかどうかを確認する。	演習	P204-207までの実技方法について通読し把握 移乗(OSCE課題 脳梗塞 左片麻痺 車椅子からベッド 非麻痺側回りの移乗動作)の方法を正しく再現できるように練習すること。
12	歩行について、片麻痺者における歩行分析と歩行の介入方法について理解する。	講義・演習	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編(金原出版)p231-249までを読んでおくこと。実習衣着用で臨む。治療室で行う。
13	歩行(OSCE課題 脳梗塞 左片麻痺 歩行練習)の方法をおおむね正確に模倣できるようになる。	演習	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編(金原出版)p238、243のQRコードの動画を視聴しておくこと。
14	歩行(OSCE課題 脳梗塞 左片麻痺 歩行練習)の方法を正しく再現できるかどうかを確認する。	演習	P244-245までの実技方法について通読し把握 歩行(OSCE課題 脳梗塞 左片麻痺 歩行練習)の方法を正しく再現できるように練習すること。
15	関節可動域訓練、筋力増強訓練、起立・着座、移乗、歩行の方法、介入のポイント、障害像を理解できているか確認する。	試験とフィードバック	過去に履修した内容に関して復習しておくこと。

■受講上の注意

実際に対象者の介入に関わる演習内容である。真剣に授業に取り組むこと。

■成績評価の方法

試験で評価を行う。6割以上の得点にて単位認定とする。

■テキスト参考書など

PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編(金原出版)

■備考

■実務経験

本教科は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

精神障害 I

講師: 松野下 信三

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

- ①作業療法の対象となる精神障害について、人の健康状態を個人の心身の状態、日常生活活動の状態と制限、社会参加の状態と制限、それらと個人因子や環境因子との相互作用から捉える障害構造と、回復段階に応じたリハビリテーションという立場から、精神の病いと、それに伴う生活障害およびそれらに対する援助の基本を学ぶ。
- ②精神医療の国内外の歴史と作業療法の関係、日本における精神科作業療法の歴史的経過と課題、精神医療におけるリハビリテーションの概念と作業療法との関係などについて理解する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	レポート作成要領・講義受講方法・学習方法を理解できる。障害者と社会の繋がりを理解できる。	講義・DVD	指定の教科書持参
2	偏見差別・カミングアウトとアウトティングについて理解できる。	講義・DVD・GW	指定の教科書持参
3	精神症状を理解できる。	講義	
4	各精神障害・疾患と作業療法援助を理解できる。	講義	
5	各精神障害・疾患と作業療法援助を理解できる。	講義	
6	精神疾患と障害を整理し理解を深める。	試験・講義	
7	ASD(自閉症スペクトラム)とSC(統合失調症)の就労における問題と支援について理解できる。	講義・DVD	指定の教科書持参
8	過換気症候群症例を通じて寛解と完治、様々な寛解の形、服薬と副作用、作業療法支援(評価・ゴール/プログラム設定)を理解できる。	講義・演習	指定の教科書持参
9	リエゾン精神医学・インフォームドコンセント/チョイス・ピアカウンセリングを理解できる。自己評価の相違を理解できる。	講義・演習・GW	指定の教科書持参
10	観察のポイントを知り、患者の常態を踏まえた評価が行えるようになる。	講義・DVD	指定の教科書持参
11	障害者と取り巻く社会についてノーマライゼーションの在り方を理解できる。	講義・DVD	指定の教科書持参
12	双極性感情障害症例を通じて回復過程とフォローアップを理解できる。	講義・演習	指定の教科書持参
13	ファイナルゴールとロングゴール、ICFフローチャートの書き方について理解できる。	講義	指定の教科書持参
14	統合失調症症例①を通じてゴール設定とプログラム作成を体験し理解できる。	講義・演習	指定の教科書持参
15	精神障害に対する援助方法を整理し活用できる。	試験・講義	

■受講上の注意

■成績評価の方法

- ・ペーパー試験による評価(70%)
- ・レポート課題(30%程度)
- ・上記を総合的に判断し、100点満点とし、60点未満を不合格とする。

■テキスト参考書など

- ・精神障害と作業療法: 二輪書店
- ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学
- ・配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

精神障害Ⅱ

講師：鎌田 浩明

単位数：2単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

精神障害作業療法の臨床実践や国家試験に欠かせない、臨床心理学と精神医学の知識についてさらに学んでゆく。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	精神障害者に対する作業療法について(総論) 精神科病院の業務と支援について	講義	
2	精神科での治療概要について学ぶ 薬物療法、環境調整、精神療法、心理社会的療法の特徴を学ぶ	講義	
3	精神(心理)療法とカウンセリング 精神療法の概要と種類について 精神分析療法、認知行動療法、来談者中心療法について	講義	
4	催眠療法、自律訓練法、精神分析療法について (シャルコー、シュルツ、フロイト)	講義	
5	精神分析療法について (フロイト、アンナフロイト、CGユング、アドラー)	講義	
6	認知行動療法(CBT)について1 学習理論・行動療法の基礎と実際の介入について 暴露法、モデリング、SST、心理教育について	講義	
7	認知行動療法(CBT)について2 認知療法の基礎とその実際について 第3世代の認知行動療法(マインドフルネス)とその実際について	講義	
8	来談者中心療法と実際について	講義	
9	その他の精神療法の基礎とその実際について 森田療法、内観療法、短期療法、箱庭療法、芸術療法、ゲシュタルト療法	講義	
10	精神障害作業療法で用いられることがある心理アセスメントについて 心理検査の内訳(パーソナリティ検査、知能検査、作業検査)とその特徴について	講義	
11	精神障害作業療法で用いられることがある心理アセスメントについて 心理検査の内訳(パーソナリティ検査、知能検査、作業検査)とその特徴について 東大式エゴグラム、YG検査、パウムテスト、HTPテスト、田中ビネーテスト、WISC、WAIS、内田クレペリン検査 等	講義・実技	
12	精神障害作業療法で用いることがある尺度について 精神疾患に対する検査(GAF、BPRS)について	講義	
13	精神障害作業療法で用いる心理尺度について 精神疾患別に用いる検査(PANSS、SANS、SAPS、SDS、HAM-D、BACS-J)	講義	
14	精神障害作業療法で用いる心理尺度について 精神科作業療法で用いる検査(LASMI、Rehab、HTP、HTPP、NPI興味チェックリスト、GSES等)について	講義	
15	試験と講義の振り返り	試験	特になし。

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験により60点以上を合格とする

■テキスト参考書など

カフー版徹底図解 臨床心理学 新装出版
作業療法学第3版ゴールドマスターテキスト精神障害作業療法学 メディカルビュー
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価法 第3版 医学書院

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

精神障害Ⅲ

講師：鎌田 浩明

単位数：2単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

精神障害作業療法の実践を学ぶために1. 精神障害作業療法に対する基本的な考えや態度 2. 対象者との関係構築(治療同盟) 3. 対象者を評価するための精神科作業療法の評価と方法 4. 問題点とまとめ(臨床推論) 5. 精神障害領域特有の治療体系と作業の適応 6. 保健福祉や地域移行 について話を進める。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	講義概要・評定について これまでの心理学、臨床心理学、精神医学、精神障害の振り返り 精神障害者の歴史と精神障害作業療法のパラダイムについて	講義・GW	
2	精神障害者に対する治療と作業療法(関連療法、理論・モデルについて) ICD11、DSM-5TR、ICF、来談者中心療法、精神力動的療法スペクトラム、CBT、家族療法、心理教育、WRAP、MOHO、COPM、MTDLP	講義・GW	
3	精神科作業療法の実際 1. 回復状況に応じたリハビリテーションと作業療法について 2. 見学実習の振り返り、施設的环境と設備、1日の流れ(申し送り、リスク管理、作業活動準備、作業活動を用いた介入と関係構築、作業活動終了後の申し送り、POMR)	講義・GW	
4	対象者との関係構築(治療同盟)と評価(インテーク面接、試し参加、情報収集、面接について) インテーク面接における技法(OSCE)	講義・GW	
5	対象者との関係構築(治療同盟)と評価(インテーク面接、試し参加、情報収集、面接について) インテーク面接における技法(OSCE)	講義・GW	
6	インテーク面接における技法(OSCE) 精神科作業療法の評価(心理検査の適応と禁忌、観察技法、ウォッチングリスト、作業面接、構成的作業・投影的作業、作業遂行特性チェックリスト)1	講義・GW	
7	精神科作業療法の評価(心理検査の適応と禁忌、観察技法、ウォッチングリスト、作業面接、構成的作業・投影的作業、作業遂行特性チェックリスト)2 評価(事例を用いた観察とデータ抽出、暮らしの評価について)1	講義・GW	
8	精神科作業療法の評価(心理検査の適応と禁忌、観察技法、ウォッチングリスト、作業面接、構成的作業・投影的作業、作業遂行特性チェックリスト)3 評価(事例を用いた観察とデータ抽出、暮らしの評価について)2	講義・GW	
9	評価(ICFを用いた情報整理と関連付け、臨床推論) 目標設定(長期・短期)とプログラムについて	講義・GW	
10	精神障害領域特有の治療体系と作業の適応(作業の効能、作業種目、作業時間、作業環境、かかわり方、集団の利用)1	講義・GW	
11	精神障害領域特有の治療体系と作業の適応(作業の効能、作業種目、作業時間、作業環境、かかわり方、集団の利用)2	講義・GW	
12	精神障害領域特有の治療体系と作業の適応(作業の効能、作業種目、作業時間、作業環境、かかわり方、集団の利用)3	講義・GW	
13	地域移行支援1 MTDLPを用いた精神科作業療法について1	講義・GW	
14	地域移行支援2 MTDLPを用いた精神科作業療法について2 心神喪失者等医療観察法、障害者総合支援法、就労移行支援、就労継続支援A・B、リワーク	講義	
15	筆記試験および解説	試験	

■受講上の注意

精神科領域の演習や講義の関係上、受講態度や発言に問題のある学生は臨床実習のことを鑑みて講義途中でも離席を命じ以後の受講も認めない場合がある。

■成績評価の方法

受講上の注意の項目に該当した学生は、本試験も認めない場合がある。

筆記試験により評価し、60点以上のものを合格とする。

試験に出題される内容や範囲については、シラバスの範囲以外にも講義中に口頭で述べた部分や配布した資料なども該当する。

■テキスト参考書など

「精神障害作業療法」作業療法 第3版 コールトマスタータキスト メディカルビュー

「精神障害と作業療法新版」三輪書店

「標準心理学療法学・作業療法学 精神医学第4版」医学書院

■備考

テキストを中心に講義を進める。資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

精神障害Ⅳ

講師：鎌田 浩明

単位数：2単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

各疾患に応じた作業療法の具体的な評価や介入についてを学んでゆく

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	講義の概要と評定について 各疾患の振り返り 統合失調スペクトラム症と作業療法について(基礎)	講義	
2	統合失調スペクトラム症の作業療法について(評価)	講義	
3	統合失調スペクトラム症の作業療法(関わり方と作業種目の選定)について	講義	
4	統合失調スペクトラム症の作業療法(急性期・回復期・生活期)について	講義	
5	気分障害(抑うつ症、双極症)の作業療法について	講義	
6	気分障害(抑うつ症、双極症)の作業療法について	講義	
7	気分障害(抑うつ症、双極症)の作業療法について	講義	
8	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害の作業療法について (不安症群、強迫症、心的外傷及びストレス因関連症、解離症、身体症状症)	講義	
9	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害の作業療法について (不安症群、強迫症、心的外傷及びストレス因関連症、解離症、身体症状症)	講義	
10	摂食障害(食行動症及び摂食症)の作業療法について学ぶ	講義	
11	摂食障害(食行動症及び摂食症)の作業療法について学ぶ パーソナリティ障害(パーソナリティ症)の作業療法について学ぶ	講義	
12	パーソナリティ障害(パーソナリティ症)の作業療法について学ぶ 物質使用による障害(アルコール使用症)の作業療法について学ぶ	講義	
13	物質使用による障害(アルコール使用症)の作業療法について学ぶ	講義	
14	てんかんの作業療法について学ぶ	講義	
15	まとめ・筆記試験・講義の振り返り	試験	

■受講上の注意

講義や演習で受講態度や発言及び行動に問題のある学生は、臨床実習のことを鑑みて講義途中でも離席を命じ、以後の受講も認めない場合がある。

■成績評価の方法

受講上の注意の項目に該当した学生は、本試験も認めない場合がある。

筆記試験により評価し、60点以上のものを合格とする。

試験に出題される内容や範囲については、シラバスの範囲以外にも講義中に口頭で述べた部分や配布した資料なども該当する。

■テキスト参考書など

「精神障害作業療法学」作業療法学 第3版 コールトマスターテキスト メディカルビュー

「精神障害と作業療法新版」三輪書店

「標準理学療法学・作業療法学 精神医学第4版」医学書院

■備考

資料プリントは適宜配布する

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

精神障害Ⅴ

講師: 鎌田 浩明

単位数: 1単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

精神科領域の作業療法で用いられる集団を用いた治療法や介入法を学び、実際に体験することで対象者への支援方法を学んでゆく。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	講義概要、評定と課題提示	GW	
2	集団の特性や構造について1 集団活動を活かした作業療法について1	講義	
3	集団の特性や構造について2 集団活動を活かした作業療法について2	講義	
4	集団の特性や構造について3 集団活動を活かした作業療法について3	講義・GW	
5	統合失調症患者に対する心理教育について	講義・GW	
6	統合失調症患者に対するSSTについて	講義・GW	
7	統合失調症患者に対するMCT、SCITについて	講義・GW	
8	躁うつ病、うつ病等の精神的問題や身体的問題に対するWRAPについて	講義・GW	
9	躁うつ病、うつ病等の精神的問題や身体的問題に対するWRAPについて	講義	
10	精神疾患を持つ対象者に対する余暇活動やレクリエーション活動について	GW	
11	課題: 余暇活動プログラムの検討	GW	
12	課題: 余暇活動プログラムの検討	GW	
13	課題: 余暇活動プログラムの検討	GW	
14	課題: 余暇活動プログラムの検討	GW	
15	筆記試験、課題の振り返り	GW	

■受講上の注意

学校行事や臨床実習の関係で講義時間を変更する場合がある。講義や課題では運動できる服装も準備すること。

■成績評価の方法

筆記試験(50点)と課題の計画書作成(50点)で評定をおこなう。
再試験は筆記試験(100点)とし60点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

「精神障害と作業療法 新版」三輪書店
「ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学」メディカルビュー

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

発達障害

講師: 徳留 美智代

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

発達障害に対する作業療法の各実践過程で、必要な知識・技術・態度について理解を深める。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	発達障害の概念①	講義	
2	発達障害の概念②	講義	
3	定型発達の基本概念的の理解	講義	
4	定型発達の基本概念的の理解	講義	
5	定型発達の基本概念的の理解	講義	
6	定型発達の基本概念的の理解	講義	
7	脳性麻痺の疾患および臨床像の特徴の理解①	講義	
8	脳性麻痺の疾患および臨床像の特徴の理解②	講義	
9	筋ジストロフィーの疾患および臨床像の特徴の理解①	講義	
10	筋ジストロフィーの疾患および臨床像の特徴の理解②	講義	
11	NICU対象児に対する作業療法①	講義	
12	NICU対象児に対する作業療法②	講義	
13	発達障害の評価①	講義	
14	発達障害の評価②	講義	
15	試験	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験

■テキスト参考書など

標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学(医学書院)

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

老年期障害 I

講師：鎌田 浩明、原田 智晃

単位数：2単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

超高齢社会を迎えた我が国は、高齢者の働き方や社会参加、地域におけるコミュニティや生活環境の在り方、高齢期に向けた備え等を転換させるための取り組みを行っており、高齢期の作業療法においても医学的な知識だけではなく、対象者の多様な暮らしに着目する視点が求められている。そのため本講義では、高齢者の基盤となる加齢による影響や老年期症候群・認知症などを学ぶとともに、身近な高齢者の暮らしの多様性についても加えて学習を進めていく。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	○オリエンテーション ○講義概要説明、評定について、加齢による一般的特徴を説明できる1	講義	鎌田・原田担当
2	○加齢による一般的特徴を説明できる2	講義	原田担当
3	○加齢による一般的特徴を説明できる3 ○生活不活発病による影響を説明できる	講義	原田担当
4	○高齢期に起こりやすい疾患と対応について説明できる1	講義	原田担当
5	○高齢期に起こりやすい疾患と対応について説明できる2	講義	原田担当
6	○老年期作業療法の目的・役割と機能、考え方を説明できる	講義	原田担当
7	○高齢者の評価と治療について説明できる	講義	原田担当
8	認知症の定義と認知症疾患の特徴を説明できる	講義	鎌田担当
9	認知症疾患の特徴を説明できる	講義	鎌田担当
10	認知症疾患の特徴を説明できる 認知症の評価を説明できる1	講義	鎌田担当
11	認知症の評価を説明できる2	講義	鎌田担当
12	認知症の評価を説明できる3	講義	鎌田担当
13	認知症の治療や支援を説明できる1	講義	鎌田担当
14	認知症の治療や支援を説明できる2	講義	鎌田担当
15	筆記試験と振り返り	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験での評価とする。
2名の教員(50点)を合計した100点で、60点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

松房 利憲 監修：標準作業療法学 専門分野「高齢期作業療法学第4版」、医学書院、2024。その他：配布資料、作業療法概論、総務省・厚生労働省

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

老年期障害Ⅱ

講師：鎌田 浩明、原田 智晃

単位数：2単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

老年期障害Ⅰで学んだ知識をもとに、障害を持つ高齢者の事例を通じながら暮らしの問題と介入のありかたを学ぶ。講義形態はグループワークで事例検討を行う。

1事例は仮想症例をもとにした問題の抽出と整理、介入方法を分析シートに挙げてゆく。(練習問題で評定は無し)

2事例目は臨床実習で経験した事例を参考にしながら分析シートに挙げ、問題点の抽出と整理、介入方法をまとめ発表を行うことで、長期実習での事例報告の基礎を身につける。(評定50点)

3事例は仮想症例をもとにした問題の抽出と整理、介入方法を分析シートに挙げ、問題点の抽出と整理、介入方法をまとめ発表を行う。(評定50点)

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	講義概要、講義の目的、成績評価について グループ分け ○作業療法の臨床推論について ○1事例目：個人での読み込みと分析シートへの記入	講義 GW	課題解決のために積極的に参加すること
2	○1事例目：個人・グループでの読み込みと分析シートへの記入	講義 GW	課題解決のために積極的に参加すること
3	○1事例目：個人・グループでの読み込みと分析シートへの記入	講義 GW	課題解決のために積極的に参加すること
4	○1事例目：グループ代表者による分析シート発表と教員からの模範解説	GW	課題解決のために積極的に参加すること
5	○2事例目：個人の事例課題と検討：事例のまとめ	GW	課題解決のために積極的に参加すること
6	○2事例目：個人の事例課題と検討：事例のまとめ	GW	課題解決のために積極的に参加すること
7	○2事例目：個人の事例課題と検討：事例のまとめ・発表準備	GW	課題解決のために積極的に参加すること
8	○2事例目：個人の事例課題と検討：グループでの発表・質疑応答	GW	課題解決のために積極的に参加すること
9	○2事例目：個人の事例課題と検討：グループでの発表・質疑応答	GW	課題解決のために積極的に参加すること
10	○3事例目：個人・グループでの読み込みと分析シートへの記入	GW	課題解決のために積極的に参加すること
11	○3事例目：個人・グループでの読み込みと分析シートへの記入	GW	課題解決のために積極的に参加すること
12	○3事例目：個人・グループでの読み込みと分析シートへの記入・発表準備	講義	課題解決のために積極的に参加すること
13	○3事例目：個人・グループでの読み込みと分析シートへの記入・発表準備	講義 GW	課題解決のために積極的に参加すること
14	○3事例目：グループでの発表・質疑応答	GW	課題解決のために積極的に参加すること
15	○3事例目：グループでの発表・質疑応答	評価	課題解決のために積極的に参加すること

■受講上の注意

事例を通じた課題解決をおこなうことから、能動的な参加や発言、集団内での交流が必要である。

■成績評価の方法

【本試験】

講義内の3事例のうち2事例の課題で評定を行う。

1事例は仮想症例をもとにした問題の抽出と整理、介入方法を分析シートに挙げる。

■テキスト参考書など

老年期障害や作業療法評価法などの本を各自必要に応じて持参する。

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

高次脳機能障害

講師: 鶴田 匡範

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

1. 高次脳機能障害とは何かを理解することができる。
2. 高次脳機能障害の評価の概要を理解することができる。
3. 高次脳機能障害の各々の特徴・評価・介入方法を理解できる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	高次脳機能障害とは何かを理解できる。	講義	教科書・配布資料を持参し、事前に読んでくこと。
2	高次脳機能障害の評価を理解できる。(流れ)	講義	同上
3	高次脳機能障害の評価を理解できる。(神経心理学的検査)	講義	同上
4	高次脳機能障害の評価を理解できる。(神経心理学的検査)	GW	同上
5	意識・注意・感情の障害への介入を理解できる。	講義・GW	同上
6	意識・注意・感情の障害への介入を理解できる。	講義・GW	同上
7	意識・注意・感情の障害への介入を理解できる。	講義・GW	同上
8	認知の障害への介入を理解できる。	講義・GW	同上
9	言語・記憶・思考の障害への介入を理解できる。	講義・GW	同上
10	言語・記憶・思考の障害への介入を理解できる。	講義・GW	同上
11	行為・行動の障害への介入を理解できる。	講義・GW	同上
12	遂行機能障害への介入を理解できる。	講義・GW	同上
13	社会的行動障害への介入を理解できる。	講義・GW	同上
14	総復習	GW	同上
15	筆記試験と解説		

■受講上の注意

分からないことがあったら、その都度解決すること。

■成績評価の方法

筆記試験(90%)、受講態度(10%)にて総合的に判定する。

■テキスト参考書など

高次脳機能障害作業療法学(MEDECAL VIEW)改定第2版
配布資料

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

義肢装具学 I

講師: 玉利 竜二

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

1. 義手の構成要素と機能を説明することができる。
2. 義手のチェックアウト項目を理解し、標準内容を述べることができる。
3. 下肢装具, 体幹装具, 上肢装具の目的を説明することができる。
4. 上肢装具の機能的分類を説明することができる。
5. 義肢, 装具使用者に対する作業療法の理念と役割を説明することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	義肢総論①義手の歴史, リハビリテーションの流れについて理解する。	講義	
2	義手総論②義手の種類, 義手の部品構成について理解する。	講義	
3	義手総論③最近の練習用仮義手の傾向・療養費関連について理解する。	講義	
4	義手を学ぶ上で必要な医学的知識①基礎医学 ・上肢の解剖と運動 ・上肢切断	講義	
5	義肢を学ぶ上で必要な医学的知識②臨床医学 ・切断・離断術 ・切断術後の断端管理 ・幻肢(幻肢痛) 前腕切断と義手	講義	
6	・義手の役割 ・評価 ・能動義手(体内力源型)	講義	
7	上腕切断と義手 ・能動義手 ・筋電義手	講義	
8	その他の上肢切断と義手 ・肩義手 ・両側義手 ・小児義手 義手のチェックアウト	講義	
9	・チェックアウトとは ・チェックアウトの目的 ・前腕義手のチェックアウト	講義	
10	装具総論 ・装具に関する基礎知識 ・上肢装具 ・下肢装具	講義	
11	装具の作製 ・装具作製の基礎知識 ・装具作製の流れ	講義	
12	疾患・障害別装具: 脳卒中片麻痺(上肢・手指・下肢) ・脳卒中片麻痺の概要 ・症状に応じた装具療法 ・事例紹介	講義	
13	疾患・障害別装具: 手外科疾患 ・手外科疾患における装具作製の目的 ・腱損傷に対する装具療法 ・骨折に対する装具療法	講義	
14	疾患・障害別装具: 関節リウマチ ・関節リウマチの治療環境 ・関節リウマチと変形 ・関節リウマチに対する装具療法	講義	
15	終講試験および解説	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験を実施し、60点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

■備考

■実務経験

義肢装具学Ⅱ

講師：松元 義彦、栗屋 憲治、坂口 卓寛

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

スプリントを中心に上肢装具に関する知識と作業療法士の役割を理解し、代表的なスプリントの製作を経験することで、患者治療に上肢装具を活用できるようになる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	装具用語とスプリントに関連する手の機能解剖について理解できる	講義	
2	スプリントの装着目的、分類、使用される材料と特性について理解できる	講義	
3	上肢の主な障害と使用スプリントを理解できる	講義	
4	スプリントを作成する際に必要な力学的原則について理解できる	講義	
5	スプリント作成における作業療法士の役割、スプリントの製作方法や留意点、処方について理解する	講義	
6	実際の治療場面での応用をスライドにて理解する	講義、スライド	スライド映写準備
7	実際に使用される材料の特性や道具の使用法を理解する	制作実習	養成校準備品：製作用材料、機材 学生準備品：筆記用具、定規、タオル、バスタオル、製作実習にふさわしい服装(体操服など)
8	Ring Type Splintが作製できる	制作実習	養成校準備品：製作用材料、機材 学生準備品：筆記用具、定規、タオル、バスタオル、製作実習にふさわしい服装(体操服など)
9	Ring Type Splint の適合ができる	制作実習	養成校準備品：製作用材料、機材 学生準備品：筆記用具、定規、タオル、バスタオル、製作実習にふさわしい服装(体操服など)
10	掌側Cock-up Splint の型紙採型ができる	制作実習	養成校準備品：製作用材料、機材 学生準備品：筆記用具、定規、タオル、バスタオル、製作実習にふさわしい服装(体操服など)
11	スプリント材を適切に切り取りモデリングの準備ができる	制作実習	養成校準備品：製作用材料、機材 学生準備品：筆記用具、定規、タオル、バスタオル、製作実習にふさわしい服装(体操服など)
12	掌側Cock-up Splint をドレープ法によりモデリングできる	製作実習	養成校準備品：製作用材料、機材 学生準備品：筆記用具、定規、タオル、バスタオル、製作実習にふさわしい服装(体操服など)
13	掌側Cock-up Splint の適合と修正ができる	制作実習	養成校準備品：製作用材料、機材 学生準備品：筆記用具、定規、タオル、バスタオル、製作実習にふさわしい服装(体操服など)
14	掌側Cock-up Splint のストラップ付けができる	製作実習	養成校準備品：製作用材料、機材 学生準備品：筆記用具、定規、タオル、バスタオル、製作実習にふさわしい服装(体操服など)
15	終講試験とまとめ	筆記試験	

■受講上の注意

必要物品の忘れ物がないようにし、私語はしないこと。

■成績評価の方法

終講試験

■テキスト参考書など

配布資料

■備考

配布資料は、講義初日に配布する

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

リハビリテーション関連機器

講師: 原田 智晃

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

日常生活活動において、どのようなリハビリテーション関連機器が使用されているのか把握する。そして身体障害領域において、各疾患別の事例を呈示して、グループでディスカッションを通してどのような機器が適切か理解を深める。(レポート)事例ごとに発表を行い、さまざまな見解を得ることで、機器の利点や欠点など幅広く学ぶ。また、対象者の支援する流れも学ぶ。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	脳血管障害の特徴を知り、リハビリテーション関連機器との関連を学ぶ	講義	事前に配布資料を確認しておくこと
2	疾患別の事例検討(脳血管障害)①	グループワーク	グループワークに備えて必要な教科書を事前に準備すること。また、パソコンの用意も。
3	疾患別の事例検討(脳血管障害)②	グループワーク	グループワークに備えて必要な教科書を事前に準備すること。また、パソコンの用意も。
4	疾患別の事例検討(脳血管障害)③	グループワーク	グループワークに備えて必要な教科書を事前に準備すること。また、パソコンの用意も。
5	レポート課題発表及び解説で理解度を深める	発表および解説	発表練習をしておくこと
6	脊髄損傷の特徴を知り、リハビリテーション関連機器との関連を学ぶ	講義	事前に配布資料を確認しておくこと
7	疾患別の事例検討(頸髄損傷)①	グループワーク	グループワークに備えて必要な教科書を事前に準備すること。また、パソコンの用意も。
8	疾患別の事例検討(頸髄損傷)②	グループワーク	グループワークに備えて必要な教科書を事前に準備すること。また、パソコンの用意も。
9	レポート課題発表及び解説	発表および解説	発表練習をしておくこと
10	関節リウマチの特徴を知り、リハビリテーション関連機器との関連を学ぶ	講義	事前に配布資料を確認しておくこと
11	疾患別の事例検討(関節リウマチ)①	グループワーク	グループワークに備えて必要な教科書を事前に準備すること。また、パソコンの用意も。
12	疾患別の事例検討(関節リウマチ)②	グループワーク	グループワークに備えて必要な教科書を事前に準備すること。また、パソコンの用意も。
13	レポート課題発表及び解説で理解度を深める	発表および解説	発表練習をしておくこと
14	ALSの特徴を知り、リハビリテーション関連機器との関連を学ぶ/試験対策	講義	事前に配布資料を確認しておくこと
15	総合的に理解できているか	筆記試験および解説	全体的に資料の確認

■受講上の注意

■成績評価の方法

グループワーク(レポート15点×4回の60点)、筆記試験(40点)、計100点とし、60点以上で合格とする

■テキスト参考書など

- ・作業療法学全書改訂版3版.10.作業療法技術学2.福祉用具の使い方・住環境整備.
- ・日常生活活動(動作): 医歯薬出版

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

日常生活活動 I

講師: 湯脇 稔

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

人と作業の関係について、日常生活に関する基礎的な知識を整理し、対象者の日常生活を支援する専門家としての視点を学ぶ。また、行為としての前段階として基本動作や移動時の支援技術を高める。

(能力・技能)

- ・作業遂行の課題を根拠に基づいて把握する能力・技能
- ・作業療法の実践に必要な情報を収集・記録する能力・技能

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	日常生活活動の概念と範囲 基本的日常生活活動、広域日常生活活動、手段的日常生活活動、社会生活行為など用語の概念を理解できる。	講義	
2	日常生活活動と障害 国際障害分類と国際生活機能分類の変遷とリハビリテーションにおける基底還元論について説明できる。 日常生活活動のターゲットとなる活動と参加、背景因子について類推することができる。	講義	
3	日常生活活動の評価とは① 評価は何のため、誰のために使うのかを再確認し、還元主義的思考をもとに、ボトムアップ、トップダウンアプローチについて考える。	講義	
4	日常生活活動の評価とは② FIMやBarthel Indexなど、臨床で使われている代表的な評価用紙とその基準について理解を深める。	講義	
5	基本的日常生活活動と運動学 起居動作、移動動作について演習を行う。	演習	ジャージ等動きやすい服装で参加すること。作業療法評価法Ⅲで実施した内容が理解出来ていることが望まれる。
6	応用動作を知る 日常生活行為としての食事、整容、更衣、トイレ、入浴について工程分析し、内的要因、外的要因について考える。	講義	
7	基本的な生活行為における睡眠、栄養 生命維持としての活動について時間軸で考える。	講義	
8	コミュニケーション 言語的、非言語的なコミュニケーションのツールを考える	講義	
9	生活関連活動 広域ADLとしての手段的な側面について理解を深める。つまり、家から外の生活や役割について学ぶ。	講義	
10	日常生活活動と代償機器 福祉用具や代償学について学ぶ。	講義	
11	生活の質、人生の質、プライマリケア 概念と評価法について履修する。	講義	リハビリテーション概論で説明した内容を復習しておくこと。
12	日常生活活動と周辺活動 講義の復習を兼ねて余暇活用や1日の生活の中での個人生活行為と役割について再履修する。	講義	
13	目的と手段の異なり、評価バッテリーの特徴、半構造的面接の捉え方	講義	
14	予備、まとめ	講義	
15	筆記試験および解説		

■受講上の注意

■成績評価の方法

授業回数の2/3以上出席の上、到達目標に挙げた各内容が理解できていること。

さらに参加の程度(10%)、課題提出(20%)、期末筆記試験(70%)などを勘案し、総合的に評価する。

ただし、この比率は授業の進行内容等を含め、若干変更する可能性がある。その場合は授業の中で適宜案内をして周知をする。

■テキスト参考書など

- 1) 柴 喜崇、下田信明: PT・OTビジュアルテキストADL. 羊土社. 2015
- 2) 中村隆一: 基礎運動学第6版補訂. 医歯薬出版株式会社. 2016

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

日常生活活動Ⅱ

講師：鶴田 匡範

単位数：1単位

時間数：30時間

授業学年：3学年

必修選択：必修

■科目目標

脳血管障害の日常生活活動障害に対する治療・介入・指導に必要な基礎的な知識、技能、態度を習得する。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	脳血管障害の障害像を理解できる。	講義	2年時に学習した、脳血管障害について復習しておくこと。
2	脳血管障害の基本動作(寝返り～起き上がり)の特徴を理解できる。(Stage別に)	講義・実技	教科書・配布資料を事前に読んでおくこと。また、実技を伴った授業のため、動きやすい服装で受講すること。
3	脳血管障害の基本動作(寝返り～起き上がり)の援助を理解できる。	講義・実技	同上
4	脳血管障害の移乗動作介助を習得する。	講義・実技	同上
5	脳血管障害のセルフケアの援助を理解できる。	講義・実技	同上
6	脳血管障害のセルフケアの援助を理解できる。	講義・実技	同上
7	脳血管障害のセルフケアの援助を理解できる。	講義・実技	同上
8	脳血管障害のセルフケアの援助を理解できる。	講義・実技	同上
9	脳血管障害のセルフケアの援助を理解できる。	講義・実技	同上
10	脳血管障害のセルフケアの援助を理解できる。	講義・実技	同上
11	脳血管障害のセルフケアの援助を理解できる。	講義・実技	同上
12	脳血管障害のセルフケアの援助を理解できる。	講義・実技	同上
13	脳血管障害症例演習(ADLの目標を考える)。	GW	
14	脳血管障害症例演習(ADLの目標を考える)。	GW	
15	筆記試験と解説		

■受講上の注意

分からないことがあったら、その都度解決すること。

■成績評価の方法

筆記試験(90%)、受講態度(10%)にて総合的に判定する。

■テキスト参考書など

PT・OTビジュアルテキスト ADL
病気が見える(脳・神経)

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

日常生活活動Ⅲ

講師:玉利 竜二

単位数:1単位

時間数:30時間

授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

様々な疾患別の日常生活障害に対する治療・介入・指導に必要な基礎的な知識、技能、態度を習得する。

(能力・技能)

- ・作業遂行の課題を根拠に基づいて把握する能力・技能
- ・作業療法の展実践に必要な情報を収集・記録する能力・技能

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	オリエンテーション, 評価から支援の基本的な流れについて	講義	
2	関節リウマチの疾患の特徴, 機能障害の概要について理解する。	講義	
3	関節リウマチのADL支援①:セルフケア(食事・整容・更衣・入浴・トイレ)について理解する。	講義	
4	関節リウマチのADL支援②:セルフケア(食事・整容・更衣・入浴・トイレ)・IADLについて理解する。	講義	
5	Duchenne型筋ジストロフィーの疾患の特徴, 機能障害の概要について理解する。	講義	
6	Duchenne型筋ジストロフィーのADL支援①:セルフケア(食事・整容・更衣・入浴・トイレ)について理解する。	講義	
7	Duchenne型筋ジストロフィーのADL支援②:セルフケア(食事・整容・更衣・入浴・トイレ)について理解する。	講義	
8	筋萎縮性側索硬化症の疾患の特徴, 機能障害の概要について理解する。	講義	
9	筋萎縮性側索硬化症のADL支援①:セルフケア(食事・整容・更衣・入浴・トイレ)について理解する。	講義	
10	筋萎縮性側索硬化症のADL支援②:セルフケア(食事・整容・更衣・入浴・トイレ)・IADLについて理解する。	講義	
11	呼吸器疾患・心疾患のADL支援について理解する。	講義	
12	人工股関節全置換術後のADL支援について理解する。	講義	
13	パーキンソン病の疾患の特徴・障害の概要について理解する。	講義	
14	パーキンソン病患者のADL支援:セルフケア(食事・整容・更衣・入浴・トイレ)について理解する。	講義	
15	終講試験および解説	筆記試験	

■受講上の注意

■成績評価の方法

授業回数の2/3以上出席の上、筆記試験にて60点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

【教科書】

柴喜崇:PT・OTビジュアルテキストADL第2版 羊土社2022

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

作業療法特論

講師：専任教員全員

単位数：2単位

時間数：30時間

授業学年：4学年

必修選択：必修

■科目目標

①作業療法臨床実習の総まとめである臨床実習Ⅴ(総合実習)に向けた準備性としての臨床実習技能(検査・評価・治療計画立案・具体的治療実施方法・記録・報告等)を学び、習得状況をOSCEを通じ確認の上、不足する技能の補完を行う。

②臨床実習Ⅴでの学びを通じ得た知識・技能をOSCEを通じ確認の上、不足する技能の補完を行う。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	事例の一般的情報や医学的情報、他部門からの情報をもとに評価計画の立案が概ねできる(事例提示、評価計画の立案例の提示)	講義・演習	事前に提示する事例を読んでおくこと。わからない用語や評価項目、結果の解釈については予習しておく。
2	事例の一般的情報や医学的情報、他部門からの情報をもとに行った評価計画の立案を報告、質疑応答し、自身の立案の内容を見直し、修正する。	講義・演習	立案計画を報告できるように、整理しておく。修正後レポートとして提出。(成績に10点分含む)
3	面接の基本技法(うなづき、繰り返し、要約、開放的質問と閉鎖的質問)の確認を行う。	講義・演習	臨床技能とOSCEコミュニケーションと介助・検査測定編の面接技法のページを読んでおく。
4	COPM面接を他学生に実施し、主観的情報を収集することができる。	講義・演習	各自、家族や友人に対して練習をしておく。
5	1回目にて提示された事例の神経学的テスト生体力学的テストを事例の侵襲性や情報の優先度を勘案しながら実施し、イメージを体感し、臨床の場において応用できるよう自信を付ける。	演習	ゴニオメーターや打鍵器、メジャーなどは各自用意しておく。
6	1回目にて提示された事例のADL動作の観察のための道具や場面設定を勘案しながら実際に経験する(洗顔・更衣動作)	演習	タオル(洗顔用)、被りシャツ(トレーナーなど)、前開き衣服(ジッパー、ボタン式、パーカのような類で良い)を持参する。
7	問題点、目標、プログラム立案についての例を示し、事例の情報から立案する。	講義・演習	例は事前に提示しておくので、一見してから望むこと。
8	問題点、目標、プログラム立案内容の発表と質疑応答、フィードバックを数グループ発表し、その都度フィードバック例を提示し、解説を加える。	演習	発表できるよう事前にレジュメなどの資料を作っておくこと。
9	COPM面接を他者に対して円滑に実施できるかどうか確認、フィードバックする。(面接に必要な技術を使いながら事例が持つ主観的な情報を、10分程度で聞き取りする)	テスト	10分強の時間内でCOPM面接が実施できるように練習しておくこと。
10	COPM面接を他者に対して円滑に実施できるかどうか確認、フィードバックする(面接に必要な技術を使いながら事例が持つ主観的な情報を、10分程度で聞き取りする)	テスト	10分強の時間内でCOPM面接が実施できるように練習しておくこと。
11	OSCE、検査測定 脳血管障害事例に対して、必要な生体力学的検査と神経学的検査を25分の時間で行い、記録用紙に収集したデータを記述する。	テスト	25分で検査できるよう練習をしておくこと。記録が正しくできるよう練習しておくこと。
12	OSCE、検査測定 脳血管障害事例に対して、必要な生体力学的検査と神経学的検査を25分の時間で行い、記録用紙に収集したデータを記述する。	テスト	25分で検査できるよう練習をしておくこと。記録が正しくできるよう練習しておくこと。
13	OSCE、検査測定 脳血管障害事例に対して、必要な生体力学的検査と神経学的検査を25分の時間で行い、記録用紙に収集したデータを記述する。	テスト	5分で検査できるよう練習をしておくこと。記録が正しくできるよう練習しておくこと。
14	OSCE、検査測定 脳血管障害事例に対して、必要な生体力学的検査と神経学的検査を25分の時間で行い、記録用紙に収集したデータを記述する。	テスト	5分で検査できるよう練習をしておくこと。記録が正しくできるよう練習しておくこと。
15	筆記テスト(事例の問題点、目標、プログラム立案)	テスト	

■受講上の注意

本科目は臨床実習Ⅴ履修のための事前学習としての位置づけとなる科目である。本科目の履修状況によっては臨床実習Ⅴの遂行に支障が出ることが予測される。十分に習得できるように各々十分に努力すること。

■成績評価の方法

OSCE(検査測定、COPM面接)、筆記試験を行う。事例の評価計画立案レポート点10点、検査測定OSCE30点、COPMのOSCE30点、筆記試験30点、合計100点とし、60点以上合格とする。

■テキスト参考書など

AMP'S・COPMメーターアインクライト

臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編

臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編

■備考

■実務経験

職業関連活動

講師: 四元 祐子

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

1. 人にとって職業とはいかなる意味のある行為なのか、説明することができる。
2. 就労支援に関する理論を学習し、説明することができる。
3. 日本における多様な就労形態と障がい者雇用の現状について、述べることができる。
4. 職業評価方法と留意点について、説明することができる。
5. 就労支援における作業療法士の役割を理解し、説明することができる。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	「職業関連活動」で学習する内容、科目目標について理解を進める。	講義、グループ討議	少人数制のグループ討議を実施。その際、討議へ参加できるように、グループ内でひとり役を設ける。
2	成長する過程での職業選択基準、病気や障がいを抱えて就職活動をするときの思いについて学ぶ。	講義、グループ討議	少人数制のグループ討議を実施。その際、ひとり、ひとりが参加できるように話を聞く態度を意識しながら討議に参加する。
3	前回の引き続き。就労支援に関わる理論について述べるができる。	講義、グループ討議	少人数制のグループ討議を実施。その際、ひとり、ひとりが参加できるように話を聞く態度と他者の発言に対する配慮を意識しながら討議に参加する。
4	日本における多様な就労形態と障がい者雇用の現状について説明することができる。	講義、グループ討議	事前に、教科書26～35ページを読み、わからない単語について調べ学習を進める。
5	日本における障がい者雇用の現状と職業リハビリテーション、就労支援制度について述べるができる。	DVD視聴、グループ討議	少人数制のグループ討議を実施。討議のテーマに対して発言する際、論理的に述べることを意識する。
6	職業リハビリテーションの中で作業療法士が行い、効果が期待できる職業評価内容と留意点が説明できる。	講義、グループ討議	少人数制のグループ討議を実施。グループ発表の際、聴講者へ理解しやすいように伝えるための工夫を求める。
7	就労支援の現場で働く作業療法士の創意・工夫・努力を聴講し、作業療法士の職域と施設間連携について述べるができる。	講義	聴講後、配布資料にアンダーラインを引き、わからない単語に対する調べ学習と理解を進める。
8	終講試験と解説	筆記試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

■受講上の注意

グループ討議が中心となる。討議後は各グループ発表を聴講し、気づいた点、学ぶ点については書き留めること。

■成績評価の方法

課題への取り組み(10%)、グループ討議への参加(10%)、期末筆記試験(80%)を勘案し総合的に評価する。

■テキスト参考書など

日本作業療法士協会(監修):作業療法学全書 改訂第3版 第12巻 作業療法技術学4 職業関連活動. 協同医書出版社, 2009.

■備考

■実務経験

本教科は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

福祉用具学

講師：原田 智晃

単位数：2単位

時間数：30時間

授業学年：2学年

必修選択：必修

■科目目標

福祉用具の基本的な定義、概念、法制度変遷や現行制度を学び、ICFとの関係について理解する。また、作業療法士の役割や福祉用具の適応方法とアセスメント、考えられるリスクまでの一連の流れを理解する。そして、自立支援や介護支援を目的としたさまざまな機器を実際に操作したり、最新の機器の開発例などをビジュアルエイドを通して紹介することで、機器の使用方法や使用性能を理解する。後半では、グループ毎に自助具製作、レポート発表の時間を設け、ディスカッションを通して更に理解を深める。住環境整備の項目においては、基本的な建築基礎知識と作業療法士の役割や、指導での留意点などを学ぶ。(手すり位置・段差解消・有効幅など)

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	1.福祉用具の定義や概念を理解する 2.法制度の変遷や現行制度を理解する 3.ICFとの関係について理解する 4.運用と供給システムについて理解する	講義	事前に資料を確認
2	2.法制度の変遷や現行制度を理解する 7.事故・ヒヤリハットの基本的な考え方、リスクマネジメントを理解する	講義	事前に資料を確認
3	8.起居動作にみられる患者の傾向を理解し治療の効果をもたらす視点と介助、自立を促す視点 9.各ADL動作での代表的な福祉用具を挙げることができ、扱い方も理解する。	講義	事前に資料を確認
4	10.OT場面で使用する治療訓練用機器の種類や扱い方を理解する。 11.車椅子・杖の種類、扱い選定に必要な知識学ぶ	講義	事前に資料を確認
5	9.有効幅について実践を通して理解する	実習	白衣で参加
6	10.治療訓練用機器の取り扱いを実践する。 11.車椅子・杖の取り扱いを実践する。	実習	白衣で参加
7	9.各ADL動作での代表的な福祉用具を挙げることができ、扱い方も理解 12.自助具の概念、種類を学ぶ。 13.建築基礎知識を学ぶ。	講義	事前に資料を確認
8	13.建築基礎知識を学ぶ。 14.コミュニケーション、余暇活動を支援する福祉用具を学び、コミュニケーション技術を見に付ける。 *自助具作成班分けし、グループワーク	講義とGW	事前に資料を確認
9	15.各班グループワーク。自助具レポート作成①	実習	事前に物品をグループごとで購入しておくこと
10	15.各班グループワーク。自助具レポート作成②	実習	発表用やレポート作成に必要なPCはグループごとで準備すること
11	15.各班自助具レポート発表。質疑応答の時間も設け、それぞれの特徴、取り扱い方など、考え方を理解する。安全性・利便性を考慮した自助具を作成し、適切な取り扱い、説明ができる。	発表	発表用のデータ準備、練習をしておくこと
12	解説を通じて理解を深める	講義	レポートを確認しておくこと
13	16.住宅改造における作業療法士の役割が理解できる。	講義	事前に資料を確認
14	17.住宅改造を助言・指導するときの留意点が挙げられる。 *テスト対策の総復習時間も設ける。	講義	事前に資料を確認
15	科目目標が総合的に達成できたかを確認	筆記試験および解説	すべての資料を確認しておくこと

■受講上の注意

資料の事前確認
居眠り私語厳禁
GWは協力をすること

■成績評価の方法

GW30点、筆記70点。60点以上を合格とする

■テキスト参考書など

・作業療法学全書 改訂版3版 10 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備 発行者 木下 攝
・作業療法学ゴールドマスターテキスト第2版 福祉用具学 発行者 鳥羽 清治

■備考

教科書購入ないため、毎回資料配布

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

福祉住環境学

講師: 玉利 竜二

単位数: 4単位

時間数: 60時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■ 科目目標

福祉用具と住環境の関わりを、作業療法士の視点から一連の流れを理解する。そして具体的な介護保険及び障害者総合支援法についても、運用から実際の利用についても学ぶ。後半では、具体的な住環境整備を事例を通して学び、面接での留意点も理解する。最終的には、単位認定試験とともに2級検定試験を合格することを目標とする。

■ 科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	高齢者・障害者を取り巻く社会状況と住環境の関係について理解する。	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
2	介護保険の概要について理解する。	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
3	障害者を取り巻く社会状況と住環境の関係について理解する。	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
4	障害者総合支援法の概要について理解する。	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
5	障害のとらえ方と自立支援のあり方について理解する。	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
6	高齢者リハビリテーションについて学ぶ。	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
7	高齢者・障害者の心身の特性を学ぶ。	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
8	疾患別・障害別にみた不便・不自由と福祉住環境整備の考え方を学ぶ	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
9	高齢者に多い疾患の特徴を理解する①	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
10	高齢者に多い疾患の特徴を理解する②	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
11	高齢者に多い疾患の特徴を理解する③	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
12	相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方について	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
13	整備の基本技術及び実践に伴う知識を学ぶ	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
14	建築基本用語を学ぶ	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
15	各ADL場面での具体的整備を学ぶ	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
16	在宅生活における福祉用具の活用	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
17	生活行為別にみた福祉用具の活用	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
18	中間試験を通して全体の確認	中間試験	
19	中間試験の解説	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
20	法制度の見直し及び、より具体的な関りについても学ぶ	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
21	地域包括ケアと地域リハの必要性とシステムについて学ぶ	講義	事前に資料に目を通しておくこと。

22	模試解説を通して更に理解を深める①	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
23	高齢者における内部障害の特徴を知り、住環境整備のポイントを学ぶ	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
24	模試解説を通して更に理解を深める②		事前に資料に目を通しておくこと。
25	住環境の事例を通じた考え方を学び、介入のポイントを知る	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
26	模試解説を通して更に理解を深める③	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
27	建築図面のルールと読み方を学ぶ	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
28	模試解説を通して更に理解を深める④	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
29	模試解説を通して更に理解を深める⑤	講義	事前に資料に目を通しておくこと。
30	総合的に授業目標が達成できたかを確認する。	筆記試験及び解説	すべての資料に目を通しておくこと。

■受講上の注意

■成績評価の方法

筆記試験。70点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

福祉住環境コーディネーター2級公式テキスト改訂6版

■備考

適宜資料を配布します。

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

生活環境論

講師: 貴嶋 美雪

単位数: 1単位

時間数: 15時間

授業学年: 2学年

必修選択: 必修

■科目目標

衣食住の「住まい」に関することを中心に考える。福祉工学的アプローチにもとづく、ヒトと生活と道具(環境のつながり)に関する理解を深める。具体的には、人間側からの歩み寄りがわずかしか期待できないことを前提とする。支援機器あるいは環境側からの性能を最大限に引き出すことによって、自立生活に支障をきたす人間側の心身機能を補い、これをとりまく人々の健康状態などにも配慮し、居住環境や生活圏を整えてゆく考え方を学ぶ。また、自立支援や介護支援を目的としたさまざまな福祉機器を紹介し、最新の福祉機器の開発事例などを提示することで、機器の使用方法や使用性能を理解する。

- 1) 生活(活動)、環境と機器の関連性についてICFモデルを用いて説明できる
- 2) 障害と環境にあわせた福祉・リハビリテーション関連機器を選択することができる

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	日本と諸外国の家屋の違い、快適な住まいの条件	講義	
2	家庭内事故、高齢者の身体特性	講義	
3	排泄関連用具 ポータブルトイレ、集尿器、バルーン、おむつやリハビリパンツなど臨床で使用される排泄用具について、さらにはケア理論について説明する。	演習	治療室にて行う。 ジャージ等動きやすい服装で参加すること。 事後提出課題あり、授業内で説明する。
4	排泄関連用具 具体的支援例について事例を通して学ぶ。	演習	治療室にて行う。 ジャージ等動きやすい服装で参加すること。 事後提出課題あり、授業内で説明する。
5	住宅改修における基礎知識 事例提示、住宅改修演習 グループワーク、プレゼンテーション準備	講義	配布されたALL LIFEカタログを用いて、対象者に必要な支援機器を選択し、導入する。
6	公的介護保険制度、社会資源の活用ならび福祉機器	講義	福祉住環境学など社会制度についての理解がされていることが望ましい。
7	福祉機器操作演習	演習	治療室にて実施する。
8	各グループからの事例に対する支援について、発表(成績評価)およびその解説	発表	各自発表用の資料を準備し、パソコン、OHC等のOA機器または紙媒体等レジュメを準備する。

■受講上の注意

■成績評価の方法

授業回数の2/3以上出席の上、到達目標に挙げた各内容が理解できていること。
さらに参加の程度(10%)、演習の取り組み姿勢(10%)、課題レポート(20%)、プレゼンテーション内容(60%)などを勘案し、総合的に評価する。
ただし、この比率は授業の進行内容等を含め、若干変更する可能性がある。その場合は授業の中で適宜案内をして周知をする。

■テキスト参考書など

演習では福祉用具カタログALL LIFE等を配布して演習の参考とする。

■備考

■実務経験

本科目は、社会福祉主事として実務経験のある教員による授業である。

地域リハビリテーション論

講師: 藤田 賢太郎

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

- ①地域作業療法の視点を養うために生活障害の捉え方を理解する
- ②地域作業療法の実践過程を示す評価の視点から支援計画まで実践過程の枠組みを理解する
- ③地域作業療法を実践するために、アセスメントからプログラム立案までの実践過程と方法を理解する
- ④生活行為向上マネジメント(以下MTDLP)の利用の仕方を理解する

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	○地域で暮らす障害者の生活を知る ○地域リハビリテーションの概念を理解する ○医学モデルと生活モデルについて理解する	講義	事前配布資料に目を通して
2	○地域での生活障害に対する作業療法のアプローチについて理解する ○生活行為向上マネジメントの概要を学ぶ	講義	
3	○支援のためのニーズ把握について理解する ○MTDLPにおける生活行為の聴き取りについて学ぶ	講義・演習	聴き取り(面接)の演習を行う。基本的な面接の技法・マナー等について復習して
4	○事例検討を通してMTDLPのプロセスと考え方を学ぶ① ○支援計画の作成演習(生活行為聴き取りシート・生活行為アセスメント演習シート)	講義	
5	○事例検討を通してMTDLPのプロセスと考え方を学ぶ② ○支援計画の作成演習(生活行為アセスメント演習シート:合意目標をグループで検討する)	講義・GW	
6	○事例検討を通してMTDLPのプロセスと考え方を学ぶ③ ○支援計画の作成演習(生活行為プラン演習シート:生活行為工程分析からできること、現状では困難なことを検討する)	講義・GW	
7	○事例検討を通してMTDLPのプロセスと考え方を学ぶ④ ○支援計画の作成演習(生活行為向上プラン演習シート:生活行為向上プランの検討)	講義・GW	グループでまとめた生活行為アセスメント演習シート、生活行為向上プラン演習シートの提出する
8	○事例検討を通してMTDLPのプロセスと考え方を学ぶ⑤ ○支援計画のまとめと発表	講義・GW	各グループ10分程度の持ち時間でアセスメント、合意目標、プランについて報告する
9	○事例検討を通して家族への支援や関わり方について理解する	講義・GW	事前配布資料を読んで
10	○事例検討を通して生活機能障害とその評価・アプローチについて理解する	講義・GW	事前配布資料を読んで
11	○地域作業療法を支える制度・社会生活支援について理解する	講義	事前配布資料を読んで
12	○地域作業療法を支える連携について理解する	講義・GW	事前配布資料を読んで
13	○各領域における地域作業療法の実践について知る	講義・GW	事前配布資料を読んで
14	○まとめと総復習	講義	これまでの配布資料をすべてもってくる
15	○筆記試験と解説	筆記試験・講義	

■受講上の注意

グループワークの際は積極的にディスカッションに参加すること

■成績評価の方法

事例報告の発表(20%)および筆記試験(80%)による評価。合計100点満点とし、60点未満を不合格(再試験の対象)とする

■テキスト参考書など

日本作業療法士協会:事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 医歯薬出版株式会社 2015
菊池恵美子・斎藤佑樹:作業療法を観る CBR 2017

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

臨床実習 I

講師:専任教員全員、実習指導者、専任教員全員・実習

単位数:2単位

時間数:90時間

授業学年:1学年

必修選択:必修

■科目目標

- ① 対象者を中心としたリハビリテーションおよび医療・福祉サービスの全体像を理解する。
- ② 施設・組織(リハ・チーム)のなかで作業療法士(部門)の役割と他部門との関係を理解する。
- ③ 対象者との接触を持ち、また治療場面での観察を通して対象者の全体像と問題点を理解する。
- ④ 対象者のリハビリテーションプラン、作業療法プランおよびプログラムの概要を理解する。
- ⑤ 対象者への対応や社会人としての態度など、作業療法士としての基本的態度を学ぶ。
- ⑥ 記録・報告のしかたを学ぶ。
- ⑦ 自分の作業療法士としての適性を確認する。
- ⑧ 作業療法士をめざす学生としてのアイデンティティを高め、視覚的に動機付けることにより2年次からの学習意欲を高める。

■科目内容

■学習のねらい

- ① 病院・施設に入院・入所・通院されている事例の作業療法場面の観察を行うことができる。
- ② リハビリテーション部門に関わる他部門の様子を観察することができる。
- ③ 必要に応じて事例と意思疎通を図り、初対面の他者とのコミュニケーションを繰り返し行える。
- ④ 必要に応じて学内で学んだ知識と臨床場面で起こっていることの関連性を整理するために指導者との質疑応答を行うことができる。
- ⑤ 作業療法士に必要な一般的な資質と考えられる礼節・言動などに関して指導を受ける。
- ⑥ 学生の進捗度合いにより、各臨床実習施設にて経験可能な内容に関して随時経験する。

■方法

方法

臨床見学実習

臨床実習施設に入院あるいは外来通院されている事例を臨床実習指導者の監督の下に担当する。

1 施設1 週間(5 日間)、2 箇所実施する。

実習前準備学習

1 年次実習前までに学修した基礎医学を復習し知識の整理しておく。

実習前オリエンテーションで学んだ個人情報保護法に関する学修を復習しておく。

■学習上の留意点

事例や作業療法士および関連職種の治療に関心を持ち見学し、模倣でき、疑問を持ったら質問するなど積極的に行動する。

■受講上の注意

体調管理をしっかり行う。朝の検温励行。熱発や体調不良時や遅刻・欠席等の報連相は確実に実施。

その他、判断に困る事があれば自分自身で勝手に判断せず、何事も報連相を行う。

記録物は期限厳守(ダブルチェック)し体調自己管理(1日1検)その他は指導者の指示に従って担当

■成績評価の方法

各臨床実習施設の指導者およびスタッフによる臨床実習の到達度あるいは成長点に関する評価内容、得られた臨床実習中の様子などを勘案して作業療法学科内にて総合的に検討し判断する。

■テキスト参考書など

特に定まったものはない。それぞれの臨床実習で必要な参考書などを学生各個人で収集する。もしくは学内において使用した教科書なども参考にする。

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

臨床実習Ⅱ

講師:専任教員全員、実習指導者

単位数:1単位

時間数:45時間

授業学年:2学年

必修選択:必修

■科目目標

- ① 学内で習得した検査測定技術を実際の対象に応用し、慣れる。
- ② 対象を通して、学内で学修した検査測定の重要性・困難性・多様性などを理解し説明することができる。
- ③ 正確かつ信頼性のある検査測定を実際の事例に対して円滑に実施できる能力を身につける。
- ④ 検査測定データの正しい記録・報告ができる。

■科目内容

■学習のねらい

- ① 担当事例のカルテ・画像などからの情報収集ができる。
- ② 担当事例の作業場面・病棟内での生活状況の観察による評価ができる。
- ③ 担当事例への心身の機能的評価ができる。
- ④ ③により得られた結果の妥当性と信頼性を吟味することができる。
- ⑤ 学生の進捗度合いにより、各臨床実習施設にて経験可能な内容に関して随時経験する。

■方法

臨床検査測定実習

臨床実習施設に入院あるいは外来通院されている事例を臨床実習指導者の監督の下に担当する。

1 施設1週間(5日間)実施する。

実習前準備学習

2 年次実習前までに学習した基礎医学・専門基礎医学を復習し知識の整理をしておく

実習前オリエンテーションで学んだ個人情報保護法に関する学習を復習しておく

■学習上の留意点

事例や作業療法士および関連職種の治療に関心を持ち見直し、模倣でき、疑問を持ったら質問するなど積極的に行動する。

■受講上の注意

体調管理をしっかり行う。朝の検温励行。熱発や体調不良時や遅刻・欠席等の報連相は確実に実施。

その他、判断に困る事があれば自分自身で勝手に判断せず、何事も報連相を行う。

記録物は期限厳守(ダブルチェック)し体調自己管理(1日1日)その他は指導者の指示に従って提出

■成績評価の方法

各臨床実習施設の指導者およびスタッフによる臨床実習の到達度あるいは成長点に関する評価内容、得られた臨床実習中の様子などを勘案して作業療法学科内にて総合的に検討し判断する。

■テキスト参考書など

特に定まったものはない。それぞれの臨床実習で必要な参考書などを学生各個人で収集する。もしくは学内において使用した教科書なども参考にする。

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

臨床実習Ⅲ

講師:専任教員全員、実習指導者

単位数:1単位

時間数:45時間

授業学年:3学年

必修選択:必修

■科目目標

- ①臨床実習指導者の指導を受けながら地域社会で生活する利用者の評価、治療計画の立案、具体的治療の実施とその記録、報告、再評価等作業療法士としての一貫した治療行為を習得することができる。
- ②地域リハビリテーションに携わる作業療法士としての管理・運営業務を学ぶことができる。
- ③地域社会で生活する対象者に対するリハビリテーションサービスにおける作業療法の意義を考え、作業療法士の役割と機能を学ぶことができる。
- ④社会人・職業人としての態度を身につけることができる。

■科目内容

■学習のねらい

- ①臨床実習指導者の指導の下、担当事例の情報収集計画を立案し、カルテ・画像や関連スタッフなどからの情報収集ができる。
- ②臨床実習指導者の指導の下、担当事例の家庭生活における生活状況や作業場面の観察による評価ができる。
- ③臨床実習指導者の指導の下、担当事例への面接および家族や主介護者への面接による情報収集ができる。
- ④臨床実習指導者の指導の下、担当事例に必要な評価項目や方法を選択し、検査等を的確に実践し、心身の機能的評価ができる。
- ⑤臨床実習指導者の指導の下、担当事例への①～④からの情報のまとめとICFを用いての生活上の問題点の抽出と整理ができる。
- ⑥担当事例に対するリハビリテーション目標を理解し、作業療法における長期目標および短期目標を臨床実習指導者と共に設定することができる。
- ⑦臨床実習指導者の指導の下、担当事例の作業療法介入計画の立案、介入方法の詳細な設定ができる。
- ⑧必要に応じて家屋調査と家屋改修場面の見学、他部門の見学ができる。

■方法

通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションに関する実習

通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションを利用されている事例を臨床実習指導者の監督の下に担当する。

1週間(5日間)実施する。

実習前準備学習

3年時まで学習した基礎医学・専門基礎医学・作業療法学を復習し知識の整理をしておく。

実習前オリエンテーションで学んだ個人情報保護法に関する学習を復習しておく。

■学習上の留意点

事例や作業療法士および関連職種の治療に関心を持ち見学し、模倣でき、疑問を持ったら質問するなど積極的に行動する。

■受講上の注意

体調管理をしっかり行う。朝の検温励行、熱発や体調不良時や遅刻・欠席等の報連相は確実に実施する。

その他、判断に困る事があれば自分自身で勝手に判断せず、何事も報連相を行う。

記録物は期間満了(2週間)とし体調自己管理としは各自、その他は指導者の指示に従って提出

■成績評価の方法

各臨床実習施設の指導者およびスタッフによる臨床実習の到達度あるいは成長点に関する評価内容、得られた臨床実習中の様子などを勘案して、作業療法学科内に総合的に検討し判断する。

■テキスト参考書など

特に定まったものはない。それぞれの臨床実習で必要な参考書などを学生個人で収集する。もしくは学内において使用した教科書なども参考にする。

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

臨床実習Ⅳ

講師:専任教員全員、実習指導者

単位数:3単位

時間数:135時間

授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

- ①実習施設における作業療法および作業療法士の役割機能を学ぶことができる。
- ②対象者を全体的に把握するために必要な情報収集および評価方法(観察・面接・テスト等)を習得できる。
- ③評価に基づき問題点を提示し、目標(長期および短期)を設定し、さらに治療計画を立案する。
- ④作業療法士としての基本的な態度を習得し、専門職としての向上、充実をはかる。

■科目内容

■学習のねらい

- ①実習施設における作業療法および作業療法士の役割機能を見学し、その一部を体験できる。
- ②担当事例の情報収集計画を立案し、カルテ・画像や関連スタッフなどからの情報収集ができる。
- ③担当事例の作業場面、病棟内での生活状況の観察による評価ができる。
- ④担当事例への面接および家族や主介護者への面接による情報収集ができる。
- ⑤担当事例に必要な評価項目やその方法を選択し、検査等を的確に実践し、心身の機能的評価ができる。
- ⑥担当事例への①～⑤からの情報のまとめとICFを用いての生活上の問題点の抽出と生理ができる。
- ⑦⑥のまとめから、担当事例に対するリハビリテーション目標を理解し、作業療法における長期目標および短期目標を設定することができる。
- ⑧設定した短期目標を達成するための作業療法プログラムを計画することができる。

■方法

臨床評価実習

臨床実習施設に入院あるいは外来通院されている事例を臨床実習指導者の監督の下に担当する。

1 施設3 週間(15 日間)実施する。

実習前準備学習

3 年次実習前までに学修した基礎医学・専門基礎医学・作業療法学を復習し知識の整理をしておく。

実習前オリエンテーションで学んだ個人情報保護法に関する学修を復習しておく。

■学習上の留意点

事例や作業療法士および関連職種の治療に関心を持ち見学し、模倣でき、疑問を持ったら質問するなど積極的に行動する。

■受講上の注意

体調管理をしっかり行う。朝の検温励行。熱発や体調不良時や遅刻・欠席等の報連相は確実に実施。

その他、判断に困る事があれば自分自身で勝手に判断せず、何事も報連相を行う。

記録物は期間限定(デジタル)とし、体調自己管理は1日単位。その他は指導者の指示に従って提出

■成績評価の方法

各臨床実習施設の指導者およびスタッフによる臨床実習の到達度あるいは成長点に関する評価内容、得られた臨床実習中の様子などを勘案して作業療法学科内にて総合的に検討し判断する。

■テキスト参考書など

特に定まったものはない。それぞれの臨床実習で必要な参考書などを学生各個人で収集する。もしくは学内において使用した教科書なども参考にする。

■備考

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

臨床実習Ⅴ

講師:専任教員全員、実習指導者

単位数:18単位

時間数:810時間

授業学年:4学年

必修選択:必修

■科目目標

- ①臨床実習指導者の指導を受けながら対象者の評価・治療計画の立案・具体的治療の実施とその記録・報告・再評価等, 作業療法士としての一貫した治療行為を習得することができる。
- ②作業療法士としての管理・運営業務を学ぶことができる。
- ③対象者に対する総合的リハビリテーションサービスの中における作業療法の意義を考え, 作業療法士の役割と機能を学ぶと共に, 今後進むべき方向・研究テーマを考えることができる。
- ④社会人・職業人としての態度を身につけることができる。

■科目内容

■学習のねらい

- ①担当事例の情報収集計画を立案し, カルテ・画像や関連スタッフなどからの情報収集ができる。
- ②担当事例の作業場面・病棟内での生活状況の観察による評価ができる。
- ③担当事例への面接および家族や主介護者への面接による情報収集ができる。
- ④担当事例に必要な評価項目や方法を選択し, 検査等を的確に実践し, 心身の機能的評価ができる。
- ⑤担当事例への①～④からの情報をまとめとICFを用いての生活上の問題点の抽出と整理ができる。
- ⑥⑤のまとめから担当事例に対するリハビリテーション目標を理解し, 作業療法における長期目標および短期目標を設定することができる。
- ⑦担当事例の作業療法介入計画の立案, 介入方法の詳細な設定ができる。
- ⑧作業療法部門やリハビリテーション部門内での担当事例の初回評価の発表と質疑応答ができる。
- ⑨担当事例に対して計画した作業療法介入を実践できる。
- ⑩担当事例の状態の変化に応じて指導者に指示を仰ぎながら介入計画の修正ができる。
- ⑪担当事例への作業療法介入の効果判定のための再評価を実施できる。
- ⑫必要に応じて自助具や装具などの作成体験を行える。
- ⑬臨床的推論を行うために不足する知識の調査ができる。
- ⑭必要に応じて家屋調査と家屋改修場面の見学, 他部門の見学ができる。
- ⑮作業療法部門やリハビリテーション部門内での担当事例の最終評価の発表と質疑応答ができる。

■方法

臨床総合実習

臨床実習施設に入院あるいは外来通院されている事例を臨床実習指導者の監督の下に担当する。

1指節9週間(45日間)2箇所実施する。

実習前準備学習

4年次実習前までに学修した基礎医学・専門基礎医学・作業療法学を復習し知識の整理をしておく。

実習前オリエンテーションで学んだ個人情報保護法に関する学修を復習しておく。

■学習上の留意点

事例や作業療法士および関連職種の治療に関心を持ち見学し, 模倣でき, 疑問を持ったら質問するなど積極的に行動する。

■受講上の注意

体調管理をしっかり行う。朝の検温励行。熱発や体調不良時や遅刻・欠席等の報連相は確実に実施する。

■成績評価の方法

各臨床実習施設の指導者およびスタッフによる臨床実習の到達度あるいは成長点に関する評価内容, 得られた臨床実習中の様子などを勘案して作業療法学科内にて総合的に検討し判断する。

■テキスト参考書など

特に定まったものはない。それぞれの臨床実習で必要な参考書などを学生各個人で収集する。もしくは学内において使用した教科書なども参考にする。

■備考

■実務経験

本科目は, 作業療法士として実務経験のある教員による授業である。

研究法

講師: 鎌田 浩明

単位数: 2単位

時間数: 30時間

授業学年: 3学年

必修選択: 必修

■科目目標

現代医療は科学的な根拠に基づいた治療や支援が必須であり、作業療法の臨床においても基本的な研究能力が求められている。この講義では研究計画書の作成、それに関連する記述・推測統計学の知識、統計ソフトの実践を学びながら基本的な研究能力を学んでゆく。

■科目内容

回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	講義の概要 評定と課題について 研究の実例	講義	
2	研究とは 実際の研究についてを原著論文から読み取る	講義 演習	
3	研究を開始時のtips 研究疑問の作り方、研究様式の分類、文献レビューの方法について	講義 演習	
4	具体的な文献レビューの行い方と実際 研究倫理と研究計画書について(国際的ガイドライン)	講義 演習	
5	研究における調査とは 調査方法と分類 研究のレベル メタアナリシス RCTと非RCT コホート研究 シングルケース実験法 総説 事例検討 尺度の種類と特徴(連続・離散データ) 実験的研究、横断・縦断研究	講義 演習	
6	統計学について(記述統計学と推測統計学) 記述統計学とデータ処理について(基本統計量)	講義・実技	
7	記述統計学 集団のばらつき 分散について 統計で用いる文字と記号、EXCELを用いた記述統計、文献レビュー	講義・演習	
8	記述統計学 分散と標準偏差 ヒストグラムと正規分布 標準正規分布 EZRを用いた統計処理、文献レビュー	講義・演習	
9	記述統計学 ヒストグラムと正規分布 様々なグラフと適応 様々な分布について 確率密度関数 確率分布関数	講義・演習	
10	推測統計学とは 母集団と標本 不偏性 点推定 区間推定 自由度 仮説検定 第1の過誤 第2の過誤	講義・演習	
11	標本(サンプル数、サンプルサイズ) 検定について(2群の検定)	講義 演習	
12	検定について(2群の検定、3群以上の検定、多重比較法)	講義 演習	
13	検定について(分割票を利用した検定)	講義	
14	相関係数、回帰分析について 様々な統計モデル	講義	
15	まとめ 筆記試験 振り返り	講義	

■受講上の注意

■成績評価の方法

本試験は筆記試験(65点)、課題(35点)の計100点とし60点以上を合格とする。
(課題点は文献レビュー(10点)、研究計画書作成(25点)の計35点とする)
再試験は筆記試験で60点/100点以上を合格とする。

■テキスト参考書など

基礎統計学 I 統計学入門 東京大学出版社

■備考

筆記試験ではテキストや資料の持ち込みを不可とする。

■実務経験

本科目は、作業療法士として実務経験のある教員による授業である。